第 20 回日本の次世代リーダー養成塾

報　告　書

開催日程　2023 年 7 月 2 6 日～8 月 8 日

Index

Contents

	Page
1．第２０回日本の次世代リーダー養成塾を開催して	1
2．主催者からのメッセージ	4
3．開催概要	5
4．講師・講義内容一覧、カリキュラム表	6
5．講義概要	9
6．塾期間における成果・課題や卒塾後の様子	２０
7．塾を支えるスタッフ	２７
8．カリキュラム	３６
9．新型コロナウイルス感染症への対応	４９
10．アジア高校生架け橋＋の留学生との国際交流キャンプ	５０
11．参画自治体の声	５４

【資料】

① 塾生アンケート調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58

② 保護者・学校アンケート調査結果・・・・・・・・・・・・・・・ 68

③ 塾生概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 73

④ 塾生高校一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 74

⑤ クラス担任・学生リーダー及びスタッフ名簿・・・・・・・・・ 75

（巻末）ご協賛・ご協力・助成いただいた皆様・・・・・・・・・・ 77

1．　第 20 回日本の次世代リーダー養成塾を開催して

お蔭様で第 20 回目のリーダー塾を迎えることができました。これまでお世話になりました皆様に心からのお礼を申し上げます。思えば 21 年前、私は慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所で榊原英資教授のもと客員研究員として地方分権研究会で改革派の知事の皆様と多くのプロジェクトに取り組み、その一つが教育でした。「最近の新入社員は粒が小さくなっていて、大志を抱いていない。世界に打って出るような人財を育成しないといけない。株式会社で中高一貫の学校を建学したらどうか」と当時の奥田碩経団連会長ら財界の方々から提案を受けました。

榊原教授は国内外からミスター円の異名を取った財務省財務官で国際金融のプロ。私は香港特派員としてアジア経済を担当するなど 20 年間新聞記者の経験を積んだジャーナリスト。高校の教育現場には携わってきたことはありません。初めから学校経営は無理があるので、まずは全国の高校生にリーダーシップ教育を行うサマースクールはどうかと提案したところ、当時の麻生渡・福岡県知事から福岡に素晴らしい研修施設があると宗像市のグローバルアリーナをご紹介いただきました。そして、福岡、佐賀、大分、東京の経済界の方々や地方自治体から「教育こそ国づくりの根幹」と惜しみなく支援していただき、20 年も継続することができました。

教育をやる以上は少なくても 10 年、次は 20 年と年月を積み重ねていかないと志を同じくする次世代リーダーの輪は広がりません。経ってしまえば無我夢中のうちに卒塾生は 3405 人となり、1 期生は 30 代半ばとなり、日本や世界で夢を追いかけ社会に貢献できるまでになりました。今年のリーダー塾では起業家、政治家、企業の広報で頑張っている卒塾生に初めて講師として登壇してもらいました。最も嬉しい出来事でした。事務局も卒塾生を中心とした大学生で運営をしています。

マレーシアのマハティール元首相は残念ながら今回はマレーシアの統一地方選にぶつかってしまい来日は果せませんでしたが、ビデオメッセージを送ってくださいました。これまでコロナ禍の 2 回の Zoom での講義以外は第 1 回から毎年、グローバルアリーナにいらしています。

「こんなに長い間、リーダー塾が継続できたのはコミュニティ（地方自治体など）に受け入れられているからだ。若い時から世界に立ちはだかる課題を知り、リーダーシップを持つことの大切さを知れば間違った生き方をしない。パンデミック、気候変動、戦争など一か国だけでなく世界中が影響を受ける。この地球で起きている待ったなしの課題に世界の人々は真摯に向かい合い解決しないといけない。リーダー塾はまさに若者たちに適切な知識と、立ち向かうべき課題に取り組む能力を備える教育を行っている。リーダー塾が末永く継続することを期待している」と温かいメッセージを送ってくださいました。

リーダー塾では、日本のみならず世界で活躍する様々な分野の方々に講師をお招きしていますが、多感な高校生たちにとって専門分野の話だけでなく、生き方についても学ぶことで、将来について考えるきっかけとなります。今回は 20 周年記念で日銀の黒田東彦前総裁とタイのタノン・ビダヤ元財務大臣に対談をしていただきました。今後も人生の道標となる講師の方々にいらしていただきたいと思います。

世界 60 カ国の高校生を対象とした交換留学団体（公団）ＡＦＳ日本協会が受託している今年度から始まった文科省補助事業「アジア高校生架け橋プロジェクト＋」でアジアとＧ7 25 カ国・地域から高校留学生 58 人が 11 月下旬に来日。文科省の要請でオリエンテーションの一環として国際交流キャンプを行うこととなり、リーダー塾の 20 期生 30 人が招待され、「ハイスクール・サミット」を開き、安全保障、環境、ジェンダーの 3 分野で地球がどうあるべきか、次世代が果たす役割を討議しました。来年度からもこの国際交流キャンプにはリーダー塾に参加した高校生が選抜されて参加する予定です。

21 回目以降も、進化し続けるリーダー塾でありたい。常にその時代に必要なリーダーシップ教育に邁進したいと今、新たな思いで、リーダー塾の成人式を迎え、誓いを立てています。皆様には変わらぬご支援とご指導を何卒よろしくお願い申し上げます。

日本の次世代リーダー養成塾専務理事・事務局長　加藤暁子

投票

第20回日本の次世代リーダー養成塾

2．主催者からのメッセージ

十倉 雅和　塾長（一般社団法人 日本経済団体連合会 会長）

コロナ禍の中、世界は行き過ぎた資本主義による格差の拡大、地球温暖化による生態系の破壊、保護主義やポピュリズムの台頭による地政学リスクの高まり、民主主義の危機など、多くの問題が顕在化しました。こうした経済や社会の状況を受け、サステイナブルな資本主義への期待が高まっています。私は、市場経済の中に社会性の視点を入れる「ソーシャル・ポイント・オブ・ビュー」が大切であると考えています。

自国だけで対応することのできない地球温暖化、パンデミックに代表される生態系の破壊、人類が制御できなくなる恐れのあるAIなどのデジタル技術に対して、今こそ、国際協調が急務です。コロナ後の時代、わが国は自由・民主主義・人権・法の支配といった価値観を共有できる国々との連携がこれまで以上に必要となります。

次世代のリーダーを目指す皆さんには、世界に目を向けて、地球環境問題など地球市民として解決しないといけない課題に、切磋琢磨をして、高い志を持って、果敢にイノベーティブに挑戦をしていただきたいと思います。まずは、塾で大いに学び、仲間と未来を語り、視野を広げ、たくましい若きリーダーとして、将来、世界を舞台に活躍されることを心から願っています。

「日本の次世代リーダー養成塾」役員等名簿（２０２３年７月１日現在、五十音順）

塾　　長	十倉　雅和	／	一般社団法人日本経済団体連合会会長
塾長代理	榊原　英資	／	一般財団法人インド経済研究所理事長
筆頭理事	服部　誠太郎	／	福岡県知事
理　　事	浅野　史郎	／	土屋総研特別研究員・元宮城県知事
理　　事 （顧問兼務）	麻生　渡	／	元全国知事会会長・ 一般財団法人九州オープンイノベーションセンター最高顧問
理　　事	石原　進	／	九州旅客鉄道株式会社特別顧問
理　　事	伊豆　美沙子	／	福岡県宗像市長
理　　事	川勝　平太	／	静岡県知事
理　　事	岸本　周平	／	和歌山県知事
理　　事	鈴木　直道	／	北海道知事
理　　事	高橋　温	／	三井住友信託銀行株式会社名誉顧問
理　　事	滝　　久雄	／	株式会社ぐるなび取締役会長・創業者 株式会社ＮＫＢ取締役会長・創業者
理　　事	達増　拓也	／	岩手県知事
理　　事	中村　時広	／	愛媛県知事
理　　事	橋田　紘一	／	特定非営利活動法人九州・アジア経営塾理事長兼塾長
理　　事	古田　肇	／	岐阜県知事
理　　事	松尾　新吾	／	九州電力株式会社特別顧問
理　　事	溝上　泰弘	／	株式会社ミズホールディングス代表取締役会長
理　　事	宮下　宗一郎	／	青森県知事
理　　事	宗政　寛	／	株式会社サニックス代表取締役社長
理　　事	山口　祥義	／	佐賀県知事
専務理事 （事務局長兼務）	加藤　暁子		
監　　事	内村　芳郎	／	九州電力株式会社常務執行役員

３．開催概要

１　主催者

日本の次世代リーダー養成塾

塾長：十倉　雅和／一般社団法人日本経済団体連合会会長

２　開催日程

２０２３年７月２６日(水)～８月８日(火)

３　開催・宿泊施設

グローバルアリーナ（福岡県宗像市吉留４６－１）

佐賀県波戸岬少年自然の家（佐賀県唐津市鎮西町名護屋５５８１－１）

福岡県立少年自然の家「玄海の家」（福岡県宗像市神湊１２７６）

※波戸岬少年自然の家には７月 29 日（土）～８月１日（火）の３泊４日で宿泊。

少年自然の家「玄海の家」には８月５日（土）～６ 日（日）の１泊２日で宿泊。

４　塾生

対象：高校生（１年生～３年生）　１５０名

内訳	**参画道県・市推薦枠** （北海道、青森県、岩手県、静岡県、岐阜県、和歌山県、愛媛県 福岡県、佐賀県、福岡県宗像市、沖縄県うるま市）	１２３名
	全国からの一般公募枠	２７名

５　カリキュラム概要

①　各界を代表する講師陣による講義

- **教養系**　（哲学、近現代経済・文明史、医学、科学、芸術など）
  日本や世界を代表する講師が高校生に知的好奇心を湧かせる講義をします。
- **ビジネス系**　（日本企業の強みと弱み、ビジネスのしくみなど）
  世界を相手にビジネスの最先端で日夜活躍する講師が、日本の企業の強みや弱み、ひいては日本の国のあり方を伝えます。
- **国際系**　（国際問題や外交、国連やＮＧＯ活動への理解）
  世界に目を向け、日本人としてのアイデンティティを持ち、国際舞台で活躍できる力をつけます。
- **人間学**　（将来の夢をどう具現化するか、リーダーとしての生き方など）
  人生の先達が２１世紀の日本を背負って立つ人材に必要なことは何かを語ります。

②　講義後のディスカッション

講義終了後にクラス担任の指導のもと、１クラス約２０名によるグループディスカッションを行います。クラス担任は、日本を代表する企業の中堅社員が務めます。

③　プロジェクト型企画「ハイスクール国会」

２週間を通して社会課題の解決に向けた議論を行い、具体案を提言する「ハイスクール国会」を開催します。

④　フィールドトリップ

- 佐賀県立名護屋城博物館にて当時の貴重な資料や遺産を見学し、日本列島と朝鮮半島間の歴史を学びます。
- 宗像大社神宝館で世界遺産である沖ノ島で発掘された国宝（8 万点の一部）などを見学
- 北九州市で株式会社安川電機のロボット製造工場・みらい館の見学でロボットと人間の共生を、北九州市環境ミュージアムでＳＤＧｓについて考えます。

4．講師・講義内容一覧、カリキュラム表

講義日	お名前　お役職　演題	ページ
7/26（水）	榊原（さかきばら）　英資（えいすけ）　(一財)インド経済研究所理事長、元財務省財務官 「アジア通貨危機」	9ページ
7/27（木）	加藤（かとう）　暁子（あきこ）　日本の次世代リーダー養成塾専務理事・事務局長、(公財)ＡＦＳ日本協会理事長 「“Warm Heart Cool Head”で激動の時代を切り拓くリーダーに」	9ページ
	柿田（かきた）　富美枝（ふみえ）　(一社)長崎原爆被災者協議会事務局長 「被爆二世からのメッセージ」	10ページ
7/28（金）	明石（あかし）　康（やすし）　元国連事務次長、(公財)国立京都国際会館理事長 「世界の中の日本―もっと外に開く国に」 “Japan in the world – towards a more open, dynamic country”	10ページ
	山本（やまもと）　太郎（たろう）　長崎大学熱帯医学研究所国際保健学分野教授 「With コロナ～新たな社会の見取り図」	10ページ
	葦津（あしづ）　敬之（たかゆき）　宗像大社宮司 「宗像の世界遺産への取り組みと環境問題」	11ページ
7/29（土）	山口（やまぐち）　祥義（よしのり）　佐賀県知事 「未来につなぐ君たちへ今伝えたいこと」	11ページ
7/30（日）	宮崎（みやざき）　博司（ひろし）　佐賀県立名護屋城博物館学芸課長 「肥前名護屋城と名護屋城博物館」	11ページ
	李（り）　鳳宇（ぼんう）　映画プロデューサー、マンシーズエンターテインメント代表、(株)スモモ代表取締役、日本大学芸術学部映画学科講師 「映画で日本の将来を考えよう」	12ページ
	佐橋（さはし）　亮（りょう）　東京大学東洋文化研究所准教授 「世界の人々の平和と繁栄をどうすれば実現できるのか？」	12ページ
	笠谷（かさや）　和比古（かずひこ）　国際日本文化研究センター名誉教授 「徳川家康の政治理念」	12ページ
7/31（月）	沈（ちん）　壽官（じゅかん）　薩摩焼 15 代 「伝統を守り現代を表現する」	13ページ
8/1（火）	網岡（あみおか）　健司（けんじ）　八幡東田まちづくり連絡協議会会長、（株）エックス都市研究所参与 NPO 法人里山を考える会理事、(一財)産業遺産国民会議理事 「世界進化遺産　八幡東田ものがたり」	13ページ
8/2（水）	村田（むらた）　慎二郎（しんじろう）　国境なき医師団日本(MSF:Medec ins Sans Frontieres)事務局長 「Leadership is not a Position. Leadership is an Action.」	13ページ
	村岡（むらおか）　浩司（こうじ）　(株)一平ホールディングス代表取締役社長 「ローカルからの新しい価値を生み出そう」	14ページ

8/3 **（木）**	**佐々木（ささき）　久美子（くみこ）**　(株)グルーヴノーツ代表取締役会長 **「高校生が知っておくべきテクノロジーのインパクト」**	14 ページ
	川原（かわはら）　尚行（なおゆき）　認定 NPO 法人ロシナンテス理事長 **「究極の医療とは？～内戦のスーダンで考える～」**	14 ページ
	稲冨（いなとみ）　幹也（みきや）　(株)エムスタイルジャパン代表取締役社長 **「ツバメの巣で世界を変える」**	15 ページ
8/5 **（土）**	**川勝（かわかつ）　平太（へいた）**　静岡県知事 **「富士山と天皇」**	15 ページ
8/6 **（日）**	**黒田（くろだ）　東彦（はるひこ）**　前日本銀行総裁　×　**タノン・ビダヤ**　タイ元財務大臣 **対談「20 年後の日本と世界はこうなる～次世代リーダーが果たす役割」**	16 ページ
	滝（たき）　久雄（ひさお）　(株)ぐるなび取締役会長・創業者、(株)ＮＫＢ取締役会長・創業者 **芦川（あしかわ）　泰彰（やすあき）**　(株)ロボカル代表取締役社長 **井口（いのくち）　剛志（つよし）**　(株)ベンナーズ代表取締役社長 **対談「20 年後の日本に夢を描く～起業家からの提言」**	17 ページ
	小林（こばやし）　洋子（ようこ）　宇宙航空研究開発機構(JAXA)監事、(株)三菱 UFJ 信託銀行社外取締役監査等委員 (株)大林組社外取締役 **柴田（しばた）　春奈（はるな）**　(株)ロート製薬広報・CSV 推進部、(一社)VENTURE FOR JAPAN **崎山（さきやま）　佐穂（さほ）**　福岡県篠栗町議会議員 **対談「女性が変える 20 年後の世界」**	18 ページ
	中山（なかやま）　真（しん）　日本経済新聞社 Nikkei Asia 編集長 **「ニュースを伝える文章の力」**	19 ページ
8/7 **（月）**	**宮川（みやがわ）　眞喜雄（まきお）**　前内閣国家安全保障局国家安全保障参与 **「歴史を読め。科学を学べ。危機を予知し、皆を率いて対処せよ。日本のために、そして我々のアジアのために」**	19 ページ
	岸本（きしもと）　周平（しゅうへい）　和歌山県知事 **「20 年後の日本とあなたとふるさとの未来」**	19 ページ

第20回　日本の次世代リーダー養成塾　カリキュラム表（2023年7月26日～8月8日）

敬称略

日目	日程	内容（6:00～23:00、時間順）
1	7/26（水）	受　付 / 入塾式 / 榊原 英資 塾長代理 / 夕食 / スタッフ紹介 施設紹介 委員会・コロナ対策説明 / 就寝準備 / 就寝
2	7/27（木）	朝食 / オリエンテーション・目標設定 / HR / 加藤 暁子 日本の次世代リーダー養成塾専務理事・事務局長 / ハイスクール国会 概要説明 / 昼食 / 柿田 富美枝 長崎原爆被災者協議会事務局長 / レポート / ハイスクール国会 / 委員会 / 夕食 / ハイスクール国会 / 就寝準備 / 就寝
3	7/28（金）	朝食 / 掃除 / 書禅 / ハイスクール国会 / 明石 康 元国連事務次長 / レポート / 昼食 / 山本 太郎 長崎大学熱帯医学研究所国際保健学分野教授 / レポート / 葦津 敬之 宗像大社宮司 / レポート / 佐賀行きオリエンテーション / 夕食 / HR / 就寝準備 / 就寝
4	7/29（土）	佐賀 / 掃除・荷物移動 / 朝食 / 移動（メートプラザ佐賀へ） / 山口 祥義 佐賀県知事 / レポート / 弁当昼食 / 移動（波戸岬少年自然の家へ） / 荷物移動 / 入所式 / ハイスクール国会（AFS留学生との交流を兼ねて） / 夕食 / HR / 就寝準備 / 就寝
5	7/30（日）	佐賀 / 朝食・掃除 / 移動 / 宮崎 博司 名護屋城博物館学芸課長 / レポート / 名護屋城博物館見学 / 弁当昼食 / 映画鑑賞 / 李 鳳宇 映画プロデューサー / 佐橋 亮 東京大学東洋文化研究所准教授 / 笠谷 和比古 国際日本文化研究センター名誉教授 / 移動 / 夕食 / HR / 就寝準備 / 就寝
6	7/31（月）	佐賀 / 朝食・掃除 / ハイスクール国会 中間発表準備 / 沈壽官 薩摩焼15代 / レポート / 昼食 / クラス担任によるキャリア教育 / ハイスクール国会 中間発表 / 夕食 / HR / 荷物準備 / 就寝準備 / 就寝
7	8/1（火）	佐賀 / 朝食 / 掃除・荷物移動 / 移動 / 北九州市環境ミュージアム見学 / 移動 / 弁当昼食 / 宗像大社・神宝館見学 / 移動 掃除・荷物移動 / 朝食（軽食）・移動 / 安川電機見学 / 移動 / 弁当昼食 / 宗像大社・神宝館見学 / 移動 HR / 荷物移動 / 夕食 / HR / 就寝準備 / 就寝
8	8/2（水）	朝食 / 掃除 / 書禅 / クラス担任によるキャリア教育 / 村田 慎二郎 国境なき医師団事務局長 / レポート / 昼食 / 村岡 浩司 一平ホールディングス社長 / レポート / ハイスクール国会 / 夕食 / HR / 就寝準備 / 就寝
9	8/3（木）	朝食 / 掃除 / 書禅 / ハイスクール国会 / 佐々木 久美子 グルーヴノーツ会長 / レポート / 昼食 / 川原 尚行 NPO法人ロシナンテス理事長 / レポート / 稲冨 幹也 エムスタイルジャパン社長 / レポート / 夕食 / HR / 就寝準備 / 就寝
10	8/4（金）	朝食 / 掃除 / 書禅 / ハイスクール国会 / 昼食 / 発表準備 / ハイスクール国会 最終発表 / 玄海の家行きオリエンテーション / 夕食 / HR / 就寝準備 / 就寝
11	8/5（土）	玄海の家 / 荷物移動 / 朝食・掃除 / 移動（玄海の家へ） / 荷物移動 / 入所式 / ハイスクール国会 / 昼食 / 卒塾生によるキャリア教育 / 川勝 平太 静岡県知事 / レポート / 夕食 / HR / 就寝準備 / 就寝
12	8/6（日）	玄海の家 / 掃除 / 朝食 / 移動（GAへ） / ハイスクール国会発表 / タノン・ピダヤ タイ元財務大臣 × 黒田 東彦 前日本銀行総裁 / 20周年感謝の集い / 20周年記念パーティー（卒塾生参加） / 昼食 / 滝 久雄 ぐるなび会長・NKB会長 × 芦川 泰彰 ロボカル社長 × 井口 剛志 ベンナーズ社長 / 小林 洋子 宇宙航空研究開発機構（JAXA）監事 × 柴田 春奈 ロート製薬・VENTURE FOR JAPAN × 崎山 佐穂 福岡県篠栗町議会議員 / 中山 真 Nikkei Asia 編集長 / 夕食 / 荷物移動 / HR / 就寝準備 / 就寝
13	8/7（月）	朝食・掃除 / 書禅 / 宮川 眞喜雄 前国家安全保障参与 / レポート / 岸本 周平 和歌山県知事 / レポート / 昼食 / 目標宣言 / HR / 夕食 / 卒塾前夜祭 / 就寝準備 / 就寝
14	8/8（火）	掃除 / 朝食 / 掃除確認 / 片づけ確認 / 卒塾式 / 挨拶など / 記念撮影 / 歓談 / 帰路へ

5．講義概要

日本のみならず世界で活躍する 30 人の講師陣にご講義いただいた。20 周年を機に卒塾生にも講師になっていただいた。塾生たちにとって、リーダーとしてあるべき姿を学ぶ貴重な時間となった。

（講義順）

榊原　英資　**一般財団法人インド経済研究所理事長、元財務省財務官**

「アジア通貨危機」

プライスウォーターハウスクーパーズ によると、2000 年から 2050 年は「アジアの時代」としている。これは、中国やインドがアメリカを抜いて GDP トップになるとの予想からアジアがリーダーシップをとる時代がやってくるからである。「アジアの時代」と世界から脚光を浴びるようになったのは、簡単に実現したことではなく、90 年代後半のアジア通貨危機という大きな危機を乗り越えたことで、アジア各国・地域が成長を加速させたからだ。

20 世紀までの欧米による「成長世紀」からアジアの「成長世紀」に移行しつつあるということが言える。今後は、中国・インド・ASEAN 諸国・日本が大きく台頭し、世界経済を引っ張っていくことになるだろう。とりわけインドの成長が大きな鍵を握るだろう。アジアの成長率のうち最も高いのはインドである。中国や日本では高齢化が進む一方で、インドは約 6 割が 25 歳以下という若い人口構成になっている。日本が成長し続けていくためにもインドとの関係が重要になってくると考えている。

講義の感想

- ■ 今後はアメリカや中国といった大国と呼ばれる国より全方位的な外交をしていて，人口構成が若いインドが台頭すると予測されており，今後も注視していきたいと思いました。
- ■ 日本もアジア危機の時に各国に多額の資金提供をし、AFM 構想を考えていたと知り、昔から、日本はアジア経済の重要な立ち位置を占めており、アジアと日本の協力関係は今後、より強力になり、世界的な経済市場になるのだろうと思いました。

加藤　暁子　**日本の次世代リーダー養成塾専務理事・事務局長、公益財団法人ＡＦＳ日本協会理事長**

「“Warm Heart Cool Head”で激動の時代を切り拓くリーダーに」

“Warm Heart” と“Cool Head” とは、ケインズの師であり近代経済学の祖と言われるアルフレッド・マーシャルの言葉である。43 歳でケンブリッジ大学政治経済学部教授に就任した時に「冷静な頭脳と温かい心を持ち、社会的な困難と格闘するために最良な力を傾けようとする人財を増やすように最善を尽くす」と挨拶した。 まさにリーダーたる者、他者のことを常に考えて行動することが重要である。

今日、世界ではウクライナとロシア、イスラエルとパレスチナの戦争、ミャンマーやシリアなどの内戦激化、ヨーロッパの難民問題、地球温暖化による気候変動問題、日本では高齢化問題など、国内外で様々な問題が起こっている。その中で、これからのリーダーとして必要な能力とは、グローバルな視点を持ち、多文化的な課題を一つ一つ分析して解決する力、つまり自分と違う異文化を理解することが問われている。コミュニケーション能力を身につけることが必要である。このような時代には、いかに一人一人が社会的責任感をいかに養い、貢献する心を自然に持てるようにして実践に移すことが重要だ。

混沌とした時代を生き抜くには、心身ともに健康、好奇心を持ち、多くの先人の本を読み、マニュアルだけに頼らないこと。リーダーは一歩先を見て、何が必要かを瞬時に思い描き、着実に実行する能力が必要である。

講義の感想

- ■ 私は今まで、周りに対して感謝を伝えたり、相手に対するリスペクトを体で表すことに気を遣っていませんでした。身近にいる人ほど感謝を伝えるのを怠っていたことに気づき、自分にできていなかったことを知る良い機会になりました。
- ■ リーダーになるためには、自分のことよりも相手のことを第一に考え、自分を犠牲にしてでも行動、実行しなければならない。そうしなければリーダーにはなれないということを講義から学びました。自分のことは二の次にして、自分の人生を世のため、人のために尽くすものにし、周りから信頼されるリーダーになりたいです。

柿田　富美枝　一般社団法人長崎原爆被災者協議会事務局長

「被爆二世からのメッセージ」

戦争は多くの人の命を奪ってしまう。長崎市の原爆投下では３人に１人が亡くなった。病院などはほとんど原爆で破壊され、学校やお寺が救護場所となった。被爆者は 10 年間放置され、長く苦しい日々が続いた。長崎市内一帯が炎に包まれていたと話す母の被曝体験を実際に聞いた。母は、生き残ったことを負い目に感じ、「戦争ほど怖いものはない、絶対にしてはいけない」と娘の自分に何度も話した。原爆投下は人口密集地に落とす予定であったが、天候が悪く北部に落とされた。もし中心部が晴れていたら、母は亡くなり、自分は生まれていなかった。亡くなった人たちに変わり、平和を訴えたい。

被爆者の中には亡くなってしまった人や、その後、癌などの病気を抱え想いを伝えられない人が多い。被爆者が高齢化する中で、彼らの思いや願いを被曝二世として伝えていきたい。「今日の聞き手は明日の語り手」。被曝二世の会を立ち上げ、原爆の被害者として活動をしている。

講義の感想

- ■ 原爆のことを受け身で学んでいくだけではなく、署名活動や講義で学んだことを自分で発信するなど、積極的に平和にかかわっていく姿勢が求められているということを知り、実践していきたいです。
- ■ 被爆者は放置され、どこへ行っても差別されたということを高校生の私たちが勉強して正しい知識や歴史を学ばなければならないと思いました。

明石　康　元国連事務次長、公益財団法人国立京都国際会館理事長

「世界の中の日本―もっと外に開く国に」
“Japan in the world – towards a more open, dynamic country”

日本はまだ十分に世界に開けていると言えないため、より競争力を高めるべきである。国全体が開けるためには、私たち一人一人がオープンになる必要がある。他国では、ほとんどの人々が最低でも３ヵ国語を話すが、日本人にマルチリンガルな人は少ない。明治時代、近代化した当初に思い描いていたほど、現在の日本は十分に国際的ではない。その当時に比べて留学することは簡単にできるので、海外の大学へ進学する学生が増えることを願っている。

パンデミック後、多くの外国人が様々な国から日本を訪れている今、最も重要なことは言語ではなく、互いを理解しようとする意志である。そして、お互いに尊敬し合うことであり、次世代の若者はコミュニケーションをより円滑に行えるよう他の文化や哲学を学ぶことが重要である。また、私たちは平和を考える上で戦争の解決に向けて、一国の基準ではなく世界の基準で決断をしなければならない。アジア諸国、特に日本は世界の基準に慣れていくことが求められる。

講義の感想

- ■他人と他国のステレオタイプ化は避けるべきだという話が心に残りました。ステレオタイプ化してしまうとその人やその国のことを詳しく知ることができないので、グローバルな視野をもって実践していきたいです。
- ■日本人に求められるのはコミュニケーション能力であると考えていましたが、実際はまずチャレンジ精神が必要であると先生に気づかされました。誰もが躊躇なく挑戦していける社会になるよう、私自身も考えていきたいです。

山本　太郎　長崎大学熱帯医学研究所国際保健学分野教授

「With コロナ～新たな社会の見取り図」

ハイチの地震や東日本大震災、ウクライナとロシアの戦争に伴う難民への支援に並びにウイルスへの研究とそれらの共生方法を模索し続けている。新型コロナウイルスは、他の多くのウイルス同様に野生動物由来のものであり、今回のパンデミックは、道路やダムの建設などの人間と野生動物の関係に変化を及ぼす行動や距離を見直す機会となった。

また、歴史上「神の意思」と見做されていた感染症は、現代社会では情報伝達技術の発展から拡大の速度が変化しているため、それらの情報技術を手段としてどのように扱うかを考えることが重要である。さらに、感染症に伴うワクチン格差、パンデミックへの対処法、差別や偏見、そして黙食やマスクの着用によって失ったものを見直す必要がある。人間の身体は、抗生物質の過剰使用により体内のウイルスや細菌が減少し、健康に被害を及ぼすことが判明しているため、私たちは突如現れるウイルスに対して、共生する方法を考える時期に来ているのかもしれない。

講義の感想

- ■ ウイルスを根絶することはできないので、ウイルスと「共生」「共存」し、上手く折り合いをつけていくことが大切だと思いました。１つの物事も味方によって変わるため、自分の思い込みや主観にとらわれず多くの視点から物事を見ることの大切さを感じました。
- ■「使命感はなく、したいことを全てしている」という言葉に衝撃を受け、自分自身がしたいと思っていた「人を助けることのできる大人」になり、職業につなげたいと思いました。

葦津　敬之　**宗像大社宮司**

「宗像の世界遺産への取り組みと環境問題」

天照大神の三女神を祀る地として日本神話に登場する宗像大社。宗像の地は日本で初めて海外向けに開国をした土地でもあり、海に馴染みのある土地として、栄えてきた。しかし、近年の気候変動の影響により海水温の上昇・磯焼け・漁獲量減・海洋ごみなどの問題を抱えている。宗像の海を守るために宗像国際環境会議を設立した。ここでは、神々の棲む海、神が鎮まる海。神々しい海を取り戻すことを目的として、「常若」（とこわか）という言葉を大切にしながら、中高生向けのプログラムや海岸清掃などを行っている。宗像国際環境会議では、常若の定義は決まっておらず、今後、回を重ねるごとに定義を決めていこうとしている。その他、宗像大社と同様に世界遺産に登録されている富士山と連携して、海の神殿と山の神殿として共同声明を出している。地球上において海の変化は大きな問題であり、この問題を解決していく第一歩として、価値観の転換をしていく必要がある。

講義の感想

■　「常若」というキーワードは、初めて聞いた単語で、これまで自分の中になかった新しい世界の環境問題への観点を見つけることができました。新しい環境問題に対する考え方として自分の中に取り入れていこうと思いました。

■　ビーチクリーンなどの政策に加えて様々なジャンルの環境問題に対する政策をされていて、私も問題に固定概念をもつのではなく柔軟にどうしたら解決できるか考えられるようになりたいと思いました。

山口　祥義　**佐賀県知事**

「未来につなぐ君たちへ今伝えたいこと」

佐賀県に合宿誘致した世界水泳選手権出場のオーストラリア選手団が、車でなく徒歩で移動する姿から環境問題に対する意識を世界基準で考えさせられた。多くの災害は地球温暖化の影響による地球規模で政治的に解決する問題だが、同時に地球に住む皆が工夫して取り組むことでもある。過去からではなく、未来を地球規模で鳥瞰的に考えなければならない。

人生には大きな転機期が３回ある。後悔しないために自分で挑戦して決断することが大切である。普段からどんな人生を歩みたいかを考えておくべきだ。葉隠のことばに「人が黒きと云わば黒きはずにてはなし白きはずなり白き理があるべし」とあるように、人が黒と言っても本当にそうかと自問してみる。そこで一段上の道理が見えてくる。強い思いを持てば、物事はその方向に進んでいく。自分のやりたいことがなければ何も実現しない。志をもって驀進する姿勢があれば人生はその方向に向かっていく。試行錯誤を重ねながら人生を楽しんでほしい。

講義の感想

■　「決断するときが、人生の勝負のとき」ということを聞いたときに、人生においては決断をすることから逃れられないと感じました。私の人生ときちんと向き合って、考えていこうと思いました。

■　「やるのを迷うぐらいならやれ」という言葉を聞き、自分の心のどこかが満たされた気がして、これからの生きていく原動力になりました。

宮崎　博司　**佐賀県立名護屋城博物館学芸課長**

「肥前名護屋城と名護屋城博物館」

名護屋城博物館は文禄・慶長の役の拠点となった名護屋城に隣接する博物館である。日本列島と朝鮮半島のこれからの双方の交流拠点となることを目指し、平成５年に完成した。名護屋城博物館の役目として、①日本列島と朝鮮半島の交流史②名護屋城跡並陣跡の保存整備③日韓の文化・交流・国際文化の理解と促進が挙げられる。そもそも名護屋城とは、豊臣秀吉の日本統一を果たした後の朝鮮出兵の際の国内軍事拠点として築かれた。研究調査を進めていく中で、軍事拠点としてのみではなく、豊臣氏の居住空間としても利用されたことなどがわかっている。しかし、豊臣秀吉の朝鮮侵略を支えた名護屋城であったが、明国からの反撃や豊臣秀吉の死により、江戸時代に取り崩されている。そのため、その状況を保ちながら、修復作業が行われている。

講義の感想

■　名護屋城博物館の存在に触れ、歴史や文化を保存・展示する場所の重要性を再認識しました。この講義を通じて、歴史と文化に対する新たな興味が湧き、名護屋城とその歴史についてさらに学びたいと思うようになりました。

■　名護屋城近辺に日本全国から名だたる大名が集い陣を構えていることからそれだけ秀吉の権威が大きかったのだなと思いました。

李　鳳宇　**映画プロデューサー、(株)マンシーズエンターテインメント代表、(株)スモモ代表取締役、日本大学芸術学部映画学科講師**

「映画で日本の将来を考えよう」

映像技術は、敵国の状況把握のための写真資料や衛生解析などのように、戦争を経て医療とともに発展した。戦後、技術の進歩により戦争映画は娯楽映画として一つの大きなジャンルになり多くの人々に見られている。しかし、娯楽映画として捉えられている戦争映画は現代を生きる私たちが反省し、非戦を選択することがいかに大切かを理解するための映画であるべきである。

映像の技術、東西冷戦や湾岸戦争を機に戦争の模様を捉える映像が発達したことにより飛躍的に発展した。現代では映像技術に AI が加わることによりさらなる進歩を遂げ様々な可能性が広がったが、同時にフェイク技術などの問題も増えているため、フェイク技術による倫理観が今後問われる。また、多くの映像配信媒体が増えたことにより映画館に直接足を運ぶ人が減少しているが、将来はさらに文字より映像を目にする機会が多くなるため、映像や映画の世界で活躍する人が増えることを願っている。

講義の感想

- 「戦争映画は娯楽映画ではなく、反戦映画であるべきだ」という言葉が印象的で、映画を見終わった後、それで終わるのでは無く、映画からのメッセージを受け止めて一人ひとりが平和についてしっかりと考えなければならないと感じました。
- AI が多様に用いられていたり、嘘が含まれている映画が増えており、見る側の捉え方が重要視されていると考えました。情報が溢れている現代でフェイクに騙されずにリテラシーを身につけていきたいです。

佐橋　亮　**東京大学東洋文化研究所准教授**

「世界の人々の平和と繁栄をどうすれば実現できるのか？」

今の時代は、不信に支配され、守られない人権・国際秩序が行き詰っている。例えば、元々は関係が良好であったアメリカと中国は、朝鮮戦争を契機に貿易・交易がともに遮断された。しかし、中国とソ連の紛争時に改めてアメリカからの接近があったことで、国交が正常化された。アメリカと中国の関係を例にとっても世界秩序を守っていくためには、世界秩序を阻害するものがある。阻害要素から守ることができるのは①抑止と対応力②外交の 2 つがあり、特に外交は特別な時のみではなく、普段からの関係が重要である。これからの世界をより平和なものにしていくために、言論の自由や他者の意見を尊重し、自分を小さく見ず、皮肉的にならないこと、現場の声と理論を用いて問題を考えることが重要で、最悪な場合を考え、悲観的に見ながらも、世界は変えることができると楽観的に問題解決に向けて組んでいってほしい。

講義の感想

- 自分の視野がどれだけ狭く、一方向からしか物事を見れていないかに気付きました。人の話を聞き、それを信じ込むのではなく、自ら日本に限らず海外の情報も集め、それをもとにして自分で考えるようにしたいと思いました。
- 「何を守りたいのか。何から守るのか。何で守るのか。」という話が印象に残っています。お互いに対して興味がなく、相手に対して尊敬する心がないことが原因だとわかりました。

笠谷　和比古　**国際日本文化研究センター名誉教授**

「徳川家康の政治理念」

徳川家康の政治において、法による支配が行われていた。一般的に徳川幕府は、中央集権的、統制的であるといわれているが、家康の大名政策は融和的であった。

法による支配では、武家諸法度が家康の時代に作られ、以降も改正を繰り返し使用された。武家諸法度は、権力者の恣意を抑え、安定的かつ永続的な統治を目指していた。また、基本規則に基づいていたため、支配される側も受け入れることができるような客観的なものであった。また、将軍権力を超越した武家自然法であるとして、発布の際は将軍の退座が慣例とされていた。

鎌倉時代の源頼朝以来の武家政治であったため、鎌倉時代・室町時代それぞれの式目を意識した体裁となっていた。家康は、家臣からの諫言を尊重していたため、直言・苦言をしっかりと受け止めていた。

講義の感想

- 過去の人々がそれを実行した際にどのような結果をもたらしたのか、作用したのかは未来を変えるにあたってとても重要なデータであり、故人が残した未来に繋ぐための私達へのバトンだと思いました。
- 歴史は学校の授業では教科書を読み、暗記する教科だったが、その歴史人物の特徴やその時代の民間生活、外国との貿易など点と点が結ばれるような感覚で歴史に興味が湧き、歴史的出来事は現代にも繋がっていることがわかりました。

沈　壽官　薩摩焼 15 代

「伝統を守り現代を表現する」

第１５代沈壽官を代々継いでいる。425 年前から沈家は日本に住んでいるのだが、私は中学校の入学初日に朝鮮人と言われて殴られた。高校時代は良い友人から人の優しさのありがたさを知った。大学卒業後、家業を継ぐために京都で修行をしたが、何を作ればいいのかわからなかった。イタリアに留学したが制作できずに帰国しようとした時、表現の意味に気づいた。「表現」の両方の漢字は「あらわす」と読むが、「現」は、不安や恐怖など心の中のものをあらわし、「表」はそれらを可視化することだ。皆さんの表現は、心に思うことを職業というツールでメッセージとして伝えることだ。司馬遼太郎には「あれをやりたい、こうなりたいと背伸びせず、自分の足元を見てやれることがやれているか、自問自答が大切だ」と言われた。他人の言葉や出会いから今の自分はあるが、不動の芯はしっかりと見続けないと振り回される。また、未来にフォーカスすると、動きが早くて絞り切れない。100 年の昔から今の未来を見ると見えてくる。未来を解くカギは過去にある。

講義の感想

- 形にとらわれずに、自分の思ったこと、感じたことを表現していきたいです。多文化への理解、リスペクトも忘れずにしようと思いました。
- 先生がおっしゃった職業と言うツールを使ってメッセージ伝えると言う言葉に衝撃を受けました。私は、その職業についたらただ与えられた仕事をするだけと言う考えでしたが、職業を使い、自分のメッセージを発信すると言う発想はありませんでした。

網岡　健司　八幡東田まちづくり連絡協議会会長、（株）エックス都市研究所参与 NPO 法人里山を考える会理事、一般財団法人産業遺産国民会議理事

「世界進化遺産　八幡東田ものがたり」

北九州八幡八田は全国 8 エリア 23 の明治産業革命遺産の中の 1 つのエリア。「世界遺産」という過去完了形でなく、進行形として「世界進化遺産」と呼んでいる。今も世界最高峰の鉄鋼製品が 1901 年にアジア最大の官営製鉄所として生まれた製鉄所からは作られている。世界の環境都市を目指す先駆的な町でもある。婦人団体の活動から公害を克服し国連から表彰を受けた。

製鉄所内の発電所から町に電力を送り実証実験も行い、水素を燃料電池に供給している。

Beyond SDG s が求められている。気候は沸騰して持続可能や環境維持だけでは間に合わない。人間がコントロールする Sustainability な時代から Regeneration へ。人間は自然の一部だから自然と共に繁栄しないといけない。次世代の皆さんは 22 世紀まで生きるわけでチャレンジして世界を変えてほしい。

講義の感想

- 世界は自分たちの手で変えられると思うので、失敗を恐れず何事にもチャレンジしていきたいと思いました。
- SEA を合言葉に霊性、自然環境、自然崇拝がキーワードとなり、世界遺産になったというお話を聞き、自然を大切にすることは賞賛されると感じることができました。

村田　慎二郎　国境なき医師団日本(MSF:Medecins Sans Frontieres)事務局長

「Leadership is not a Position. Leadership is an Action.」

リーダーシップはポジションではない。アクションである。ハーバード・ケネディスクールのハイフェッツ教授のリーダーシップ理論によれば、目標に向かって行動するということは、理想の自分と今の自分のギャップを認識し、それらが近づいていくための行動の繰り返しである。それは組織においても同じである。

今後どんな仕事が自分に合っているのかを考える前に、”being,having,giving”を考えるべきである。つまり①自分はどういう人間になりたいのか、あるいは人間性や人格を持ちたいのか②自分の人生で何を獲得したいのか③世の中の人たちにどういう影響を与えたいのか―を考えるアプローチがある。そして、自分のやりたい世界に飛び込んで、その経験から、より具体的なものが生まれてくると思っている。

講義の感想

- ハイフェッツ教授の「リーダーシップとはポジションではない。リーダーシップとはアクションだ。」という言葉が心に響きました。リーダーという役職は必要かもしれないけど、リーダーシップをとるのはリーダーだけである必要はないとわかり、講義の前後でリーダーに対するイメージが大きく変わりました。
- 意見を鵜呑みにするだけでなく、考えて提案、反論する批判的な姿勢も大切なフォロワーシップだと思いました。

村岡　浩司　(株)一平ホールディングス代表取締役社長

「ローカルからの新しい価値を生み出そう」

地方創生という言葉に違和感を抱き、自律的な地域経営をしていく「コミュニティベースドエコノミー」の考え方に基づいて「地元創生」というタグを用いるようになった。地元創生とは、地元の独自の文化の潜在的価値を通じて、まちの成長のきっかけを作ることである。

今後の日本をよりよく生きるためには、自分自身の未来を考え、選択していく必要があり、自分自身で選択していく中で、この場に行かなくては経験することができないスーパーローカルの考え方をもとにイノベーションを起こしていく必要がある。イノベーションが生まれるような心理的安全性が担保され、多様性を認める利他の場を作り、価値を生むことが重要である。価値とは、創造することだけではなく、証明し、伝達をすることである。自身の活動を通じて、世界に誇れるような九州を創っていきたいと考えている。

講義の感想

- 地域の「価値」を創造するだけでなく，「証明」し、「伝達」するという社会的な取り組みをされていて感銘を受けるとともに、新しい見方や考え方を身につけることにつながりました。
- 地域創生はとっても素敵な活動だと感じ、私も地元に貢献したいと考えるようになりました。地元にある価値を創造するだけでなく証明、伝達できる人になるために地元について深く知りたいです。

佐々木　久美子　(株)グルーヴノーツ代表取締役会長

「高校生が知っておくべきテクノロジーのインパクト

インターネットがなかった時代では、情報の伝達は一方的であり、メディアはマス向けに発信するためのコンテンツであった。しかし、インターネットの誕生により双方向での情報の共有が可能になり、多様性の社会で一人一人が違う対象に発信し受信できるようになった。コンピューターの技術はあらゆることを可能にし、障害者に合わせたデバイスなどの発明により健常者と障害者の差をテクノロジーでなくすことができるようになった。

ChatGPT のような AI は、私たちが利用できる最先端の技術であるが、テクノロジーはあくまで豊かな社会を構築または維持するためのツールであり、私たちは情報技術が道具であることを認識して使用する必要がある。技術革新は人を幸せにするために行われており、情報技術において需要と供給を考えてサービスを提供することが重要である。近代の技術進化により人が持つべき価値に変化が生まれたため、コンピューターができないことをできるようにし、常に常識や当たり前を疑ってほしい。

講義の感想

- 科学の進化に適応しつつ、その技術を 障害を持っている人や言語が異なる人など、人と人との差をなくすために使うことの大切さを感じました。本当に必要なものは何かを見極める力、相手が得意なことを任せてお互いに助け合う力を身につけていきたいと思いました。
- AI が発展し過ぎてしまうと、人間ができる事が減ってしまい、新たな問題も生まれてくると思うので、AI と人間は程よい距離感で人間が AI をセーブしながら共存出来る社会にしていく必要があると思います。

川原　尚行　認定 NPO 法人ロシナンテス理事長

「究極の医療とは？～内戦のスーダンで考える～」

NGO 団体であるロシナンテスを設立し、20 年間内戦が続いている。スーダンへ 2005 年から医療支援を開始し、医療の行き届いていない地域を支援している。医療のみでなく、教育現場やインフラ整備にも支援を行い、女子が教育を受けられる環境や井戸の整備などをした。スーダンから活動停止命令が出された際も支援継続をあきらめず、スーダン政府を説得し、日本を訪れてもらい、信頼関係を築いた。結果的に活動停止命令は受け入れたが、ロシナンテス内の他のスタッフを JICA のメンバーとし、支援を継続した。

また、出口戦略として「スーダン人を主役に」という理念から日本はアイデアのみを出し、スーダンの人々がそれらを実行できるようにした。支援中に内戦が勃発し命の危険を感じたまま長い時間を過ごした経験などもあり、究極の医療とは戦争をしないこと、させないことであると考えている。あきらめたら終わり、成功するまでやり続けることを基本として、現在も大学と協力して薬の研究や支援を続けている。平和は簡単になせるものではないということを、日本の人々に認識してほしい。

講義の感想

- 将来私は医師になりたいと思っており、今私が学んでいるのは自分の夢のためだけではなく世界中の人々の命を一人でも多く救うためでもあると認識できました。今後もこのことを忘れず勉強に励みたいと思いました。
- 現地に行くことは死と隣合わせであるのにもかかわらず、スーダンの人の幸せを願ってあきらめない姿にとても感銘を受けました。口では諦めないと言っていても、放棄して実際に行動しないことがよくあるので、先生の志を倣って自分の言葉に責任を持って行動したいと思います。

稲冨　幹也　(株)エムスタイルジャパン代表取締役社長

「ツバメの巣で世界を変える」

19 歳の時に、片親だったこともあり、母親を助けたいと思い独立した。会社は多角経営し、軌道に乗っていた。しかし、26 歳の時に、自分の追いたいもの（登りたい山）がないことに気づき、自分探しの旅に出る。当時の自分との約束として「世界に打って出ることができる」「誰もやっていないことをみつける」の 2 つを基に世界 15 か国を旅した結果、マレーシアでツバメの巣に出会う。素晴らしい効能や効果をもっているにも関わらず、偽物市場が横行し、様々な問題が連鎖し、きちんとした市場が形成されていなかった。そこに目をつけ、研究を重ねた結果、唯一無二のブランドを作ることに成功した。自社の志として「何かの犠牲の上に自分の美と健康があってはならない」として、大学との連携や世界ブランドからのコラボ依頼など自分の哲学を大切にしながら、今後人間のみではなく、ペット業界などに手を広げつつ、ツバメの巣の発展を目指している。

講義の感想

- ■ 大人が今まで誰も教えてくれなかった自らの命の使い方について知ることが出来ました。机上の空論に振り回されず、自分の理念とビジョンを持ち進むことを意識するべきだと思いました。
- ■ 常にビジョンをもち、そのために戦略と計画を練って、実現させる。とても難しいことだと思います。それでも、たった一度だけの自分の命、人生をどのように使うかは自分次第だ。悔いのない人生を送るために前向きに生きたいです。

川勝　平太　静岡県知事

「富士山と天皇」

「東アジア文化都市」は日本、韓国、中国の各国の 1 つの自治体がその年のその国の文化首都として公認されることで、2014 年から始まり、文科省の中核事業となっている。2023 年の日本の文化都市は富士山のあることから静岡県が選ばれた。東アジアには、ヨーロッパの EU のような共同体はなく、中国との尖閣諸島、韓国との慰安婦や徴用工、竹島など問題はあるが、文化都市プロジェクトは順調に進んでいる。

静岡県にある富士山には、争いや戦争を嫌にさせる力があり、思わず手を合わせたくなる。天皇陛下は国民の象徴であるが、富士山は国土の統合の象徴・日本の象徴、神格として語り継がれている。富士山は、自然が生んだ芸術霊感の源, 聖地でもあり、国内には富士と呼ばれる山は 400 を超える。万葉集の時代から今に至るまで、近くは明治天皇から代々の天皇に詠まれ、令和天皇は登山をされている。火山として神の山とも畏れられ、その気高く崇高な美しさが「日本の象徴」として詠まれるのだ。2013 年に世界文化遺産に登録され今年は 10 周年である。

講義の感想

- ■ 天皇と富士山ってなんの関係があるのか全く想像も付きませんでしたが、歴史や和歌を知ることで結びつきを理解することができました。国土の象徴である富士山と国民の象徴である天皇はとても相性がいいんだなと感じました。また、天皇や富士山だけでなく、静岡県について興味を持ったので、いつか実際に静岡県と富士山を訪れてみたいです。
- ■富士山や天皇陛下についての知識は、将来海外に出た時にも活用できるものであると感じました。自国のシンボルについての見識を深めることができ、嬉しく思いました。

対談「20 年後の日本と世界はこうなる～次世代リーダーが果たす役割」

黒田　東彦　**前日本銀行総裁**

日本の一人当たり GDP は過去 30 年間 1 ～ 2 %とほとんど伸びていない。バブル崩壊後の金融危機、日米経済摩擦で鉄鋼、自動車、半導体、パソコン等の先端産業が影響を受けた。一方、韓国や台湾は半導体や IT 機器、自動車で世界をリードし、一人当たり GDP は日本とほぼ同じ 33,000 ドル、日本が経済成長しなければ。抜かれてしまう。マレーシアや中国は 13,000 ドルと高所得国になりつつあり、開発途上国から先進国になりつつある。

今後 20 年間のチャレンジとして地政学リスク、人口減少と高齢化、気候変動などの自然災害や食糧・水不足が挙げられる。

アジア諸国にとって中国との貿易、直接投資、金融取引どれをとっても最大で、中国のアジアへの影響力は極めて大きい。米中における貿易摩擦広がる中、域内で貿易投資規制が導入され中国も対抗して措置をとろうとしている。台湾問題も絡み、地政学的な対立の高まりが中国に大きく依存するアジア域内の成長率を下げるのか、それとも新たな貿易投資が生まれて経済が成長するのか重大な問題だ。

人口の減少と平均年齢の高齢化は日本、台湾、韓国の問題だ。中国では人口増はあるものの生産年齢人口は減少していて、今後、経済成長率に影を落とすだろう。

世界的に CO2 の排出量は増加しており、代替エネルギーの開発がどう経済成長に影響を及ぼすかも注視しないといけない。一方、水不足問題は深刻だ。97%は海水で経済的な価値はない。地球上の真水の 8 割が食糧生産に使用されており、水不足はまさしく食糧不足を招く。特に人口が多いアジア諸国では水の汚染を防ぎ、いかに効率・有効的に使うことが求められる。

講義の感想

- 日本の考え方と世界の考え方をどうやって調和させるかを考えるということだと知って、人のために尽くすって本当にかっこいいなって改めて感じることが出来ました。
- シナリオはコントロールが聞かないこともあり変化することがあるのでそれの対応力を身につける必要があるなど様々なことを知り、これまでの私を振り返り改善していきたいと思いました。

タノン・ビダヤ　**タイ元財務大臣**

20 年後の世界ではシナリオは変わり、想定外のことが起こる。地球温暖化、津波や洪水など制御不能な災害が起こり、地政学的な対立が起こり戦争をどう治め、平和を小袿できるのか。国連・世界銀行・IMF なども変貌するだろう。年金制度も崩壊して、食糧の再配分が必要になる。全く想像のつかない世界が来るだろう。

次世代のリーダーは、知識が必要である。50 年前の X 世代と呼ばれる世代は、図書館に通い百科事典をめくりながら知識を得た。しかし、Z 世代は Google リサーチやスマホで知識を得ることができる。私が世銀で研究員をしながら博士論文をできたばかりのコンピューターで 4 年がかりで書いたものが今では一瞬でできる時代になった。

次はα世代がロボットを駆使する時代がやってくる。X 世代では、生産システムは人と機械による大量生産を行ってきたが、これからは AI やロボットに代わる時代となる。

私は車も舗装された道路も電気もない農村地帯で生まれ、幸運にも日本政府の奨学金で 1970 年代に日本に留学して、横浜国大で学んだ。日本の「ものづくり」は「葉隠」、つまり侍の哲学にあると学んだ。日本人は「心」で仕事をしていると思った。そこに西洋の技術が加わったのが日本の生産システムだ。

X 世代は IQ を伸ばすことが重要だったが、日本人は EQ も大きく発展させて、人と機械が融合してものづくりを強力なものにした。今後、新しい生産システムには、人と機械に AI の融合する必要がある。

将来のリーダーは、泳ぐこともでき、飛ぶこともでき、自給自足もできる環境にも優しいダックになってほしい。逆境（Adversity）に強い AQ を身に着けた未来のリーダーとなることを望んでいる。

講義の感想

- 「アイデアが全てのリノベーションの源である」という言葉が印象に残っています。日頃から分かっているつもりでありましたが実際にはおろそかにしていたことをタノン先生が言葉にしてくださったおかげで再確認することができました。
- 時代はコントロールが効かないシナリオであるからこそ臨機応変に対応する力が求められるという点に共感しました。

対談「20 年後の日本に夢を描く～起業家からの提言」

滝　久雄　**(株)ぐるなび取締役会長・創業者、(株)ＮＫＢ取締役会長・創業者**

「やらなくてはならないものはやりたいことにしよう」やりたいことに変えるには志を高く持ち、使命感を育む必要がある。リーダー憲法として①「もっともはやく、もっともよく。」を大切にし、知見を増やし、人間関係を築くことができる。②「人間を好きになろう。人間社会も好きになろう。」他者を好きになり、悪口も言うかもしれないが、好きになる努力をしうることが重要。③「お互いの文化を尊重しよう。」お互いの文化を尊重し、固有の文化からクリティカルな文化が生まれる。

解決できない問題や答えのないことを受け入れ、理解が難しいものは「矛盾箱」に残しておくべきだ。貢献心は本能である。みんなにあるけど、見えていないだけである。使命感があると生きやすい。使命感は人間の貢献心があるが故の史上最高の成果物である。

講義の感想

- 「好きと尊重は違う」ということはこれまでの私の概念を覆したと思います。尊重するためには相手の全てを好きになるのではなく、自分と違うところがあったとしてもそれを受け入れることが必要なのだと気付かされました。
- 将来何かリーダー関係の職に就こうと考えていなかったが、「リーダーシップを発揮して働く仕事に就くのもとても良いかもしれない」と考えるようになり、将来の選択に新たな光を照らして下さった先生に感謝しています。

芦川　泰彰　**(株)ロボカル代表取締役社長**

高校生時代から起業に強い興味を抱いていた。大学時代、慶應大、東大、東工大との共同事業を行ったが、大学卒業と同時に清算した。その後、IT 関連の会社を 10 年間経営し、現在はロボットの製造業とロボットを使いたい企業を結び付ける会社を経営している。リーダー塾では、今でも親しく付き合う仲間ができた。また、高校生時代から起業に強い興味があったので、起業家の話に加え芸術家や国際経済の話などからも刺激を受けた。

リーダーにはいくつかの重要な役割がある。リーダーはまず、組織やプロジェクトにおいて進むべき方向を示す道しるべを作る責任がある。またメンバーの能力を見極め、各人の得意な分野を見つけて伸ばすことが求められる。さらに、リーダーは自身が好きなことを追求し突き詰めることで、仲間を引き寄せる力を持つ。これからもリーダーとして、日本をはじめグローバルな課題に挑戦していきたい。リーダー塾での出会いや縁をこれからも大切にして欲しい。

講義の感想

- 起業はすごく特別な人たちがすることという先入観が消え、自分の人生の選択肢の一つにも起業というものがあるんだなという考えに変わりました。
- リーダーとは道しるべを作り、好きなことを極めることができる人だとおっしゃっていたことが心に残っていて、これから人の上に立ったり、チームを引っ張っていったりするときに明るく元気にチームメイトをサポートできる人になりたいと思いました。

井口　剛志　**(株)ベンナーズ代表取締役社長**

高校 1 年で参加したリーダー塾は人生のターニングポイントになった。日本の高校を中退してアメリカの高校に 2 年間留学し、ボストン大学で起業学を学んだ。水産加工業を営んでいた祖父の影響で水産業界で起業した。漁師と消費者を包括する環境、そして社会にとって持続可能と言えるような新たな水産業を実現するというビジョンを掲げている。現在、東南アジアにも進出し、将来的には日本のモデルを海外で展開し世界の水産業界のリーダーになりたい。

伝えたいことは、迷ったらやってみる。自ら決断を下したのだから失敗しても後悔することは少なくなる。人との出会いを大切にすること。コミュニケーションこそ AI には代替できない人間らしさだ。決して諦めないこと。根拠のない自信を持つことが重要だ。

講義の感想

- 起業家になれる人として、根拠のない自信をあげており自信は何をするにもつながってくるのだと改めて実感した。私は、自信を持つことが苦手で自分なんかと思ってしまうことが多い。井口先生の講義を受講して、そんな自分を変えていこうという思いになった。
- 「迷ったらとりあえずやってみる」という言葉が印象に残り、私もやりたいことをとにかく行動に移そうと思いました。自分もいつかリーダー養成塾で講義したいです。

対談「女性が変える 20 年後の世界」

小林　洋子　**宇宙航空研究開発機構(JAXA)監事、(株)三菱 UFJ 信託銀行社外取締役監査等委員**
(株)大林組社外取締役

初めて女性差別に直面したのは、就職面接の時だった。1978 年に入社して男女平等と言われていた NTT（当時の電電公社）で男女差別を感じた。しかし昇進することで仕事の楽しさはどんどん増えていった。グループ会社の社長になり、会社のルールなどおかしいことは取締役会で変えることができた。社会人になる皆さんは昇進によって自分でできることが増えると、やりがいが大きくストレスは小さくなることを覚えてほしい。

「今個性は性を越える」という 1985 年の労働省のポスターに感銘を受けた。日本初 JAXA の女性宇宙飛行士向井千秋さんはこれを体現している。男女の性は関係なく、個性が重要であることと皆さんが意識しない「重力」によって私たちの命が健全に維持されていることも教えていただいた。

気づいてほしいことは、アンコンシャス・バイアス。無意識の思い込みや偏見を持つことで判断を間違えチャンスも逃してしまう。当たり前と思っている根拠を疑い、人を傷つけていないか、自分は我慢していないか、若い目で見極めてもらいたい。

20 年後の世界を担う皆さんは基礎能力、チームワーク力、論理的に議論する力を鍛えてほしい。女性が生き生きと働ける世の中を作るためには、女性自らが意識的により多くの発言をして情報発信することが必要である。

講義の感想

- 自分で自分なりの美学や哲学を形成していくことなのだとわかりました。固定概念や、既存の制度に縛られず、自分の生きがいや自分の判断で社会を生き抜いていくことが、男女平等などの格差問題を買いつしていくうえで一番大切で、後にも人が付いてくる素晴らしい生き方だと感じました。
- これからの社会には男女を今までの男はこうあり、女はこうあるべきというオールドタイプの考えではなく男女の能力を見て、互いが助け合うニュータイプの考えをしていくべきだと自分の中で改めて思いました。

柴田　春奈　**(株)ロート製薬広報・CSV 推進部、一般社団法人 VENTURE FOR JAPAN**

学生時代は記者になることを考えた。報道することで世の中が変わるかもしれないと考えたが、むしろ自分が困っていることや課題を自らの手で変えていきたいと思った。母親や自分自身の健康問題を通して、健康を世の中に発信したいとロート製薬に入社した。本職以外にも、経営者の直下で 2 年間働くことで経営者マインドを身につける社団に所属し、兼業している。

ロート製薬では、トップとの対話の場があり、社員の意見や提言を反映する社風の中で成長した。時には、カミングアウトすることが必要なこともある。

また、東日本大震災の復興支援では「ロートさんでしょ。何年かでいなくなるよね」と言われながらも、現地の人たちとの関係を日々築き、やがて認めてもらい、多くのプロジェクトを動かしたのは人生の転機になった。朝から晩まで、土日もなく働き続けた修羅場の経験が、副業にもつながっている。

講義の感想

- 自分が達成したい大きな目標を掲げることができれば、興味関心のある分野や自分ができることから行動し始め、それが何かの縁に繋がるチャンスになると思いました。
- 見方を変えたことで自分の手で法を変えたいと思ったと仰ったように、様々な立場に実際になって違った見方を理解することの大切さを知りました。

崎山　佐穂　**福岡県篠栗町議会議員**

議員になった理由には二つある。消防団員として働く中で、階級による女性差別に気づき、条例を変えて組織の構造を変えたいと感じた。また、娘が難聴児で生まれ、社会を変えたら娘が生きやすい世の中にできると考えたことだ。

高校生のときに、他国の政治を見ようと思いカナダに留学した。カナダは多文化主義で差別のない平等のイメージがあるが、どの国にもその国の課題がある。解決だけでなく、いかに失敗しているのかを知った。また、アジア女性は差別される側となり、それがよい経験となった。英語をツールとして活用することで、高校留学で人生が変わり、世界中の友達ができた。

選挙では若い女性の立候補がないため、地域のために働き、考え、まっとうなことをすれば女性には有利なことがある。政治家へのハードルには、心理的、ノウハウ的なハードルがあるが、自分の強みを生かすことで道は開けていく。

講義の感想

- 何かに特化したプロフェッショナルも良いと思うのですがやはり基礎スキルの大切さを改めて感じました。期待を裏切らないように頑張ることが時には重荷になりそうだなと少し感じてしまった部分もあるのですがそのために努力することは当たり前にするべきだなと思いました。
- 「困難をチャンスに変える」という言葉が印象に残っている。身近なところで発生している男女格差に気づき、それをそのままにせずに周りの人たちを巻き込んで変えようとする姿勢を持つことが大切だと思いました。

中山　真　**日本経済新聞社 Nikkei Asia 編集長**

「ニュースを伝える文章の力」

新聞は知的活動のための重要なインフラである。新聞を毎日読む日本人は５～６割ぐらいで、10 代では減少している。アメリカでは読者の減少で新聞社が 4 割に減り、日本も同じ状況だ。

新聞の首相動静欄は、国家機密となるような首相の一日が書かれている。首相の行動から世界事情がわかり、政治の動きも見えてくる。新聞が面白くない人はまずここから読むことを勧める。新聞は歴史の記録であり、スクープやニュースの発掘、問題点を浮き彫りにし、聖域とタブーを疑わせるのは記者の真骨頂である。

へたくそな文章でも味はあるが、正しい日本語と文法、そして情報の正確性は不可欠だ。新聞のコラムのように起承転結や序破急の構成、外の材料を使う、接続詞を使わないといった書き方テクニックを駆使して文章を書くとよい。ネット時代のニュースは、炎上やフェークニュースへの対策も必要だ。また、膨大な情報量からどの記事が読まれるかに記者の関心は高いが、ネット検索は記事に偏りを生んでしまう危険性がある。

講義の感想

- ■ 良い文章を書くためには、起承転結や情報の正しさ、実際に行った経験を入れると伝わりやすいと知り、生かそうと思います。
- ■ 文章とは、人にその場面のイメージや状況を連想させ、伝えるものです。特にニュース記事は正確性が重視される思います。今は、インターネットの普及により、情報の拡散がとても早い。そんな時に記者がどれだけ正確な情報を書くか、読者に理解してもらえるか、さまざまな工夫を凝らして記事を書いていることを知りました。

宮川　眞喜雄　**前内閣国家安全保障局国家安全保障参与**

「歴史を読め。科学を学べ。危機を予知し、皆を率いて対処せよ。日本のために、そして我々のアジアのために」

外交官となって痛感したことは、折々の国際環境を把握し、国家と国家の関係、国家と国民の関係について理解し、その都度に時宜に応じて適切な外交政策を策定し、実行することが如何に重要であるかということだ。国際社会は冷厳で、どの国も皆各々の国益を追求している。

日本は多くの資金を国連に拠出したが安保理常任理事国となれず、また世界貿易機関（WTO）では言葉や制度構築勅の不足もあって、自己の主張が認められずに不利な立場に甘んじることが度々あった。外交官の役割は、交渉を通じて日本の国益を確保することであるが、そこに各人がどの程度の真剣さを注入するかが重要である。

対立の時代に向かい、我が国は今後益々、経済力、防衛力、外交政治力を涵養し、教育レベルを向上させ、指導者の知的水準を高めていかなければならない。それにより、各国の人々が集まる国際社会の場において、他を率いる実力ある人材を輩出し、日本の地位向上を図ることが重要だ。

講義の感想

- ■ 私は決断するときに常に次のことを考え行動し慎重に決断したいです。誰よりもはやく危険を察知し、情報を集め勇気を持って皆を導ける人になるために今ある時間を大切に行動で示すことができるリーダーになりたいです。
- ■ 平和は保障されているものではないということを頭に置き、各国の関係や今世界で何が起きているかの情報を知ることが大切だと感じました。

岸本　周平　**和歌山県知事**

「20 年後の日本とあなたとふるさとの未来」

政治家には、人を見極め、選挙・政局などの中で権力闘争を勝ち抜く力が必要だ。そんな政治家を目指したのは、20 年前にアメリカでの障害者への考え方の違いに心動かされたからだ。障害者が健常者と同じ場所で教育を受け、同じように雇用され、できないことに挑戦し、納税者となるアメリカの福祉政策は、当時の日本の障害者が作業所で働き年金を受け取る姿とはかけ離れていた。

障害者が生き生きと働ける国にしようと 48 歳で政治家を目指したが落選し、4 年後に初めて当選し、その後 5 回当選できた。48 歳で本当に好きなことがみつかったわけだ。皆さんにまず望むことは、好きなものを早く見つけてほしい、好きこそものの上手なりだ。二つ目は問いを作る能力を磨いてほしい。チャット GPT も問いで動く。3 つ目は、失敗を恐れずに挑戦すること。落選して 4 年間無職無収入だったが、それも勉強であり、人の痛みがわかるようになった。リーダーを目指すなら人の痛みがわからねばならない。

講義の感想

- ■ すべての人が笑顔で暮らせる社会にする為には、政策や法律だけでは変えることのできない「人の心」を変える必要があると考えます。私自身がそのきっかけになる行動を起こし、その輪を日本中に広めていきたいです。
- ■ 日常生活の中で改善点を見つけた時にすぐに改善したいという行動力に驚かされました。好きなものを見つけたことでそれに向かって努力することができたという話を聞いて自分も早く好きなものを見つけたいと思いました。

６．塾期間における成果・課題や卒塾後の様子

第２０回日本の次世代リーダー養成塾（以下、リーダー塾）を終えて、塾生概要、期間中における塾生の様子や成長をまとめた。

塾生概要

（１）概要

塾生は、負担金をいただいている９道県２市（北海道、青森県、岩手県、静岡県、岐阜県、和歌山県、愛媛県、福岡県、佐賀県、福岡県宗像市、沖縄県うるま市）の参画自治体推薦枠から１２３名、全国から選抜する一般公募枠２７名を選考して決定した。国内１７都道府県１０３校、海外１校（マレーシア）から参加し海外の高校に所属している１名は、夏季休暇のため帰国した塾生であった。

塾生は、２５名ごとに６クラスに分かれ、１クラスを前半、後半１名ずつのクラス担任と２名の学生リーダーで担当していただいた。期間中、新型コロナ感染者など体調不良の塾生は、宿泊棟の療養部屋からのハイブリッド形式で参加した。

（２）塾生の募集及び選考

塾生は、参画自治体推薦枠もしくは一般公募枠のいずれかの応募枠に申し込み、審査を経て塾に参加することができる。参画自治体推薦枠は、各自治体で個別に募集、および選考をしていただいている。一般公募枠については、事務局が募集・選考を担う。

今年も感染状況に鑑み、HP や SNS での広報・周知を行った。そのほか、卒塾生にも自身が活動する団体や高校の後輩へのチラシ配布やＳＮＳを通じての呼びかけに協力してもらった。毎年塾生が参加を決意するきっかけに、先輩や兄弟姉妹が塾への参加を契機に大きく成長した姿を目の当たりにしたことを挙げる者が多い。今後も卒塾生による周知活動協力に期待するとともに、塾として卒塾生の活躍を支援していきたい。また、公式の Facebook や Instagram で募集開始のお知らせや卒塾生の声などをアップして宣伝を行った。

また、一般公募枠、福岡県推薦枠、北海道推薦枠、佐賀県枠、宗像市枠、うるま市枠の募集はインターネット出願で行なった。一般公募枠は４月１日から募集を開始した。

一般公募枠の選考については、一次審査（応募書類及び作文）、二次審査（面接）がある。二次審査の面接は、オンライン形式で実施した。

参画自治体推薦枠の選考については、青森県、静岡県、和歌山県、愛媛県、佐賀県、宗像市、うるま市は一般公募同様に書類審査と面接審査を実施した。その他の参画自治体は書類審査のみで合格者を決定した。

塾生の期間中の様子

（１）受講者決定から開塾まで

▲入塾式での決意発表

6 月初めに審査を通過した合格者が決定し、塾開始前から塾生には「ハイスクール国会」の事前課題に取り組んでもらった。また、塾開始前の感染対策として、塾初日にご自宅から出発する前に抗原検査をし、全員の陰性を確認した上で、塾に臨んでもらった。

7 月 26 日、福岡県宗像市にて開塾した。入塾式では、榊原英資塾長代理より開塾の挨拶をして、服部誠太郎福岡県知事（ビデオメッセージ）、髙宮史郎宗像市教育長より、開塾に際して激励のお言葉をいただいた。

塾生を代表して 3 名が榊原英資塾長代理に向けて決意表明を行った。初めに東京都の私立桐蔭学園高等学校２年の倉本茉莉香さんが「どうやったら日本でも男女平等社会が実現可能なのか、ぜひリーダー塾のハイスクール国会においてアジアからの留学生も交えて一緒に議論したいと考えています。日本におけるジェンダーギャップをなくし本来の男女平等な社会を皆さんと一緒に目指したいと思います」と語ってくれた。

次に、福岡県立小倉商業高等学校２年の材木野亜さんは、『経済学者のピーター・ドラッカーは「今日、最も困難な試練に直面している先進国が、この半世紀間、社会として最もよく機能してきたのが日本である。私はみなさんと共に世界のあるべき姿について深く吟味し、格差、貧困、戦争など、世界が共通する問題に着眼し、世界のどこで生まれ育っても、一人ひとりが質の良いと想えるクオリティー・オブ・ライフの実現への鍵を見つけていきたいです』と話してくれた。

最後に私立近畿大学付属和歌山高等学校３年の築野成哉さんが、地元和歌山に対する思いを述べ、「私は現在高校三年生で、来年はアメリカの大学に進学し、ビジネスを学びます。そしていずれは和歌山に戻り、農業を通じて世界と繋がるようなビジネスを立ち上げたい。都会と田舎、先進国と途上国の違いを見てきた経験をいかしたいと思っています。講師、関係者の皆様には、このような学びの場を設けて頂き、有難うございます。塾生の皆さん、自分自身を成長させる貴重な時間を一緒に過ごしましょう」と塾生に呼びかけた。

（２）塾生の様子と特徴

▲質疑応答では多くの手が挙がる

20 期生は昨年と比較し、新型コロナウイルス感染症の５類感染症移行に伴い、活動において様々な制限が緩和された結果、この貴重な 2 週間を最大限活かすために主体的に活動する塾生が多い印象だった。しかし、積極的で視野が広く、活発な塾生が多く見られた一方、具体的に指示されないと行動に移すこと難しいという消極的な塾生は少なからず見受けられた。

▲ディスカッションの様子

講義面では、質疑応答の時間や講義終了後にまで積極的に質問する塾生の姿が多く見られた。貴重な機会を最大限活かそうとする姿勢が見られた。加えて、講義で学んだことを休憩時間に仲間と話す姿も多く見られ、ただ講義を聞くだけではなく、自分の知識として落とし込もうとする姿が印象的であった。また、実際に講師の先生のお話を聴講したうえで、講義後に講師の先生と直接お話を聞きにいく積極的な塾生も多かった。2 週間という限られた時間の関係上、講義の内容についてディスカッションをする時間を確保することは難しかったが、自発的に感じたことや疑問点を仲間と共有したり、講師に教えていただいたことをハイスクール国会につなげることで、しっかりインプットとアウトプットを実践していた塾生の姿が印象的だった。

生活面では、塾が始まった頃に学校と全く異なる環境に置かれ、すぐにルールや生活リズムに馴染むことができない場面は多く見られたが、徐々に各クラス学級委員を中心に時間やルールを守って生活することができるようになった。毎日タイトなスケジュールであったが、講義が始まる 5 分前には着席し、食事や入浴なども決められた時間を守るなど、当たり前のことだが、塾の一員として自覚を持って行動することができていたと思う。しかし、消灯時間を過ぎても話し続けている姿や、あらかじめ伝えられていた服装の規定を守らないなど、体調不良の原因となる行動も見られたのが残念だった。特に消灯後は自分だけではなく、他の人の睡眠を妨害していることを理解し配慮することを指摘されたことにより、他者のことを考えられるような行動ができるよういなったのではないかと思う。

▲ホームルームの様子

感染症対策は、政府の決定により、新型コロナウイルス感染症の５類感染症移行に伴い、食事や掃除、入浴などで多くの場面では制限が緩和された。しかし、リーダー塾では、集団行動をとるため塾開始前には、塾生は各地域から出発前に抗原検査を実施してもらった。その時点で全員の陰性結果を確認したうえで、塾初日を迎えた。しかし、塾中に新型コロナウイルスによる体調不良者が出たので、塾生が担当する委員会を中心にお互いに呼び掛け合い、新型コロナウイルス感染症が蔓延しないように務めた。これにより、マスク着用、検温、黙食などにも自発的に協力してもらった。しかし、約 20 人一部屋という生活環境だったため、塾期間中 44 人の塾生が感染した。感染者は、宿泊棟の１階分を療養部屋として、高熱がない人はその階のミーティングルームにパソコンを設置して、オンラインで参加してもらった。クラス内では、感染者が円滑に話し合いに参加することができるように工夫し、感染者と非感染者が団結する塾生の対応力の高さを感じた。

各々の学校生活では、他の生徒を引っ張る立場にある者が多い中、自分より経験や知識の多い仲間に出会うことで、刺激を受けたり時には壁にぶつかったりしている姿も見られた。塾に参加することで異なる地域の人々と関わり、自分より優れた人が存在することに気づき、初めはショックを受ける塾生もいたが逆に新たな気づきとなった。新しいものと触れ合う中でお互いが知らなかった世界を発見し合い、自分自身を振り返る成長の機会となった。今回出会った仲間と切磋琢磨しながら、今後もさまざまな場面で活躍して行ってほしい。

▲前夜祭で盛り上がる塾生

（３）短期間での成長

■卒塾生代表挨拶

最終日に行われた卒塾式では、緊張した様子が見られた入塾式から一変、2 週間のプログラムをやり遂げた、堂々とした表情が多く見られた。期間中の成長は卒塾式での代表挨拶に表れている。今年は学生リーダーから推薦された 2 名の代表者が、塾を通して学んだことや卒塾後の抱負を声高らかに宣言してくれました。

【３組】大熊 陽透さん（東京都私立成城学園高等学校２年）

２週間前、少しのワクワクと大きな不安を抱いて私はこの武道場に座りました。それは新しい環境での生活に高揚する一方で、親元を離れることや周りとの学力の差、友達ができるかどうか不安で、緊張していたからです。卒塾生の方が２週間はあっという間に過ぎてしまうとおっしゃっていたのに、正直３日目までは密なスケジュールについていくのが必至で、１日がとても長く感じました。しかし、ある日から矢のように時間が過ぎ、みんなと離れたくない、帰りたくないという一心で今、卒塾式のこの場の代表として挨拶をさせていただいています。

▲代表挨拶をする大熊陽透さん

私は自分を変えるためにこの塾に参加しました。私の通っている高校では、3 ヶ月に１度受験生に向けた学校説明会を行っていて、私はその委員会において副委員長をしています。

しかし、自分の中で副リーダーはリーダーのおまけにすぎないのではないかという固定観念や疑問があり、自分自身のポジションには満足していませんでした。人をまとめる能力については、もともと自信があったため、リー塾に来ても副リーダーのような役割を果たしていました。このような状況が変わったのは佐賀 2 日目にリーダーをしてくれていた子の代わりに私がクラスのリーダーをやったことです。そして、クラス全員、25 人の意見をまとめているうちにあることに気付きました。

それは、リーダーと副リーダーの違いさほどなく、求められるスキルは変わらないということです。その時からリーダーを支える役割に劣等感を感じなくなり、自分の夢が企業をサポートするコンサルタントであることも相まり、副リーダーという立場に自信を持ち、誇りに思うことができるようになりました。さらに、「リーダーを支え、リーダーと共にあるリーダー」という新たな理想のリーダー像も見つかりました。僕は将来、ここにいる誰かの会社でボスの右腕となって働きたいという野望があります。もちろん、中には僕のリーダー像に賛成できない人もいると思います。しかし、リーダーを支える副リーダーとして、大学、もし可能なら高校の内に誰かの起業のサポートにつきたいと構想しています。

最後に、卒業まで支えてくださった担任の先生方、学生リーダー、事務局の方々、グローバルアリーナの方々に御礼申し上げます。20 期！みんな大好きです。

【６組】大村 さやかさん（私立遺愛女子高等学校２年）

▲代表挨拶をする大村さやかさん

今回の卒塾式で塾生代表の挨拶を努めさせていただく、北海道私立遺愛女子高等学校 2 年の大村さやかと申します。まず、この場で塾生を代表し、挨拶をする機会をいただけたことを、光栄に思います。

私がリー塾への参加を決めたきっかけは、小学生の頃から親しくしていた人の存在です。彼女は過去にリー塾に参加した経験を持ち、私にリーダー塾への参加を勧めてくれました。彼女の凛として堂々としている姿に憧れ、私も彼女のように自分を変え、成長したいと思いリー塾への参加を決意しました。

私が理想とするリーダー像は、常に謙虚で学びを楽しむことが出来るリーダーです。このことを踏まえて、リーダー塾では、様々な知識を吸収しようと思い、臨みました。しかし、自分よりも豊富な知識を持ち、自分の軸を持つ人達と自分との差を感じ、初日から不安な気持ちを抱えていました。それでも、どんな私でも受け入れてくれる仲間の優しさが支えとなり、リー塾で過ごす時間が楽しくなっていきました。

また、グローバル社会の最前線で活躍している一流の先生方の講義は自分にとって有意義なものばかりでした。特に、自分の命を顧みず人命救助を行う川原尚行先生の講義にはとても感銘を受けました。先生のお話の中で、「諦めたら終わり。成功までやり続ける。」という言葉がとても印象に残っています。壁にぶつかるとすぐに諦めてしまう自分にとって、この言葉はいつまでも私の励みとして心の中に強く刻まれると思います。この講義後、私は最後の最後まで、自分を信じて努力し続ける力を身につけることが出来たと思います。私はこの力をもって、将来の夢である心理の先生になり、悩んでいる人々を支え、救いたいと思います。

さらに、ハイスクール国会では仲間との議論を新鮮で楽しく思う反面、苦労したことも多くありました。私ははじめ、意見を出すことすら出来ず、理解することに必死でした。時には、意見が対立したこともありましたが、話し合いを重ねる毎に、仲間から多くのことを学び、クラスで一致団結して寄り良い政策を作ることが出来たと強く思っています。

私はリー塾に参加することが出来て、心からよかったと思っています。今までは、学校や部活などの限られた小さな世界で過ごしてきましたが、この２週間でさらに自分の視野を大きく広げることが出来ました。仲間と議論する中でクラスの中も深く密なものへと変わっていきました。かけがえのない仲間との出会いに感謝し、これらからも互いに切磋琢磨しあえる関係でありたいと思っています。

最後に私たちを全力で支え、応援してくださった事務局の皆様、担任の先生方、学生リーダー、各自治体の職員の方々、そして講義をしてくださった先生方に心から感謝の気持ちを述べたいです。本当にありがとうございました。

■塾での目標と達成したこと、塾を通して成長したこと（主な内容を抜粋）

私が二週間の目標として「自ら進んで声をかけたり動いたりできる行動力を身に付ける」を掲げました。これを目標とした理由として、学校で人の目を気にし自分の発言を曲げることがあったからです。リーダー塾ではいい意味で皆遠慮がありませんでした。学年など関係になしに意見を交わし合い、何か間違えたとしてもそれを責める仲間はいない。そのような環境に身を置いたおかげで私は自主性が育ち、目標を達成することが出来たと思います。
「自分の意見をはっきり人に伝えられる人になる」という目標を掲げました。私は学校での話し合いの時にあんまり自分の意見を言うタイプではありませんでしたが、リー塾でたくさん話したおかげで言えるようになりました。
私の２週間の目標は「少しでもこっちを選んで良かったと思えるような行動を進んですること」でした。全体的に見てこの目標を達成できたと思います。少しでもやりたい、そして周りにとってこうした方がいいと思ったことがあれば迷わず手を上げる、または動くことを心がけて生活していました。そのため、人生の中で一番忙しいけれども充実した２週間が過ごせたと思います。
「同じ志を持った仲間を見つけて、一生の友と出会いたい」という目標を立てていた。志高い人たちが集まってきていたので、国際社会で活躍して世界平和や福祉の向上に貢献する、という志に近いものを持っている子を見つけることができた。そして、クラスのみんなとは 2 週間前は見知らぬ別人同士だったとは思えないぐらい本当に仲良くなった。気の合う友達も見つけられたし、また全員とどこかで会いたいと思った。
最初の日に設定した目標は、「全国の高校生と友達になって新しい視点を取り入れること」、「自分の意見を発せられるようになること」だった。去年部活の先輩がリーダー塾に行き、レベルの高い高校生が集まることは知っていたけれど、こんなにも意識が高くて、考え方やモノの見方が違っていて、優しい子たちがいるとは知らなかった。また、学校ではなかなか意見を発することができない自分も、リーダー塾でなら発言をしてみようという気持ちになった。
「色んな人と関わって自分の知識と経験を増やす」というものだったですが無事に達成することができました。本当に色んな子がいて考え方も人の数だけあるなどととても感じました。学校では体験できないような濃厚で楽しい経験をしつつ自分のなかで色々なことを成長させることができた 2 週間になりました。この経験を廃れさせないようにこれからも行動していこうと思います。
2 週間の目標は「広い視野で周りを見て、自立した人になれるようにする！」でした。ハイスクール国会やホームルームなどでは、困っている人にアドバイスしたり手を貸したりできましたし、時間管理や提出物の管理もできていたと思うので、目標は達成することができたと思います。2 週間の目標ではありましたが、これからも継続していけるようにしたいです。
2 週間の目標は、「たくさんの人の講義を聞く中で将来の夢を見つけること」だった。 結果的に見れば、今でも将来の夢は見つかっていなくて、悩んでいる状況だけど、こんな人になりたい、という理想の人物像は、なんとなくだけど見つけられてよかった。
「自立して、周りにももっと配慮し頼れるリーダーになる。そして、多くの意見を聞いて、考えて、自分の視野を広げる」という目標のもと、2 週間を過ごしました。まだまだ未熟かもしれませんが、達成できたと思います。特に、自分の視野を広げるということです。11 年間同じ学校に通ってきた私にとって、はじめは少し不安や怖さもありましたが、一つ一つが刺激的で、視野が広がりました。反対からの視点なども持てるようになりました。

（4）塾生の今後の課題

塾を通し、多くの塾生が目を見張る成長を遂げたが、以下には塾生が今後さらに強化すべきと思われる課題を挙げたい。今年度は全体を通して、講義に臨む態度やハイスクール国会、キャリア教育に真摯に臨む姿勢が見られた。しかし、自己管理や休憩時間と講義のメリハリなど改善すべき点も多々見られた。この経験を活かすため、何が足りなかったのか、今の課題は何なのかを考えてほしい。現状に満足せず、より広い世界で羽ばたいてほしいと考えている。

例年、講義が始まる 5 分前に着席することができず、学生リーダーやスタッフに呼びかけられるという光景が見られる。今年もはじめは同様な光景が見られたが、塾が進むにつれ、学級委員を中心に着席を呼びかけたり、自発的に講義に使うプリントの配布、会場設営などを手伝うなど、広い視野を持つ塾生が増えていった。プログラムに対して受け身になるのではなく、自分達が作り上げるという姿に驚かされると同時に、大変嬉しく思った。

また、感染症対策のため一部塾生がオンラインで参加する事態になった際にも、設備の関係で電波が安定しない中、議論の方法やカメラを置く位置、情報共有の仕方などを自分達で工夫し、クラス一丸となって活動に取り組んでいた様子は感動的であった。全員で楽しもうとする姿勢はこれからも持ち続けてほしい。

しかし、塾が始まってからも消灯後に話していたり、忘れ物をしてまったりするなど、自己管理を徹底する必要が見られた。

卒塾後の活動

卒塾後、IN・COM 株式会社の大嶽一省様のご厚意で塾生はオリジナルネッピーをデザインし、缶バッジにしていただくことになった。大嶽様のご厚意に深くお礼申し上げたい。

卒塾後の 9 月には、塾生に事後アンケートを実施した。また 11 月には、保護者、学校の担任の先生に事後アンケートを実施した。塾生本人にはリーダー塾での経験を振り返ってもらい、保護者と担任の先生方には塾生の参加後の様子を第三者の目線から見ていただく。塾生の成長や変化を様々な角度から知ることにより、卒塾生のフォローアップや、より魅力ある塾運営のために役立てることが狙いである。（巻末参考資料①～②参照）

ここでは、塾生への事後アンケートから「卒塾後の活動」を一部紹介する。卒塾してすぐに活動している塾生も多く、行動力には目を見張るものがある。卒塾生達は今、全国各地で目の前にある課題をしっかりととらえ、自分の出来ることから挑戦を行なっている。今後も事務局は、卒塾生の活動を出来る限りサポートしていきたい。

【学生団体・ボランティア】

地元のこども食堂でボランティア活動を始めました。今後は国内の貧困層に関するプロジェクトを企画する予定です。
市の多世代交流館でボランティア登録をしました。
社会問題を解決していく高校生事業家集団という学生団体を設立しました。若者の投票率低下、日本と世界の防災問題、環境問題という 3 つのテーマで自分たちにできることを考え、実際に事業化して自分たちで行動していくという内容です。
学生団体 asmii を立ち上げました。エシカルコスメやファッションを世の中に当たり前のものとして、SNS を通じ普及させるとともに今のオシャレの在り方について考えるという活動内容です。企業訪問を積極的に行い学ぶことで真のエシカルを追求し若い世代に発信していきたいです。
リーダー塾で知り合った友達と、海外の高校生と日本の高校生との交流の場をオンラインで作ろうという取り組みをしています。

市の国際交流協会と共同で、高校生が外国人に観光案内をするイベントを実施します。
地域を活性化させるために小学生や県外から来た大学生へ地域の良さを伝えるボランティアに参加しました。
縄文文化を理解するための体験活動を 10 月に企画しました。
リーダー塾の友達と高校生カウンセラーの学生団体を立ち上げメンバーを集めて計画しています。
同じ学校のリーダー塾生と学生団体を立ち上げました。和歌山県の地域との繋がりを通じて行うプロジェクトを計画しています。

【リーダー塾報告会】

記者の方がいる前で市長に「参加してよかったこと」などの事後報告を行いました。
えひめ高校生次世代人材養成の一環として、愛媛県内の高校生約 40 人と先生方に対して ZOOM で報告会を行いました。
学校の文化祭で全校生徒、先生、保護者の方々へ報告会を行いました。
学校で報告会を開催し、リーダー塾で学んだことやこれからの抱負などを発表しました。
学校新聞でリーダー塾についての記事を掲載しました。
校長先生や全校生徒に朝会でリーダー塾について報告しました。後日、まとめのレポートが学校公式の instagram にて掲載されました。

【学校活動】

学校の生徒会長へ立候補しました。
これからの社会を生きていくために、世界規模の視野が欲しかったので、「交際交流部」という部活動を立ち上げ、様々な活動に参加しています。
生徒会で体育祭に向けて、競技の内容を考えたり、パンフレットを作成したりしています。
学校の学年で地域の問題について考えるディスカッションの時間を作りました。
「学校に交換留学生を呼べないか」と先生と検討しようと思っています。
生徒会企画で地域との交流の一環として、地元の就労継続 B 型事業所のパン屋さんのパンを販売し、校内での理解を上げていきたいと考えています。
10 月に学校の代表として福島へ行き、原発などについて学び、ボランティア活動を行う予定です。

【その他】

市の友好都市である中国の大連市に使節団の 1 員として訪問することが決まりました。
米国領事館に企画を持ち寄り、米軍基地の高校生らと交流をしたり、同じような活動の支援をしている企業への訪問等の活動を予定しています。アメリカ、オーストラリア、インド等からも参加者がオンラインで集まってくれる予定で NPO 法人化も考えています。
リーダー塾で出会った仲間と一緒に保育園へ訪問し、私たちが考えた”将来あるべき英語教育”を子どもたちに提供していきたいと考えています。
リーダー塾講師の稲富先生に直接お会いしに行き、お話を聞きました。
大牟田駅若者情報発信拠点整備事業という市管轄の事業のワークショップに参加すると決めました。
地元の議員さん支部長さん支援者の方にお会いして、政治活動で大切な事を学びました。
バドが好きな人のためになることをしたいと思い、バド好きの人が相談、共有、解決につながるようなインスタグラムのアカウントを開設しました。

７．塾を支えるスタッフ

リーダー塾では、開塾当初から社会人によるクラス担任制度をとっている。狙いは、高校生に、学校の先生ではない企業や地方自治体などで経験を積む社会人を身近な存在として接してもらうためである。例年、クラス担任は、協賛企業などが派遣してくださっている。今年も２０代～５０代までの年齢も職種も多種多様な１２名の社会人の方々に、６クラスに分かれて、前半後半のそれぞれ一週間を受け持っていただいた。合宿形式で指導していただくことに加えて、療養中の塾生にはオンライン形式でも指導していただき、塾運営を支えていただいた。クラス担任は、日々の講義や議論の指導だけでなく、塾生の様々な相談にも乗っていただいている塾の要の存在である。

そのクラス担任を支える学生リーダーは、主に卒塾生からなる大学生・大学院生が参加してくれている。各クラス２名と統括２名の計１４名の学生リーダーを配置した。高校生である塾生にとって、年齢も近く、すぐ先のロールモデルとして身近な存在である。黙々と業務をこなす学生リーダーに、塾生は尊敬と憧れの気持ちを持っていた。学生リーダーは塾を円滑に運営するための重要な縁の下の存在でもある。

今年塾開始前からクラス担任・学生リーダーに、多くのサポートをいただいた。毎年、現地で行う事前研修も、例年通り九州在住のスタッフ以外はオンラインでのハイブリッド形式で研修を実施した。塾本番でも、療養者へのハイブリッド配信や、食事中や合宿生活での感染対策の指導、陽性者発生によるプログラムの急な変更など、多くの場面で献身的にご協力いただいた。コロナ禍のなか、塾を支えてくださった皆さまには、改めて深く御礼申し上げたい。

▲ハイブリッド形式での事前研修。対面で参加した担任の先生とオンライン参加の学生リーダー

今年はポストコロナの合宿開催となったため、事務局に、旅行添乗などの経験豊富な大家美希さんと、弊塾の担任やアドバイザーとして経験豊富な特定非営利活動法人九州・アジア経営塾の市川智也さん、担任の経験もある春日市役所の上野志保さんをアドバイザーに迎えた。大家さんには、講師の交通手配、コロナ感染者の食事手配など生活面のサポート、塾生の食事のアレルギー対応などの重要な業務を、市川さんには、アドバイザーとしての事務局のサポートや担任のフォローをはじめ、講師への対応や体調不良者の移送をしていただいた。さらに上野志保さんには週末に参加していただき、講師の方々への対応、コロナ感染者の対応、卒塾式に向けての指導など事務局を支えていただいた。

また、看護師の派遣会社に依頼し、看護師の藤谷拓也さんに全日程、堀チカ子さん、右山綾子さんに１週間の交代で常駐していただいた。体調不良の塾生の対応やコロナ陽性者発生時のきめ細かい対応など大きく貢献していただいた。

グローバルアリーナの皆様には、陽性者が発生した際、宿泊部屋を用意して快く受け入れていただき、さらに、陽性の塾生を元気づけるために差し入れまで用意していただき、塾の継続へ全面的なバックアップをしていただいた。

その他、講師の送迎や現地での準備をお手伝いしてくださった福岡県の皆様、塾生の受付業務や機材などサポートしてくださった宗像市の皆様、また陽性者発生時だけではなく今年の開催のためにご協力をいただいたその他の参画自治体の皆様には心から感謝したい。

ここでは、２週間を共にしたクラス担任と学生リーダーについて述べたい。

クラス担任

（1）概要

担任の先生は、各協賛企業を中心に各社の中堅クラスのリーダー格の社員を送ってくださるので、安心して塾生をお任せしている。今年の派遣企業・機関は、下記の通りです。

■クラス担任派遣企業・機関（順不同）

学校法人麻生塾麻生専門学校グループ
株式会社 NKB
独立行政法人中小企業基盤整備機構
株式会社 QTnet
株式会社ミズ
九州電力株式会社
エコー電子工業株式会社
株式会社正興電機製作所
株式会社ふくや
西部ガス株式会社
防衛省陸上自衛隊
学校法人中村産業学園（九州産業大学）

▲塾生の前で挨拶をする様子

▲塾生にアドバイスを送る様子

クラス担任の先生方には１クラス２５名の塾生を担当していただいた。6 月の事前研修では、先生方にリーダー塾の特徴や担任の役割を伝えていた。また、塾生自身に主体的に考えさせるようにしてほしいという指導方針を伝え、各人の社会人経験をもとにクラスを運営するようお願いしていた。塾生にとっては、親や学校の先生以外の大人から指導を受ける機会はない。塾生の成長のため、熱心に指導してくださる先生方の姿を見て、「こんな素敵な大人がいる」と感動し、ロールモデルとして目標にしたいという塾生も多かったようだ。社会人としての経験や知識に基づく先生方の言葉から、塾生たちは多くのことを学んでいた。

今年はコロナによる規制が緩和されたが、塾途中からの感染状況の悪化を受け、急遽現地と療養部屋からのハイブリットとなった。想定していなかった状況にもかかわらず、柔軟に独自の指導を取り入れながらご対応いただいた。急遽変更となったため、先生方にはご迷惑をおかけして申し訳なく思う。しかし、状況をご理解いただき、クラスの学生リーダーと協力し、どうしたらオンラインの塾生も主体的に参加出来るか考え、試行錯誤しながら塾生とコミュニケーションをとってくださった。

▲担任交代式の様子

卒塾後もクラスで集まったり、塾生の進路相談にのってくださったりと、先生方と塾生の間で交流が続いている。今回の塾を実りあるものにしてくださった立役者であるクラス担任は、なくてはならない大きな存在だ。クラス担任の感想は、次ページの通り。

（2）クラス担任感想

■クラス担任からみた塾生の感想

思った以上に国内外に目を向け真剣に考えていると感じた。こちらもとても刺激になった。健康に関しては時代なのか暑さ、環境変化に弱い子が多いと感じた。いい意味で高校生でした。"
塾生全員と接することが出来ませんでしたが、私が関わった塾生は他人を思いやり、素直で真面目な子たちばかりでした。
自分の目標を明確に持っている塾生が多いと感じた。自分の意見を言えないこと、通らないことに対して、悔しさを感じる塾生が多いという印象を受けた。"
全国トップクラスの生徒の集まりと聞いており、全員が学級委員タイプで自己主張が強い子が多いのかと思っていました。実際に接してみると普通の高校生と変わらないと感じました。最初は集合時間に間に合わない等あたりまえの事が出来ない生徒もいましたが、生徒同士でフォローして徐々に改善していました。リーダー塾で自分を成長させたいと思う生徒が多く、同じ事を注意することはありませんでした。
クラスの塾生は素直で優しくて真面目な子が多かったです。また全てにおいて肯定をする塾生だったので、クラスの中でメンタルダウンする子は一人もいませんでした。男子は少し天然な子も多く、時間等ルーズなところもありましたが、１週間の内最後の方はしっかりと意識していたと思います。やはりリーダー養成塾には打てば響く塾生が集まってきているのだと思いました。「リーダー」としての意識が高い子はクラスに半々だったかもしれませんが、２週間の中でほんとの意味でリーダーを意識できるようになったと思います。"
コロナの対応のため、学生リーダーや担任が手を取られてしまったためか、例年に比べ少し全体的にゆるい雰囲気を感じてしまった。具体的には、就寝時間、講義中の態度、クラスでのディスカッションなど。リーダー塾に対する姿勢が学びの多さに比例すると思えるため、我々がどのようにリーダー塾全体の運営に関わっていけるかが重要になると改めて感じた。

■クラス担任の指導方針、クラス運営

生活指導や集団行動の重要性など、いわゆる普段の学校生活で指導されることは極力触れずに、チームビルディングやファシリテーション、論理的思考など、通常の学校教育ではあまり習わないことを意識的に伝え、学校教育との差別化を図った。子供たちからは「全然学校では教えてくれなかった」との意見もあり、講義だけでなく、それ以外の活動でも学校で習わないことを意識的に伝えていくことが、子供たちの将来の飛躍につながりやすくなるとともに、この塾の存在意義を更に高めることができるのでは、と感じた。
塾生の自主性に任せるスタイルをとりました。議論が煮詰まったときや質問をされたときにヒントを出すようにして答えは言わないようにしていました。基本的に塾生と接するときはフレンドリーな空気を心掛けましたが、時間を守る、忘れ物をしない等が出来ていないときはしっかりと注意をしました。
誰ひとり取り残すことのないクラス作りを心掛けました。食事や移動のときなど、自分から積極的にクラスの中に入り、ひとりひとりのキャラクターや個性を見るようにしました。また、リーダーを目指して来ている塾生たちなので、積極的な発言・意見出しをするような対策を学生リーダーと共に考えました。
前半から交換日記が行われており、自発的に日記を書く塾生とやり取りしていましたが、日記を通じてそれぞれの生徒たちの思いに向き合い、接し方を考える機会になりました。日記のやり取りを通じてこちらの考え方などを理解してくれる塾生も多く、短期間で交流を深めることができました。一方で、オンラインの学生とは交流の機会が少なく（後半は LINE のやりとりなどでスムーズにできた点もありましたが)、通信環境が良くなく、彼らの現状や気持ちを察する機会が少なく感じました。
クラス討議においては参加できない子が出ないように少し促しましたが、基本的に学級委員や党首の子に運営をしてもらいました。また、陽性者の子たちのオンライン対応なども含めて、最初を除いて塾生に任せました。
常に学生に考えさせる、答えを簡単に出さないをぶれない軸として 1 週間過ごしました。あくまで学生主体で先生は陰からサポートを意識しすぎ、もっと学生の中に入りこめばよかったかなと思います。

指導として、チームとして行動するうえで、一人一人が他人ごとでは無く自分がリーダーだったらと考えさせていた。
高校担任とは異なり、私が社会人の担任という立場を塾生にはすぐに意識させ、一線を引き緊張感を持たせる向き合い方をするように留意した。短い期間の中で、友人関係を築く必要はなく、私の経験の還元として、彼らが将来様々な場面に向き合った時、少しでも支えになる言葉や経験をさせたいと考えていた。塾生が自分達で決めた事や、行動した事は自分達が結果責任を持つ、私は別に困らないというスタンスと時に見せながら、自立するような接し方を行った。高校生は多感な時期であり、年齢の近い事務局や学生リーダーの方々には、塾生と距離が縮まりやすい環境がある分、一定の距離を保った接し方を期待したい。

■クラス担任をした感想

高校生の旺盛なチャレンジ精神に私も負けられないなと感じた。ハイスクール国会はひとつのものをみんなで作り上げていく、その過程に色々な気づきがありとても為になりました。
接する相手の年齢が違っても、一人一人と向き合う「マネジメントの基本」は変わらないことを改めて実感した。帰った後も日々の職場メンバーとの対話を大切にしたいという気持ちが更に強くなった。宮川眞喜雄氏の講義でグローバルの視点から鑑みた今後の日本の課題を分かりやすく伝えていただき、自分の視座が高まった感覚を覚えた。
高校生たちは大人を冷静な（厳しい）目で見ていると感じました。彼らは大人の矛盾も弱い部分も毀誉褒貶な部分も真っすぐに見ています。そういう彼らに対して恥じない大人でいたいと思うようになりました。
正直まったく知らない中でのスタートだったので、運営側の期待するレベルでなかったかもしれない。私自身は大変気づきの多い 1 週間でした。特に相手に興味をもち気に掛けること。相手の反応はあまりないかもしれませんが、続けていくことで相手の心が開いていく感覚を実感できました。佐賀県知事山口さんの講義は、相手を引き付け、思いを伝え、行動を促す。参考になることだらけでした。
塾生や学生リーダーのみなさんと話したり、接したりする中で、改めて自身も成長し続けることが重要だと感じ、挑戦するパワーを注入してもらったと感じています。
クラス担任を経験しての変化は、しっかりと人を見る事・聞くことの大切さを意識するようになりました。
高校生とともに生活し、彼らと議論する、一喜一憂する経験はお互いに刺激になった。
高校生の発想や意見に学ぶことが多くありました。また、個人的には小林洋子さんのお話を聞けたことが嬉しかったです。
塾生の一生懸命な姿に自分も同じように取り組まないといけないと感じた。

■クラス担任に対する塾生の感想

どちらの先生も学校の先生とは違い、私達の考えや思いを大事にしてくれていたように思います。そのお蔭でクラスが早い内から纏まったし、クラス担任が変わっても意見交換が出来ているクラスになった。一番印象に残っているのは、喋る時に自分の目を見て話を聞いてくれている子を見つけ、その子達の近くへ視線を向けながら話しているということです。私は一対一にしても一対多にしても、人と目を見ながら話を聞くのは苦手でしたが、話し手側からすれば目を見て話を聞いてくれる人に向けて話すほうが気楽だということを間接的に感じたからです。リーダーである以前に、相手におもいを伝える上で大事なことを改めて理解することが出来ました。
学校の先生は勉強を教えるというイメージですが、リー塾のクラス担任の先生は勉強よりも、キャリア教育などで、私たちに職業の選択肢や、きっかけを与えてくださる方々でした。前半も後半もクラス担任の先生はハイスクール国会にあまり介入せず進行を私たち塾生に任せてくださり、自分的には国会をやりやすかったです。キャリア教育で、薬剤師の方からのお話は何度か聞いたことがありましたが、体験型の授業で興味をそそられるキャリア教育でした。先生の私たちに楽しんでもらいたいという想いが伝わってきて、優しさを感じるエピソードでした。
誰よりも、「僕」という存在を真摯に観察してくれた。そして、成長のために、僕のためのアドバイスをく

れた。学校の先生よりも、一緒に成長してくれようとしてくれた。一緒の高さで考えてくれたことが、ただただ嬉しかった。印象に残ったひと言がある。「君は誰よりも人を見ているね」僕を見つけてくれたような気がして、僕をしっかりと見てくれているような気がして、本当に救われた。今まで出会った大人の中で、一番目線があった大人でした。僕も、これくらい誰にでも寄り添える大人になりたい。
リーダー塾の先生の方は、ずっと見守っていてくれていたけれど、塾生の自主性を尊重して、クラスの話し合いでは塾生がやりたいと思うようにさせてくれた。また、学校の先生よりも親身になって塾生に寄り添ってくれていると感じた。ほとんど口出しをせずに塾生の思いを尊重してくださった点、クラスをより良いものにしようと熱い思いでぶつかってきてくださった点がありがたかった。私がコロナになって、前半の先生とのお別れ会に参加できなかった時、わざわざ部屋の近くまで来てくださったときは本当に嬉しかった。
リーダー塾のクラス担任の先生は、本当に人生の先輩としての関わりやアドバイスをいただけたと思います。1 週間通して、私たちの人間としての部分を見た上で相談に乗ってくださったのが、とてもよかったです。ただ、1 週間はとても短く、関われる時間が少なかったのが残念です。前半の先生が最後の挨拶で言った「旅を続けることができる人が真のリーダーシップである。旅の途中に成長した姿でまた会いましょう。」という言葉が胸に響きました。
クラス担任の先生のほうが自分たちと同じ視点でいろいろな話をできると感じた。いろいろな経験をしてきた担任が多く、自分の将来のことに関して相談しやすいことがよかった点だと思う。クラス担任の先生から、人間関係の秘訣について教えてもらったことが一番印象に残った。
学校の先生とは違い、企業でのキャリア経験が豊富な方が多く、学校の先生と同じような親近感がありつつもキャリア教育を受けられるという違いがありました。また、キャリア教育だけでなく、クラスを盛り上げたいという情熱を感じられ、クラス活動に対してアドバイスを聞けたことです。一番印象に残っているのは、前半の担任の先生の最終日に、クラスのみんなで先生の名前にちなんでクラス T シャツの'右'肩にメッセージをもらったことです。
上に立っているのではなく横に並んでいてくれているように感じた。学校の先生は一歩壁があるように感じることがあったが、リーダー塾のクラス担任の先生は本当に自分たちに寄り添ってくれて、少しの時間でも声をかけてくれ、一人一人にしっかりと接してくれているように感じた。また、相談したときに真摯に話を聞いてくださった。自分が頑張らなきゃと気持ちが張り詰めていた時に、声をかけてくださって冷静な意見をもらい気持ちをリセットできた。
コロナになってあまり担任の先生と話す機会はなかったけれど、リーダー塾が終わった後先生から連絡が来たことが印象的でした。みんなのことを考えていらっしゃるのだなと思ったし、それぞれの生活に戻った後でも繋がりが続くことが嬉しかったです。

（3）評価点、課題

急遽ハイブリット開催となったことや、陽性者が発生した後の運営など、流動的に対応することが非常に多かったため、実際にやってみた結果、事務局も想定していなかった問題点・疑問点が浮上することもあったが、先生方には大変柔軟に、献身的にご協力いただいた。

特に、濃厚接触者の待機期間などのセンシティブな情報を塾生に冷静に伝えることや、待機中の塾生が少しでも主体的に参加しやすくなる工夫などに尽力していただき大変感謝している。

これまで学生リーダーに業務が集中していたことから、クラス担任からもっと仕事を自分たちに振ってもらってよいというご意見をいただいていたが、今年はクラス担任のほうから率先して仕事をしていただいたため、大きな問題がなかったが、クラス担任と学生リーダーとの間で連携が取れなかった場面もあった。しかし、全体的に今年はクラス担任と学生リーダーの業務量のバランスに改善が見られ、協力して塾運営に携わることが出来たと思われる。

学生リーダー

（1）概要

学生リーダーは卒塾生を中心とした学生ボランティアで、塾運営の一翼を担っている。クラス担任と塾生の橋渡し役となりクラス運営をサポートする「クラス担当」と事務局の仕事や撮影、ハイブリッド講義関係を行う「全体統括」、さらに今年新しく設置した「総括担当」は事務局と学生リーダーのパイプ役として全体運営に携わった。今年は全国から１４名の大学生が集まった。「全体統括」の学生リーダーにも各クラスの副担当としてクラス運営にも携わってもらった。また、関東在住の５名の学生リーダーにはアルバイトとして塾開始前から運営に携わってもらった。

■学生リーダーの所属校（五十音順）

学校	学年	卒塾期	担当
旭川市立大学	4年	15期	総括
北九州市立大学	3年	16期	全体
京都大学	2年	16期	全体
国際基督教大学	3年	14期	クラス
国際基督教大学	4年	14期	クラス
上智大学	2年	18期	クラス
千葉工業大学	2年	16期	全体
中央大学	2年	18期	全体
東海大学	4年	―	クラス
松山大学	2年	―	全体
明治大学	2年	18期	全体
立命館アジア太平洋大学	4年	16期	クラス
King's College London	3年	15期	総括
University of Nebraska at Kearney	4年	13期	クラス

▲講義の準備とする様子

▲卒塾式で挨拶

▲卒塾式で塾生とお別れ

▲学生リーダーと事務局の集合写真

学生リーダーの募集は、全卒塾生を対象に送付したニュースレターに加え、卒塾生交流ＳＮＳ、Instagram や Facebook 等の SNS で行った。学生リーダーは大学２年生以上の大学生および大学院生を対象としている。学生リーダーの選考は書類とオンライン面接を行った。卒塾生が１２名、非卒塾生が２名であった。今年度は定員よりも多くの応募をいただいた。忙しい中応募してくださった全ての卒塾生に感謝申し上げたい。

授業の都合がついた学生リーダーには塾開始数日前からグローバルアリーナに入ってもらい、準備に協力してもらった。グローバルアリーナに前泊していただいた学生リーダーには、機材の設置や塾初日の準備、講義会場や宿舎の設営などをお願いした。また、7 月初旬に行われた事前研修以外にも業務に慣れるため、今年はほとんどの学生リーダーに事前入りしていただき、事務局も含め学生リーダーの経験者に現場で実際に業務の説明など行っていただいた。また、塾設営のために講義で使用される机や椅子を設置するなど、体力がいる作業も多くあった。学生リーダーには塾開始前から塾後まで、塾生への生活指導、事務局の手が届かない細やかな作業、専門分野を活かした自発的なワークショップの実施、力作業、書類整理など多くを支えてもらい、精神的にも体力的にも運営になくてはならない存在であった。塾終了後も、学生リーダー主催の進路相談会やクラスでのオンライン同窓会を実施するなど、塾生との交流は長く続いているようだ。学生リーダーの献身的な協力に心から感謝申し上げたい。

（2）役割と今後の課題

学生リーダーに求められる姿勢としては、次の４点を重視している。

① 塾生を指導する立場として、塾生の模範となるような行動ができること
② スタッフ間のチームワークを大事にし、高め合える人材であること
③ 塾の内容や方針は毎年進化するので、過去にとらわれない思考をもつこと
④ 主催者の一員という自覚をもち、主体的に責任を持って行動すること

事務局をサポートするため、全ての学生リーダーが自発的に行動し、塾運営における中核を担ってくださった。クラスでは担任の先生方と話し合いながら、HR の運営やハイスクール国会での指導を行なっていた。クラス担当の学生リーダーは塾生と接する機会が多い分、常に塾生の精神的・身体的な健康面を気遣い、行動してくれていた。今年は途中で急遽ハイブリッド方式での開催となったため、機材・設備を担当した全体統括担当の学生リーダーは遅くまで接続方法について検討をし、スムーズな講義運営をしてくれた。また、事前にその日のスケジュールや会場を把握して、どのように動けばスムーズにオンライン・オフライン双方の塾生がコミュニケーションをとれるかを考えながら準備をしてくれた。総括担当の学生リーダーは塾が始まる前からハイスクール国会や学生リーダー全体の取りまとめをしていただき、塾の集大成であるハイスクール国会のみならず塾開催を成功させてくれた。

また、今年度は過去に学生リーダーの経験がある者が少ないため、初めのうちは初参加の者は業務や塾運営の流れに慣れるのに苦戦する様子が見られた。しかし、少人数でありながらも経験者の者は積極的に過去の経験で得られた知識を教えながら、プログラムをより円滑に進行するために全員で話し合い共有した結果、初参加の者からも新鮮な視点から新しい解決策を実践できたと思われる。事務局として説明が至らない点も多々あったかが、その都度最善策を自発的に考え、意見の違いが生まれたときには話し合うという姿勢はまさに、塾生のロールモデルになっていたのではないかと思う。

加えて学生リーダー間でのチームワークは最初まとまりにかけるものだったが、時間が経つにつれ一体感のあるものになった。今年度は大学 2 年生から大学４年生と少し幅広い年齢層であった。それにより、経験や知識の差が見られる場面も散見された。しかし、経験の少ない者は積極的に質問し、経験の多い者はわかりやすく説明するなど、常に協働する姿勢が見られた。塾生にチームワークが大切であると言葉で伝えるだけではなく、背中で伝える姿は塾生への刺激になったのではないかと思う。

塾生の感想の中には「自分もいつか学生リーダーになりたい」とあり、非常に嬉しく思った。

（2）学生リーダー感想

■学生リーダーから見た塾生の感想

高校生ならではの純粋さ、元気の良さを感じました。そして、何かを掴み取りたいという情熱を持つ塾生が比較的多かったように感じます。質疑応答時の挙手数の多さにリー塾への意欲を感じましたが、講師の方や先輩から何を聞き出したいのかの意図が分からない質問をしている場面もありました。また、就寝時間を守る、電気を消す等の生活面で不十分な部分もあった為、ここがクリアになればもっと成長できると思いました。
まず良かった点としては、元気があり挨拶を返すことができていた点である。小さなことかもしれないが、他者とのコミュニケーションが必要不可欠となっていくであろうこれからの時代において、すべてのファーストコンタクトとなる『挨拶』がきちんとできることは何よりも大切であると考える。だからこそ、きちんと返してくれることに喜びを感じた。しかし、同時に足りないと感じた点は、その挨拶の仕方である。ただ返せばいい、ただやればいいといった挨拶になっているのではないかと塾生の様子を見ていて感じた。

全体的に忘れ物が多い期だったと感じました。段ボールが 5,6 個いっぱいになったのは初めて見ました。ハードスケジュールは毎年変わらないのにもかかわらず、「スケジュールがキツイです」と言う塾生が多かったように感じます。

今年の塾生たちは、ハイスクール国会においても途中で挫折することや失敗を経験しても、諦めることなく、最後まで協力しながら取り組んでいた点がとても印象的でした。また、塾期間の後半においては、一人一人が自分の意見を持ち、全体に共有する、また抗議の質疑応答においても数多くの手が挙がり、一つ一つの成長のチャンスを逃さず、自分のものにしようと努力している生徒が多くいたように感じます。また、荷物運びの手伝いや、体調を崩してしまった学級委員やクラスメイトの仕事面、精神面でのフォローも自主的に行なっている生徒も見られ、とても温かい気持ちになりました。一方で、スケジュールを実行する上での時間の配分、例えば逆算して何分までには武道場にいなければならない、荷物を運ばなければならないというような行動ができていない人、声がけをされてから行う人などが多少多かったような気もします。

■学生リーダーの感想

塾生のキラキラした表情と、未来に希望を持って今を生きている姿を見てとてもパワーをもらった 2 週間でした。また自分が今何を求められていて、どう行動に起こすべきかという目的と優先順位に悩んだ 2 週間でもありました。塾に関わる全ての人に支えられて、集団行動や組織として動くことについて様々な考え方や価値観に触れることが出来たと思っています。沢山の感動と成長を与えて頂いたリー塾という場にとても感謝しています。

「なんて純粋な高校生なんだろう」と感じました。先生や学生リーダーからのハイスクール国会のアドバイスはしっかり聞き、その中で自分たちの個性を出そうとしていました。後半の先生のキャリア教育で「アイディアを出していくには色々あるうちから 2 つ選んで組み合わせたらいいよ」と言われたら彼らはあみだくじをして解決すべき課題を決めていました。最初は彼らの行動に驚き、不安でしたが、これは彼らの純粋さから来ていたのだと感じました。そして、担任の先生を経験している先生と学生リーダーを経験している学生リーダーがコンビを組むと最強だと感じました。お互いリーダー塾の大枠は理解しているため、「前回できなかったことを今回やってみよう」となったり、「こういう状況はこう対応するよね」となったり、自然とお互いのやるべきことややりたいことができていたように感じます。

学生リーダーの業務は、運営の裏方の仕事だけでなく、塾生や担任の先生、事務局や講師の方など、さまざまな人と関わることが多く、対人での接し方などを学ぶことができるため、とても有意義な体験だと感じました。また、塾生が成長する姿を間近で見て、自分自身の業務を遂行することで、自分の成長にも繋がったと思います。高校生の時に参加した時と同様に、成長し自分のやるべきことを頑張ろうと思わせてくれたリーダー塾にとても感謝しています。

リー塾のプログラムを実行し、成功させるためにたくさんの人が尽力しているということを生徒として参加した時とは別の現場、視点から見ることで改めて実感し、また感謝の気持ちを抱きました。全ては生徒のためにとクラス担任の先生方、事務局、学生リーダー等が一丸となって励んでいるからこそ、私自身も高校生の時にかけがえのない経験や思い出を得ることができたのだと再度思いました。

他では経験できないことを経験することができたと思っている。その分学びも多かった。明確なここが成長したとは表現しづらいが、何よりも、自身がついた。色んな人からたくさんの言葉をもらい、自分がしていたことが間違いではなく、誰かしらに影響を与えることができていたことを実感することができ、本当に良い時間を過ごすことができた。

■学生リーダーに対する塾生の感想

私たちの 1 番の理解者だった。特に私のクラスでコロナが蔓延したとき、私たちに注意するのが辛いだろうに一生懸命感染対策しようと注意してくれたことを覚えている。我慢させてごめんねってずっと謝っていたけど、大好きな学生リーダーのためならどんな我慢もできた。また会いたい。
担任の先生とは違い。塾生に近い立場にいるが、とても遠い存在に見えました。数年しか違わないのに、キラキラして見える、大人に見える。とてもいい刺激をくれる存在だと思いました。
学生リーダーが、沢山動いてくれたことでスムーズな生活を送ることが出来ました。たくさんの笑顔でクラスを明るくしてくれたり、最後の前夜祭の準備もたくさん手伝ってくれて本当に感謝しかないです。
家族のような心の支えの存在でした。お姉ちゃんみたいにフレンドリーに話しかけてくれたり、写真を一緒に撮ったりなど楽しかった思い出しかありません。家族と離れているからこそ、歳が近い学リが本当の家族のように気軽にクラスの皆と関わってくれて、クラスの雰囲気もとても明るかったです。どんな話も親身になって聞いてくれ、やりたいと言ったことへのサポートが頼もしくて、感謝してもしきれないぐらいお世話になりました。コロナで大変で食べられない、寝れない日々を過ごしたにも関わらず、いつも笑顔で弱みを見せない学生リーダー・事務局の皆さんは私達の希望でした。本当にありがとうございました。
クラスの雰囲気を作り上げていってくださった重要な役割だと思います。入塾して間もない最初の頃は、塾生皆が緊張していてやや暗めの雰囲気が教室にただよっていたのですが、学生リーダーさんが明るく振る舞ってくださったことにより、クラスの雰囲気も良い感じになりました。私のクラスの学生リーダーさんがハイスクール国会の話し合いの際には私たちにかけてくださったアドバイスの言葉が、私たちのクラスの流行語となったことがとても印象に残っています。
学生リーダーはクラスにとって親身なお兄さんお姉さんであり、時には厳しくもリーダーになるにはどうすればいいのかをアドバイスしてくれる頼りになる存在でした。また、海外の大学に進学している学生リーダーが多いため、進路の相談に乗ってもらい、そして行動を起こしている姿はとても刺激になりました。また、コロナの隔離中自分達も感染していて体力的に辛い中、私たちに気を配ってくださって、とても感謝しています。
誰よりもクラスのために、メンバーのために動いてくれた。本当に尊敬しています。クラスで何か問題が起きた時に、一人一人に寄り添ってくれて、個人の課題の解決にも尽力してくれた。毎日、個人へのメッセージの中で、自分の核心に触れてくれるひと言をくれて、救われたし、感動した。今まで出会ったたくさんの人の中で、僕を大きく成長させてくれた、大きな存在だ。学生リーダーがクラスのために泣いてくれた HR が印象に残っている。本気で向き合ってくれていたのだなと知れたと同時に、こんな人間になりたいと思った。また、辛いときは隣で肩をさすってくれて、ポンっとヒントをくれたり、人としての礼儀を教えてくれたりした。
私たちが毎日過ごしやすいように毎日朝早くから夜遅くまで動いていただいてほんとに感謝しても仕切れない存在です。今回リーダー塾期間中にコロナウイルスが広まってしまった時もこれ以上蔓延しないようにと私たちを気遣ってくれてほんとにありがたかったです。私も大学生になったら学生リーダーとしてこの恩をリーダー塾に返したいと思っています。
序盤の潤滑油、リーダーの先輩。こういう人達がリーダーとなっていくのだと未来を描けるようなリーダーシップを最初の方に感じて、この塾でどのように過ごしていくかが明確となった。私がコロナになりつらかった時に LINE で声を掛けてくれて、とても嬉しかったのを覚えている。それと同時に、一緒にいなくてもクラスのメンバー全員に目を配れるような視野の広さがすごいと思った

8．カリキュラム

（1）日本や世界で活躍する一流の講師による講義

リーダー塾は、日本や世界を代表する学者、経済人ら各界を代表する一流の講師による講義が大きな特徴となっている。今年は、20 周年ということで例年の約 20 人から 30 人の方々に講師をお願いした。例年「卒塾生発表」としていたのを起業家、企業広報、政治家（町会議員）の卒塾生 4 人に初めて講師という位置づけでお願いした。詳細は後述の 20 周年記念イベントのところに記したい。

今年の「ハイスクール国会」は、20 年後の日本や世界がどうなっているかを考えた上で、「20 年後のニッポン未来計画」を立案することだった。そこで、講師も国連、外交官、NGO 団体の代表、国際関係論の学者、歴史家、知事、起業家ら幅広い分野の専門家から将来の日本の在り方、日本は世界の国々や国際機関といかに難しい課題解決のために貢献していくのか、そして次世代が一人のリーダーとして何をすべきかも含めて話していただいた。

日本で初めての国連職員に採用され、事務次長になられた明石康先生には「世界の中の日本―もっと外に開く国に」(Japan in the world-towards a more open, dynamic country“）と題して例年通り、英語で講義をしていただいた。「パンデミック後、多くの外国人が様々な国から日本を訪れている今、最も重要なことは言語ではなく、互いを理解しようとする意志である。平和を考える上で戦争の解決に向けて、一国の基準ではなく世界の基準で決断をしなければならない。アジア諸国、特に日本は世界の基準に慣れていくことが求められる」と語っていただいた。

スーダンで医療支援活動を行い、昨年武力衝突で帰国を余儀なくされた認定 NPO 法人ロシナンテスの川原尚行理事長は、「支援中に内戦が勃発し命の危険を感じたまま長い時間を過ごした経験などもあり、究極の医療とは戦争をしないこと、させないことである。あきらめたら終わり、成功するまでやり続けること。平和は簡単になせるものではないことを日本の人々に認識してほしい」と力説した。

また、国境なき医師団日本の村田慎二郎事務局長は「リーダーシップはポジションではない。アクションである。今後どんな仕事が自分に合っているのかを考える前に、”being,having,giving”を考えるべきである。つまり①自分はどういう人間になりたいのか、あるいは人間性や人格を持ちたいのか②自分の人生で何を獲得したいのか③世の中の人たちにどういう影響を与えたいのか―を考えるアプローチだ」とシリアなどで反政府組織と交渉してきた経験から、リーダーシップの在り方について明確に語っていただいた。

宮川眞喜雄・前国家安全保障参与はマレーシア大使などを歴任した外交のエキスパート。「外交官となって痛感したことは、折々の国際環境を把握し、国家と国家の関係、国家と国民の関係について理解し、その都度に時宜に応じて適切な外交政策を策定し、実行することが如何に重要であるかということだ。国際社会は冷厳で、どの国も皆各々の国益を追求している。対立の時代に向かい、我が国は今後益々、経済力、防衛力、外交政治力を涵養し、教育レベルを向上させ、指導者の知的水準を高めていかなければならない」と語っていただいた。

国際関係学の研究者である佐橋亮・東京大学東洋文化研究所准教授は「世界秩序の阻害要素から守ることができるのは①抑止と対応力②外交の 2 つがあり、特に外交は特別な時のみではなく、普段からの関係が重要である。これからの世界をより平和なものにしていくために、言論の自由や他者の意見を尊重し、最悪な場合を考え、悲観的に見ながらも、世界は変えることができると楽観的に問題解決に向けて組んでいってほしい」と話していただいた。

様々な視点からのリーダーシップ論を各講師からご教示いただき、塾生は今後いかに専門分野を学び、将来何を目指して、20 年後の明るい未来を描くために貢献できるのかを深く考える 2 週間となった。

（2）20 周年記念行事

2004 年に第 1 回日本の次世代リーダー養成塾を宗像市のグローバルアリーナで開始して、20 回目を迎えることができた。これまでに 3405 人の卒塾生を世に輩出することができた。20 周年記念行事は 8 月 5 日・6 日の両日行われた。芦川泰彰同窓会長（2 期）が中心になって卒塾生や学生リーダーを務めた 8 人の委員が企画・運営をした。当日は関東、関西、九州の 2 期から 19 期までの卒塾生ら約 50 人が集まった。

■卒塾生によるキャリア教育

▲塾生と話す卒塾生の様子

5 日午後には塾生に対して卒塾生のキャリア教育が 2 時間行われた。グループは①人材・教育（社会人）＋海外の大学②セールス・プランニング（社会人）＋九州の大学③メーカー（社会人）＋関東の大学④メディア・広告（社会人）＋関東の大学⑤IT・金融（社会人）＋関西の大学⑥行政・政治・インフラ（社会人）＋他地域の国公立・私立大学の 6 つのグループに分かれ、20 期の塾生は、それぞれの部屋を回って参加した。塾生たちはリーダー塾で将来の夢を見つけた卒塾生たちの話を自分の将来の姿に重ね合わせ、多くの質問をした。

卒塾生たちはその後、ロイヤルホテル宗像に移動して夜、懇親会を開いた。宿泊施設の責任者から懇親会が終わった後、会場が大変きれいに片づけられていて「流石リーダー塾を卒業した同窓生たちだと感心しました」と連絡があり、何より嬉しかった。卒塾生たちは何年も経っているにもかかわらず、リーダーとして自分の夢を追いかけて社会人として活躍していることに加えて、普段の生活もきちんとできていることに対して、リーダー塾をやってきてよかったと素直に喜ぶことができた。

■日銀の黒田東彦前総裁とタイのタノン・ビダヤ元財務大臣が対談

▲握手を交わすタノン先生（左）と黒田先生（右）

8 月 6 日は、終日かけて 20 周年記念イベントを開いた。午前中は、ハイスクール国会で優勝したチーム「零災党」が英語でプレゼンテーションを行った。同党は、「水害に強い国」を掲げ、水害時に家が上へあがり、避難場所にもなり、世界の防災住居のモデルとなる「エレベーター式高床住居」を提言した。

続いて黒田東彦・日本銀行前総裁とタイのタノン・ビダヤ元財務大臣は「20 年後の日本と世界はこうなる～次世代リーダーが果たす役割」と題して、対談していただいた。

▲英語でハイスクール国会の発表

97 年に起きたアジア通貨危機で当時銀行の頭取だったタノン先生は、民間登用で財務大臣に就任。その時に金融支援する側の日本の財務省国際金融局長が黒田先生だった。

黒田先生は 1990 年から 2022 年までのアジア各国の一人当たり GDP の推移の折れ線グラフと、アジア各国の人口、最大貿易相手国、一人当たり CO2 排出量、一人当たり水資源量のアジア各国の経済の指標を示した表の 2 枚のパワーポイントを使って現状を分析。黒田先生は「今後、20 年間のチャレンジと

して地政学リスク、人口減少と高齢化、気候変動などの自然災害や食糧・水不足が挙げられる」と語った上で「アジア諸国が中国に大きく経済的な依存をする中で、地政学的なリスクの影響でアジア域内の成長率を下げるのか、それとも新たな貿易投資が生まれて経済が成長するのか重大な問題だ」と指摘した。そして、世界中の共通の問題として、CO2 削減に向けての代替エネルギーの開発コストの問題、限りある水資源が食糧問題とリンクしている現状を踏まえて、「特に人口が多いアジア諸国では水の汚染を防ぎ、いかに効率・有効的に水を使うことが求められている」と指摘した。

▲20 周年記念講義後の集合写真

続いて登壇したタノン先生は「日本に留学して、日本のものづくりは『葉隠』、侍の哲学にあることを学んだ。日本人は「心」で仕事をしていると思った。そこに西洋の技術が加わったのが日本の生産システムだ。日本人は IQ に EQ も加えて、人と機械が融合して、ものづくりを強力なものにした。今後、人と機械に AI を融合する必要がある。将来のリーダーは、泳ぐこともでき、飛ぶこともでき、自給自足もできる環境にも優しいダックのようになってほしい。逆境（Adversity）に強い AQ を身につけた未来のリーダーとなることを望んでいる」と塾生を叱咤激励した。

対談の後、塾生に対して「将来が明るいと思う人」と「暗いと思う人」を聞いたところ、10%が「明るい」と答え、70%が「暗い」と答えた。黒田先生は「アジア諸国はこれまで様々な困難に直面してきたが、常に解決してきたので、今後の 20 年も楽観視している」と語った。

続く質疑応答では、国連や国際機関の在り方についての質問に対してタノン先生は「国際貿易では自由貿易が経済発展には欠かせないのだが、目に見えない問題が起こっている。価格制度を先進国がコントロールしているからだ。（ノーベル経済学賞をしたアメリカの）ジョセフ・スティグリッツ氏はフェアトレードのシステムを構築すべきと提唱している。どんなことかと言えば、アメリカで 100 ドルする教科書をアジアで 20%の価格で出版することなどだ。タイがＴＰＰに消極的なのは薬品のライセンスの価格が高いためだ。今後、アメリカの政治力は弱体化していくだろう。そして、中国、ロシア、インド、ブラジル、南アフリカの BRIX が益々台頭することとなる。金融マーケットもこれまで米ドルに独占されてきたが、各国の外貨準備高は、ユーロ、円、金を増やすことで調整されている。デジタル通貨の時代がやってくる。黒田さんが ADB で提唱したアジアドルなど検討すべきだ」と話した

黒田先生は「私がアジア開発銀行（ADB）総裁時代の ＡＳＥＡＮ＋３財務大臣会合でアジア共通通貨単位をつくる議論をしたが、時期尚早と議論から落とされた。アジアの中での為替相場の不安定さを回避するためには検討に値する」と解説した。

また、塾生から「日本のリーダーに欠けている点は」との質問に黒田先生は「自分の意見や考え方をドシドシ外国の人にぶつけて議論をすることが大事で、遠慮すると無視されてしまい、日本の利害や考え方が軽視されてしまいます。ビジネスの場、政策の場、アカデミアでも自分の考えをはっきりと相手に理解されるように説明し、主張することが必要です。大学生も同じ。今大学院でも教えていますが、日本人の学生はあまり手を挙げて質問をしない。コロンビア大学やスタンフォード大学でも講義をしましたが、たくさん質問が出てどんなこと考えているか知れて面白かった。常に相手に理解されるように積極的に発言するのが重要です」と指摘した。

最後に塾生から黒田先生に「日本経済をけん引するリーダーとして心がけていた点は」と問われて、「私は大蔵省、内閣参与、アジア開発銀行、日本銀行と様々な経験をしてきました。そして、ニクソンショック、石油ショック、バブル崩壊　アジア通貨危機、リーマンショック、コロナ禍を経験して、何が国民にとって望ましい政策なのか。日本の国益が世界の利益や考えと反するものであった場合、日本の考え方をはっきり伝える。そして国益との調和点を交渉を通じて探っていくことが重要だと思ってやってきました」と総括した。

■20 周年へのマレーシアのマハティール元首相のメッセージ

▲マハティール元マレーシア首相から祝辞

開塾以来毎年講師を務めているマレーシアのマハティール元首相は、今夏、ちょうどマレーシアの統一地方選と重なってしまったため来日できなくなったためリーダー塾 20 周年へのお祝いのビデオメッセージを送ってくださった。内容を紹介したい。

「20 周年おめでとうございます。こんなに長い間、リーダー塾が継続してきたのは、コミュニティに受け入れられているからだ。若い時から世界に立ちはだかる課題を知り、リーダーシップを持つことの大切さを知ることがとても重要だ。そうすれば間違った生き方をしない。パンデミック、気候変動、戦争は一か国だけでなく、世界中に影響を与える。世界に住む人々はこの狭い地球で起こっていることを理解して解決しないといけない。また、リーダー塾に行き、高校生と考え方やアイデアを交換したい。リーダー塾は、若者たちに適切な知識と、現在立ち向かわないといけない課題に取り組む能力を備える教育を行っている。未来に直面する課題解決に必ず役立つことだ。リーダー塾が末永く継続することを期待している」と力強いメッセージを送って下さった。

■２０周年への感謝と卒塾生の言葉

▲アリ・イザットの挨拶が卒塾生代表挨拶

開塾以来、リーダー塾を支えて下さった榊原英資・塾長代理、谷井博美・前宗像市長、河野克也・宗像副市長、近藤勇・グローバルアリーナ社長に塾生やスタッフが拍手でお礼をした。

現在、マレーシア政府奨学金で一橋大学社会学部国際政治を専攻するアリ・イザットが挨拶。「4 年前、留学を控えクアラルンプールで日本語を学んでいた 1 年目の夏にリーダー塾に参加しました。アジア・ハイスクール・サミットの討議で意見が割れても少数意見を排除せずに尊重することなど、言語を越えた大切なことを学ぶことができました。今、私は大学生で、外国人としてリーダー塾事務局で日本の高校生をまとめています。まさに人は国境、宗教、人種を越えて同じ人間。グローバル・シティズンです。自分以外の文化に触れることはとても大切だと思います」と述べた。

■人生の社会人先輩と卒塾生による起業家とパネルディスカッション

▲パネルディスカッションの様子

午後からは、りーダー塾理事である滝久雄・ぐるなび会長、芦川泰彰（卒塾生）・ロボカル社長、井口剛志（卒塾生）・ベンナーズ社長 3 人による「20 年後の日本に夢を描く～起業家からの提言」と題して起業家によるパネルディスカッションを行った。それぞれの発言、は講義概要を参照していただきたい。

塾生から滝先生への質問では、リーダーとして必要な資質として「苦境に立っても楽しむことができること」、高齢化向けの産業については「日本は世界で最も高齢化している。高齢化社会の先進国として精神的な成長産業だ」、起業家として時代の流れについていくには「チャンスを捉えて、オピニオンリーダーの話を聞きにいくことや哲学的な本を読んで頭を整理することと歴史を学ぶが重要だ。江戸時代は 260 年続いた平和な時

代で中身の濃い繊細な文化が生まれた。また、日本民族は他の文化を受け入れる意思があり、理解するセンスを持っている。世界の人々と接触することが重要」とアドバイスした。

▲滝会長の質問に手を挙げて答える塾生

一方、芦川先生は一度会社を清算してその後、就職せずにまた起業したのは「父親は開業医だったが、小さい時からまわりに起業家が多くて、影響を受けた。大変なことだらけだが、事業をすることは面白く何より大好きだ」、部下に対しては「強みを伸ばすことが大切で、そのためには部下と徹底的に向き合うことが大事」と経営者としてのマインドをアドバイスしてくれた。

井口先生には日本の高校を 1 年で中退してアメリカの高校に転入したことについて「一人っ子で親に反対されたが、日本の高校に籍も残さず、退路を断ち、やりたいことをやり残さないことが重要」と、起業家として「とりあえずやってみること、やる前からあまりポジティブとマイナス面を考えすぎず、迷ったらやってみることが必要」と自分の体験に基づいて話していただいた。

午後 2 番目のセッションでは小林洋子・宇宙航空研究開発機構（JAXA）監事、三菱 UFJ 信託銀行社外取締役監査等委員、大林組社外取締役、卒塾生である柴田春奈・ロート製薬広報・CSV 推進部担当、VENTURE FOR JAPAN（副業）、またリーダー塾初の政治家となった崎山佐穂（卒塾生）・福岡県篠栗町議会議員による「女性が変える 20 年後の世界」と題するパネルディカッションを行った。

▲パネルディスカッションの様子

それぞれの発言は講義概要を参照していただきたいが、塾生からの「人生で最も大変な出来事は」との質問に小林先生は「インターネット立ち上げの時に社内でほとんどが反対の中で限られた時間内に新しいプロジェクトを立ち上げたとき」と話し、柴田先生は「会社から復興支援に行ったときに被災者から『どうせすぐに帰るんでしょ』と言われながら、早朝から夜遅くまで時間を忘れて頑張ったこと」と語り、崎山先生は「カナダに留学した時に想定していなかったアジア人として差別されたこと」と語った。

▲講義後の集合写真

「女性として仕事をしていて得したと感じたことは」との質問に、小林先生は「まだ生え抜きで女性役員がいない場合、株主から役員として女性が必要とされているから社外取締役になれること」、崎山先生は「政治家に立候補した時に女性だと注目されるから」、柴田先生は「会社で新しい企画などを出したときに聞いてもらえること」と挙げた。

塾生が講師として登壇したことに塾生からは「リーダー塾の先輩がリーダー塾をきっかけで夢を叶えている姿に自分も頑張ればできるかもしれないと勇気をもらった」との声が多くあった。来年度以降も卒塾生の講師を多く迎えていきたい。

（3）ハイスクール国会

「20 年後をデザインする～高校生が考えるニッポン未来計画」

概要

リーダー塾では、従来、講義で学んだことを活かしつつ、特定のテーマに対して塾生が主体的に議論し、解決策を導き出すことを目的としたプロジェクト「アジア・ハイスクール・サミット」をプログラムの一環として行ってきたが、今年は 20 周年ということで、塾生がそれぞれの出身地の代表として、20 年後の日本がどうあるべきかを真剣に考えようと「ハイスクール国会」として取り組むこととした。

このプロジェクトは、正解がない課題に挑戦することで、近い将来、一人ひとりがリーダーとなった際、解決することが難しい課題に対し、率先して取り組める能力を高校生のうちから養うことを目的としている。

2023 年では、世界を混乱状態に陥れた新型コロナウイルスのパンデミックは一段落と収束しつつあるが、パンデミックによる影響は経済、社会、医療などに広がっており、世界はまだ完全に勢いを取り戻していない。同時に、ウクライナにおけるロシアの軍事侵攻の激化に続き、中東地域ではイスラエルとハマスによる対立が再び勃発し、国際社会は依然として多くの課題に直面しており、世界の緊張感は高まりを見せていた。ここ 1 年間を見てみると海の向こうだけではなく、国内でも少子高齢化社会の中での財政再建、経済成長の実現、脱炭素社会への転換、対外政策など、課題が山積している。

こうした情勢から 2023 年のハイスクール国会では「20 年後をデザインする～高校生が考えるニッポン未来計画」というテーマを掲げ、混迷深まる世界情勢の中で、世界で起きている問題を踏まえつつ、20 年後の日本の国の姿がどうあるべきかを次世代を担う塾生たちは徹底的に議論した。

このプロジェクトは構想の段階から、議論の前提となる知識が高校生の間で不足していることが懸念されていた。そこで今回は、参加する塾生に対して、塾本番前に ①自分の住んでいる地域の課題②日本の課題③世界の課題を調べて、内容をまとめるということを事前課題とした。20 年後の日本や世界はどうあってほしいか。そのために解決しないといけない課題とは何か。課題解決のために日本は何をすべきか、具体的な政策を考えてもらった。

今までこのような問題に対して日常の中で深く考えたことなかったが事前課題により国内外で抱えている問題に対する意識と知識が高まったという声が塾生から多く聞こえたため、事前課題の設定は大きな成果があったといえるだろう。

また、講義の面でも今回のテーマに合わせ、国際連合で事務次長を務め、平和維持活動に携わってきた明石康先生や前内閣国家安全保障局・国家安全保障参与の宮川眞喜雄先生、または、国際関係論を専門とする東京大学東洋文化研究所准教授の佐橋亮先生に国際関係や国際政治の分野で専門の講師にお話いただいた。それに加え、医療分野では長年スーダンで医療活動を行っている川原尚行先生、感染症のスペシャリスト長崎大学熱帯医学研究所国際保健学分野教授の山本太郎先生、国境なき医師団日本事務局長を務められている村田慎二郎にご登壇していただき、経済分野では実際にアジア通過危機に立ち向かい、復興と安定化に向けた取り組みを進めた前日本銀行総裁の黒田東彦先生とタイ元財務大臣のタノン・ビダヤ先生にご対談していただき、塾生は幅広い分野にわたる知恵を貸していただいた。

本プロジェクトでは、前半と後半の担任が交代するタイミングでクラス内での議論の途中経過を報告する「中間発表」、リーダー塾の終盤には議論の集大成としての「最終発表」を行っており、そこに向けて議論を収斂させることが求められた。また、今回は最終発表後、塾生が発表を相互評価し、最も心に響いた政策への投票を行った。そこで、発表の評価基準として次の 4 項目を事前に定めた。

評価基準

Ⅰ リーダー塾を通した学びが反映されているか

Ⅱ 理想やビジョンと具体的な政策に一貫性はあるか

Ⅲ「奇想天外な発想」が含まれているか

Ⅳ 将来実現可能な政策である

■事前課題の感想

新聞やネットで記事を見つけて、その問題について深掘りすることで、これからの私たちの地域、日本、世界が少し見えた気がしました。決して、楽しい未来ばかりではないと思うけれど、よりよい未来になるように、今からできることをやっていこうと決心できました。
今の日本は私が思っていた以上にたくさんの課題があることに気づかされました。私が挙げた課題は子供に関する課題が多かったのですが、子供に関することだけでも何個も課題でありました。また地域や世界によって、全く違う課題があることに気づかされました。20 年後により良い日本にするため、まずは課題を調べて知ることが大切だと感じました。
解決したい社会問題について日本の観点や世界の観点からと区別して調べることによって、日本の自殺率がいかに深刻化しているのかを知ることができました。また、自殺問題を本を使って調べることにより、より深く自殺のことについて知ることができました。
日本の課題を色々と考えながら調べているうちに、新たな発見をしました。日本では医者の地域偏在はあまり問題視されていないのですが、結構深刻な状況にあったということです。そこで将来自分が、医師が少ない地域に赴き、そこで医師の増加を呼び掛けられるような仕組みを作りたいと思いました。
事前課題では自分が知っている知識だけではなくたくさんのリサーチや経験に基づいて自分の意見を書くことができた。また、地域の課題についての項目では静岡県ならではの問題や改善点を挙げたことにより、多くの人に静岡のことについて知ってもらえたと思う。そしてクラス内で共有した時には自分とは違う地域から参加した人の様々な意見を聞くことができ、大きく自分の視野を広げることができたと思う。

① 議論の様子

6 つのクラスに分かれて、課題設定をして、方向性を決め具体的な問題点や解決策について議論するのが一連の流れである。プロジェクトは初日の「概要説明」から始まった。今回のプロジェクト企画が生まれた経緯や内容、議論に対してどのよう内容が期待されるか、説明が行われた。概要説明後、クラスごとに割り当てられたミーティングルームでの議論が始まった。内容が難しいテーマであるため、序盤は議論の方向性を定めるのに苦労したクラスがほとんどであった。

▲議論の様子

自分たちが思う 20 年後の日本、あるいは 20 年後の世界の理想像は非常に多種多様で共通認識を合わせるために定義づけから入り、各自が事前課題で学んだことをクラス内で共有したり、評価基準から逆算して理想の姿を模索したクラスなど、議論の滑り出しは様々だった。今回の評価基準では、「奇想天外」と「実現可能」という一見相反するような評価指標が存在したため、その狭間で悩んでいたクラスも見られた。しかし、意見が割れたり途中で議論が曖昧になったりしたものの、最終的には、どのクラスもオリジナリティ溢れた解決案にたどり着くことができた。

プロジェクト中盤では、新型コロナウイルス陽性者や濃厚接触者の隔離に伴い、ほとんどのクラスが途中でハイブリッドでの実施を余儀なくされた。事務局では、塾開催前に新型コロナウイルスの感染状況が悪化するリスクを考慮に入れて、各クラスにパソコンやポケット Wi-fi などを用意したが、場所に

よってインターネット環境が不安定なところもあり、対面とオンラインを併用する方法にはいくつかの問題点が浮上した。しかし、スタッフと塾生で力を合わせ、各クラスとも創意工夫を凝らして何とか議論を形にすることができた。

他方、相手を傷つけたくないために塾生同士がお互いに遠慮してしまい、言いたいことがうまく言えず、議論がまとまらない場面も多々あった。また、議論が進む中でクラス内での理解度や参加している塾生の温度差が出て、全員がうまく議論に参加できない場面に陥ることもあり、悔し涙を流す塾生の姿も見られた。

クラス担任や学生リーダーがサポートに入り、どうすれば全員が議論に参加できるのかを真剣に検討した結果、最終発表までにはすべてのクラスが態勢を立て直し、プレゼンテーションに向かうことができた。これらは今回に限った問題ではなく、毎年必ず同様の問題が発生する。塾生は試行錯誤しながらも課題をどうにかして解決しようと手探りで努力し始める。

お互いの意見を尊重することも重要であるが、より良好な関係性を築くために一つの目標に向かって、自分の主張を率直に相手にぶつけることも時として重要である。塾生には「意見の否定」と「相手の人格の否定」は全く違うものであることを分かってもらう指導が必要である。今回の議論で得られた成果を今後の生活に活かしてほしい。また、「ハイスクール国会」において事務局が第一に重要視することは、いかに素晴らしい成果を残すことではなく、クラスの 25 人の意見を誰一人取り残すことなく全員が納得できるようなディスカッションをするかという過程にある。

■議論の感想

議論自体がとても高度でそれぞれが意見をはっきり述べることができるのがすごいと思った。それらの意見をまとめる役に徹することができたのも楽しかった。あまり話していない人に話を振ったりするなど周りを見ることができる人がいたり、仕切るのが上手い人がいたり、人間としてみんなから学ぶことが多い時間だった。
ひとりは、政治のことについてよく知っていたり、ひとりは魚のことによく知っていたりと様々な分野でみんなの知識かありました。私達はみんながひとりひとり意見を言いあい、知識の共有をすることでネットがなくとも様々な情報を知ることが出来ました。また、人が喋っている時は真摯に向き合って自分達の意見を受け取ってくれる仲間達にとても感銘を受けました。
前に立っている人だけで議論を進めてクラスが分断した時に、「ちゃんと周り見てやろう」と声をかけたがクラスが変わらなくて、泣き出したことがある。その時にクラスのみんなが、もっとクラス全員で向かってやろうという雰囲気に変わったのが１番印象に残っている。
思うように議論が進まなかった。少人数ではスムーズに進むのに対し、クラス全員で議論を行うと一切話が動かないという問題点があったため、全体での話し合いは苦労した。クラスのメンバーはみんな意思がしっかりとしていて、興味のあることや気になったことに対して、どんどん質問をしていく姿勢が良かった反面、話がそれていってしまうことも多くあったので思ったことを発言するだけでなく考えて発言することも重要であると感じた。
始めは、あまり意見を出せず、話についていけていなかったのでどうしようと思っていた。クラスのみんなが助けてくれたからすごくよかったし嬉しかった。段々と意見を出せるようになっていて、微力だが貢献することはできたのかなと感じた。

② 中間発表・最終発表・本会議

▲発表する塾生

中間発表は７月３１日に行われ、各クラスが模造紙やスライドに政策をまとめ発表した。各クラスの途中経過を評価するために、中間発表は７月３１日に実施された。この時点でコロナにかかる塾生が続々と出始めたのだが、塾生は決して心を折れることなく、なんとか全員の意見をまとめて今までのディスカッションの内容を発表してもらっ

た。学校生活で答えのない課題に対して、大人数で議論をしたことのある塾生は少なく、中間発表の内容は薄い内容だった。すでにどこにでもあるような解決策や、実現性の低い解決策が多かった。審査員から指摘されたフィードバックを受け止め、最終発表に向けて解決策をさらに仕上げるきっかけになった。3 人の審査員による厳しいフィードバックに悔しい思いをする塾生も多く見られたが、すぐに切り替えフィードバックを参考に再議論をしていた。

8月4日に行われた最終発表では、スライドを用い各クラスが政策を発表し、塾生や審査員による質疑応答も行われた。最終発表の当日は加藤専務理事・事務局長に加え、塾生担当の事務局員アリと総括担当の学生リーダー舩山が審査員を務めた。中間発表とは見違えるような政策内容に審査は困難を極めた。審査員の多数決により可決された3党は本会議へと駒を進めた。

▲最終発表後の投票の様子

3党による政策プレゼンテーションの後に与党を決める投票を塾生全員で行った。宗像市役所から本物の選挙で使う記載台や投票箱をお借りしての投票に塾生たちは民主主義の重さを実感している様子だった。

投票の結果、有効票 156 票のうち未来志向党 59 票、零災党 58 票、20 年前の日本ありが党 39 票となったが、過半数を占める党が現れなかったため翌日に本会議を開催することが決定した。

残念ながら否決された 3 党は、最終発表後に解党して無所属とし、一番考えが近い党への入党をするように促した。悔しさのあまり涙が溢れる塾生の姿も見られたが、互いに切磋琢磨して作り上げた政策を誇らしく思っているようだった。多くの挫折をしながら自身が納得のいくものを作り上げた今回の過程や成果は忘れないで欲しい。

最終発表後に可決された 3 党の中から与党を決める投票を塾生全員で行った。与党を目指す 3 党は「うちの党入らない？」「一緒に議論したい」といった勧誘を無所属議員に行い、福岡の地で繰り広げられた政局は本会議まで激しさを増した。

翌日8月5日の本会議では3党による政策プレゼンテーションの後に投票で与党を決定し、その党首を首相に選出した。プレゼンテーションが始まると塾生は緊張した面持ちだった。しかしながら、発表前には党のみんなで円陣を組んだり、声を掛け合いエールを送り合う様子が見られた。投票権を持つ人々にいかにして自分達の考えをわかりやすく伝えられるかや、いかに聞き手の注目を引き寄せられるかに配慮しながら、スライドを使用して発表をしてくれた。

▲首相となった桶村明希さん

投票の結果、有効票 118 票のうち零災党 58 票、未来志向党 37 票、20 年前の日本ありが党 23 票となり、零災党が与党となった。

首相となった零災党党首の桶村明希さん（私立海陽中等教育学校 2 年）は「6 組から始まった私たち零災党でしたが、他党から来た皆さんも他の政策でより良いものを作りたいという気持ちが伝わって嬉しかった。ここにいる皆さんが最後納得して終われるように明日の発表を頑張りたい。」と涙ながらに語った。

最終的な結果はこの投票によって決まったが、どの塾生も、持てる力を出し尽くしたような、満足げな表情を浮かべていた。ここで出た解決策を将来リーダーとなって実践に向けて試行錯誤する者が現れることを切に願っている。

【各クラスの政策概要】

クラス	党名	政策概要
1 組	日本再興党	「子どもが生きやすい日本」を掲げ、選挙権を持たない子どもの意見を集約した AI 国会議員“KIDS”の導入を提言。
2 組	未来志向党	自殺の多さに着目し、上司からの独断的・偏見的仕事をなくすシステム“AI セクレタリー”や個人の特技に合わせた仕事を分配する“能力雇用”を提言。
3 組	日本共画党	「全国民が政治へ参画する日本へ」を掲げ、ネット投票や世代別投票、演説会場に行けばポイントがたまるスマホゲーム“Vote to go”を提言。
4 組	愛進党	世界の中で影響力がある国を掲げ、国民が主体性を持つためのプログラム“子ども未来伝統推進学校”や国立の博物館“TraDiumPark”、ウォーキングしながら伝統を感じられるスマホアプリについて提言。
5 組	20 年前の日本ありが党	きょうだい児間の壁をなくすことに着目し、「きょうだい児マーク」を用いた割引制度を提言した。 （きょうだい児…病気や障害を抱える兄弟姉妹の居る子どものこと）
6 組	零災党	「水害に強い国」を掲げ、水害時に家が上へあがり、避難場所にもなり、世界の防災住居のモデルとなる“エレベーター式高床住居”を提言。

■最終発表、及び「ハイスクール国会」全体を通した感想

最初の頃は全員が課題として見つけてきた意見をどうやって集約するのか、というところから始まり、話し合いを進めていきました。話し合いでは何度も挫折し、何度もテーマを変えたりもしました。時には泣いたりして、みんな苦しい状況のときもありました。しかし、最後の発表のときに、なんとか形にすることができて、自分は本当によかったと思いました。発表後の反省会から学ぶことが多くあり、これからの学校生活に活かしていきたいです。
うまく伝えることができなかったり、誤解を与えてしまうこともありましたが、自分たちの思いを大切にして発表できました。私たちの発表に対してたくさん質問があったり、批判の声があったりしましたが、実際に発表することで新たに解決するべき点や改善点を発見することができました 。自分たちの中だけで考えていたのではわからなかったことも人に見てもらうことで分かりました。発表する時は少し緊張しましたが、これまでの話し合いに自信を持っていて、 仲間の存在があったので堂々と発表することができました。とても貴重でいい経験になりました。
実際に、ハイスクール国会で発表してみて、あまり自分達のクラスで出なかった意見や別の角度からの意見を聞くことができ、話し合いをする中で自分達の視野が狭く焦点が絞られていたことに気付かされました。思い通りに審査員や他のみんなに伝わらなかったこともあり、戸惑ったこともありましたが、発表後の鋭い質問や意見に対してもみんなで協力して柔軟に対応することができました。クラスの団結力はこういうところで試されるとも感じました。
短時間で相手にどう伝えるか、どうすれば理解してくれる文を作ったり話をしたりできるのか、アイデアが 1 番大事だけどそれ以外にも注意しなければならない点は多くありました。実際の発表で自分のクラスも他のクラスも見てみると PowerPoint をうまく活用しているところは理解がしやすかったり、話し方を工夫しているクラスは印象に残りやすかったりと、相手の心に残るようなプレゼンが大切だと思いました。
多角的な視点を持つ人が多いリーダー塾では通用しないことも多々ありました。そのような時こそ柔軟な対応力をいかに発揮できるかが大切だと実感しました。そして、どれだけ画期的で素晴らしいアイデアでも、相手にわかるように伝えなければ意味がありません。そのためには、実際の例を踏まえながら細分化し、大切なところを強調して伝えることが重要だということも学びました。

（4）AFS 高校留学生との交流

▲留学生の自己紹介に質問をする塾生

昨年同様、全世界約 50 カ国と高校生の交換留学を行っている公益財団法人 AFS 日本協会から九州・山口に 1 年間留学しているイタリア、アメリカ、アルゼンチン、ハンガリー、フィンランド 6 人の高校生が、佐賀県波戸岬少年自然の家に 3 泊 4 日参加した。同協会の志賀志保子理事とフィンランドに AFS で 1 年間留学した高校生ボランティア佐藤世壱さんに引率していただいた。

まず、留学生には 1 日目に全塾生の前でなぜ、日本に留学したのか、日本の学校での様子、ホストファミリーとの生活など自己紹介をしてもらった。その後、各クラスに 1 人ずつ留学生が参加し、ハイスクール国会で話し合っている「20 年後の日本や世界がどうあるべきか」について、留学生からの意見を聞き、ディスカッションをした。

塾生は、留学生が母国語のほかに英語、日本語を話す姿に感銘を受けたようだ。塾生たちの中には、英語がうまく話せない人も多く、もどかしさを感じ、英語を学ぼうというモチベーションが大きく上がった。塾開始当初、将来留学したい人と聞いたところ、あまり手が挙がらなかったが、留学生とのディスカッションの後には、留学したいと話す塾生が増えた。塾後に高校留学にチャレンジする決意を持った塾生も何人もいた。

参加留学生たちは滞在中、日本でしかできない体験にもチャレンジした。名護屋城跡にある茶苑海月の茶室で美しい日本庭園を見ながら茶の湯に親しんだ。また、波戸岬少年自然の家の指導のもと、全長 9m のカッターボートで、玄界灘を留学生同士が力を合わせてオールで漕ぐ活動を約 3 時間にわたって行った。

■AFS 高校留学生交流の感想

私は AFS 留学生と短い期間であったが、仲良くなり、母国について自分が今まで知らない場所や文化のことを教えてくれ、とても楽しく会話できた。留学生との交流を通して、今までよりもっと、自分と違う文化を持っている人たちとの交流が好きになった。
話す中でお互いの文化についてより詳しく知ることができ、また今福岡で行われている花火大会について話したりして盛り上がった。今でも連絡を取りあっており、今後もこの関係を大切にしたいと思う。
初めて同年代の海外の高校生と交流をした。これまで、海外の高校生といえば、明るくて積極的で誰にでもしゃべりかけるというイメージだったが、当たり前のことながら、シャイな子もいるのだと知れた。フィンランドという日常生活では関わりのない国の高校生と交流できる、いい機会だった。
外国から見た日本のイメージなど日本で暮らしていたら気づけないことを沢山しれたので良かった。留学生と積極的に話、意見交換できて楽しかった。
たくさんの素晴らしい道を進んでいる留学生たちの話を聞き、私が今後どんな道を進むべきかを考えされた。ひとつひとつの目標を見つけ視野を大きく膨らませて何事にも挑戦していきたいと思った。
積極的に日本語を話す姿勢に感動した。完璧な文ではなくても、相手の気持ちがとても伝わってきて、非常に良いコミュニケーションができて楽しかった。また、相手の国の学校生活と日本の学校生活の違いについて知ることができて楽しかった。

（4）今年の特徴的なカリキュラムについて

■キャリア教育

キャリア教育は、高校生のうちに社会や働くことへの関心を持ってもらい、進学や将来の目標設定をしてほしいという目的で行っている。クラス単位で行い、内容は、クラス担任の皆様にお任せしてプログラムを作成いただいた。社会人として大切にしていることや失敗談などを生の声を聞き、塾期間中、何気なく接していた担任の先生の意外な一面を知ることで、考えかたやキャリア観において多くの塾生が影響を与えられていた。高校生にとっては、どうしても目先の大学進学に意識が行くが、あくまでもそれは一つの通過点である。学生から社会人になることは大きな環境の変化であり、自分自身がどのような生き方をしたいか、しっかり考えをもつことが大切であることを、それぞれの担任の先生方から学んだ。

▲担任の先生の話を聞く塾生の様子

■名護屋城博物館

7 月 30日は名護屋城博物館を訪問した。学芸課長の宮崎先生に講義をしていただき、博物館の歴史や日本列島と朝鮮半島の交流史についてご説明いただいた。講義終了後、名護屋城博物館と名護屋城博物館本丸跡地の見学を行った。本丸跡地の見学では、ガイドの方に解説していただいた。また、タブレットのカメラ越しで復元された城の姿を見て、興味津々の様子だった。実際に現場を見ながら名護屋城や周辺地域の歴史について学習することができた。

▲博物館を見学する様子

■宗像大社

2014 年に「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」としてユネスコ世界文化遺産に登録された宗像大社を正式参拝した。大変暑い中、神職の皆様が各クラスに付いて、本殿や第二宮、第三宮などを回り、丁寧に説明をしていただいた。

沖ノ島から発掘された 8 万点の国宝の一部が展示される宗像大社横の神宝館では、須恵器や勾玉などを見学した。日本人の祈りの原初となる古代祭場を維持しているところは国内でも殆どなく、祖先が祈りをささげたであろう場所で、悠久の歴史に想いを馳せた。

▲宗像大社・本殿

■北九州市環境ミュージアム

かつて“七色の煙“に空が覆われ、洞海湾に魚が住めないほど汚染されて “死の海“と呼ばれていた北九州市が、どのように重度の公害を克服して現在のような青い空と海を取り戻したかについて学んだ。また、公害克服の他に、世界の環境問題、身の回りのエコ活動や市民・企業の環境への取り組みなど、「見て・触れて・楽しみながら学べる」というコンセプトのもと、参加型学習の形態で塾生が実際に体験して楽しく学習した。

▲展示物を見学する塾生

■安川電機

日本で初めて全電気式の産業用ロボットを開発した安川電機。未来館・歴史館では、「工場の自動化」を目指す会社の歴史を学びながら、その最先端技術を駆使したロボットやアートを見学した。特に、塾生が体験したロボットとのモグラたたきや神経衰弱、ルービックキューブ対決は大盛り上がりであった。ロボットの繊細さに驚きつつ、多くの分野や場面でロボットが重要な役割を果たしていることを実感した。また、ロボットによってロボットが作り出される製造過程を見た工場見学では、機械の力を実感し圧倒される塾生の様子が見られた。

▲安川電機見学の様子

■卒塾前夜祭

８月７日の夜、２週間共に生活をしてきた仲間と最後の思い出を作ることを目的とした卒塾前夜祭を、塾生主体のもと開催した。空き時間にクラスで練習した歌やダンスの披露、クラス対抗の企画、未成年の主張などで大いに盛り上がった。

非常に思い出に残る会となったようだ。翌日に迫った仲間とのお別れを惜しむ姿も見られた。

▲塾生の歌で盛り上がる会場

■目標宣言

８月７日に、全塾生が目標や将来の夢などを宣言する「目標宣言」を行った。塾生たちの目は自信と希望で輝いており、将来の夢だけでなく、直近で達成したい目標等を宣言していた。具体的には、「多くの国に医療を届ける医者になりたい」、「貧困で苦しむ人々を支援する団体をサポートする企業を立ち上げたい」、「地域に貢献し、活気にあふれた街をつくる」など、非常に多様性に富んだ宣言となった。今後の成長を見守りたい。

▲目標宣言をする塾生

■合唱　RADWINMPS「正解」

８月８日の卒塾式で４年ぶりに合唱を行った。塾前に塾生有志の合唱担当を選出し、彼らを中心に日々練習に励んだ。塾中のコロナ感染拡大に伴い、制約を受けた中ではあったが、素晴らしい合唱を披露してくれた。塾生、担任の先生、学生リーダーが１つになり、２週間の思い出と別れを惜しみながら涙を流す塾生も多くいた。

▲合唱の指揮をする塾生

9．新型コロナウイルス感染症への対応

今年は、新型コロナウイルス感染症が５類感染症になり、コロナによる規制が緩和されたことにより、コロナ禍以前のリーダー塾に近づけた形での開催を目指した。しかし過去２年のコロナ渦での開催経験も踏まえ事前の感染症対策や塾中にも必要な対策を行ったものの、宿泊部屋が約 20 人一部屋という環境の中で、感染が広がっていった。ここでは、開催前からの対策とその後の対応を述べたい。

（1）塾の開催前

文書や SNS で塾生や保護者に対して、通学での電車・バスの中、人込みなど繁華街を通るときは、なるべくマスクを着用すること、こまめな手洗いやうがいを励行することを呼びかけた。また、以下のいずれかに該当の場合事務局まで連絡していただき、必要な対策を講じた。

①７月 10 日以降、学校でコロナの集団感染が起きた場合
②７月 10 日以降、塾生、同居の家族や寮でコロナ感染が起きた場合
③７月 20 日以降、塾生自身が 37.5℃の発熱があった場合

（2）塾の開催時

①塾初日の取り組み

抗原検査キットを自宅に郵送し、７月２６日朝に抗原検査を実施し参加者全員の陰性を確認した
その後、例年移動中のバスで感染するケースがあったため、マスクをつけて移動するよう促し、
グローバルアリーナでの部屋は佐賀に移動するまで、初日移動のバスの同乗者と同じ部屋にした。

② 合宿中の主な感染対策

塾生には塾期間中以下の感染症対策として①マスクの着用は個人の判断に委ねるもののできる限りマスクを着用②こまめな水分補給を行うなど熱中症対策に気を付ける③ペットボトルの回しのみはしない④こまめなアルコール消毒と手洗いを徹底⑤体調に異変を感じたら速やかにスタッフへ知らせる⑥各施設や事務局が定める感染対策のルールに従う―以上６点を徹底的に行った。

③ 陽性者判明

事務局には看護師が期間中２人常駐しており、体調不良者が出た場合は、看護師が体温測定をして、発熱の場合は抗原検査を実施した。塾開始後 2 日目の夜、一人目のコロナ陽性者が発生した。翌日に同じ地域から来た塾生が 2 人、翌々日には同じ地域の 2 人と他地域の 7 人に感染が広がった。グローバルアリーナでは初日から宿泊部屋を初日バス同乗者ごとにしたのだが、陽性者発生の翌日から佐賀に移動したため部屋が替わったことや、バスでの長時間の移動、佐賀での講義の部屋、ハイスクール国会の討議部屋が狭かったことが感染拡大につながったと思われる。

陽性者は発症日から５日間施設の宿泊棟に隔離部屋を設け、携帯電話を返却して、高熱の塾生以外はオンラインで講義やハイスクール国会などのプログラムに参加した。陽性者発生以降、朝と夜の点呼時に全員検温を実施し、看護師が経過を観察した。また、マスクの着用も呼びかけ、消毒なども徹底した。陽性者の保護者には事務局から直接お電話をし、塾生の様子を伝えた。結局、期間中 44 人の塾生が感染したが、重症化することはなく安堵したが、感染拡大を食い止められなかったことが悔やまれる。来年は佐賀の日程を後ろに移動させるなどの対策を講じたい。

一方、スタッフの感染は、塾開始前の準備期間に手伝いに来られた塾外部の方が感染したのを機に、接触した事務局員、学生リーダーに陽性者が出て、速やかに隔離した。来年は外部の方にも抗原検査の実施など徹底したい。なお、看護師やアドバイザーの大家さん、市川さん、上野さん、担任や学生リーダーの方々には昼夜問わず献身的に対応していただき、JR 九州バスにも配慮していただいたことに多大の感謝を申し上げたい。

１０．アジア高校生架け橋＋の留学生との国際交流キャンプ

⑴ 文科省補助事業アジア高校生架け橋＋国際交流キャンプ開催の経緯

▲留学生と日本の高校生の集合写真

文部科学省補助事業「アジア高校生架け橋プロジェクト＋（プラス)」でアジア地域の国々・地域と G7 各国合わせて 25 カ国・地域からの高校生 58 人が全額奨学金で 11 月に来日、4 か月余り日本各地の学校に留学し、学校寮やホストファミリーに滞在しているが、オリエンテーションの一環として、日本の高校生との国際交流キャンプ（ミニリーダー塾）を実施することとなり、今夏のリーダー塾参加の高校生 30 人が招待されることとなった。

「アジア高校生架け橋プロジェクト＋」は、今年度から始まった政府事業。昨年度まで 5 年間行った「アジア高校生架け橋プロジェクト」は、アジア 21 カ国・地域から毎年 200 人合計約 1000 人の高校留学生が半年から 10 カ月間留学、公益財団法人 AFS 日本協会が受託団体として留学生を受け入れた。日本に憧れ、日本語を学びたいアジアの高校生たちは日本の高校に通い、ホストファミリーや学校寮で暮らして、コロナ禍にもかかわらず、日本の同世代との交流を深めて、成果を上げた。今年度からは日本が G7 の議長国となったことから G7 各国の高校生も招致することとなった。このプロジェクトでは、留学生だけでなく、日本の高校生たちも留学生とクラスやクラブ活動などで一緒に学び、異文化理解の大切さを学ぶ大切さを知ることとなっている。衣替えした「アジア高校生架け橋プロジェクト＋」では、日本の高校生とディスカッションをする国際交流キャンプが文科省から提案されて、リーダー塾から高校生を選抜することとなった。昨年 10 月、リーダー塾 20 期卒塾生に国際交流キャンプが行われることを発信し、「アジア＋G7・ハイスクール・サミット」で討議したいテーマとその理由を応募課題とした。

⑵ 主なカリキュラム

■国際交流キャンプ開会式

▲開会の挨拶をする加藤暁子 AFS 理事長

11 月 23 日から 26 日朝まで東京の晴海のホテルで行われた。留学生と初めて顔合わせをして、これから始まる 4 日間に期待を膨らませながら挑んだ。30 人は、国際交流キャンプで何を討議したいのかを様々なバックグラウンドを持った同世代を前に緊張気味な塾生の姿もあった。

▲開会式で挨拶をする前田みのりさん

日本の高校生を代表して宮崎県宮崎学園高校の前田みのりさんが「今日の世界はグローバリゼーションとデジタル化により大きな変革が起きている。私たちは今まで以上に多くの知識を得て、世界をもっと知らないといけない。そのためには次世代の私たちが異文化に触れ、違う価値観を学び、ポジティブで行動的にならないといけない」と話した。前田さんは学校で「インターアクト」という活動をしている。”International”な”Action”から名づけられ、ひとつのプロジェクトとしてマラウィの女性たちが安定した生活ができるように支援している。世界ではウクライナやパレスチナで多くの人が殺され、世界中では多くの人々が地球温暖化や貧困で苦しんでいます。次世代を生きる私たちは能力を発揮して手を携えて人々の幸せのためにリーダーとして

貢献しないといけない」と話し、4 日間に 25 カ国 58 カ国の留学生と日本の高校生が「異なる文化、環境に身を置く私たちが異なる意見を耳を傾けて議論したい」と訴えた。

一方、留学生を代表してミャンマーの留学生ミン・カントさんが「ここには世界の様々な街角から世界中の人々を繋ぐ橋になりたいと日本にやってきた高校生が集っています。まず私たちがお互いを理解しなければならないと思います。ここにいる皆さんのことすべてを知りたい。皆さんの話を聞きたい。家族の一員になりたいと思っています」と挨拶した。

▲アイスブレイクの様子

■「アジア＋G7・ハイスクール・サミット」で議論

サミットを仕切る事務局のアリ・イザットと濱田颯太を中心にリーダー塾学生リーダーが初めて出会う留学生と日本の高校生の垣根を取っ払うためのアイスブレイクを行った。単語を背中に貼り付けられた人が何が書かれているのかをあてるのだが、相手は言葉を使わずジェスチャーで示すというゲームで大いに盛り上がった。

▲ディスカッションの様子

本題の「アジア＋G7・ハイスクール・サミット」は、これからの地球の未来を描いていく世界の次世代リーダーが国境を越えて「こんな地球に住みたいな」をテーマに「安全保障、環境問題、ジェンダー」の 3 分野について、まず、現状の課題を議論し、それを打破する方法とその先に描かれる未来の地球の姿を考えた。はじめは不慣れな英語での議論や留学生の熱意に押され気味だったが、日を追うごとに積極的に発言する姿が見られた。

文部科学省総合教育政策局国際教育課の中野理美課長、角田理香専門官、AFS 日本協会の加藤暁子理事長の前で最終発表会に臨んだ。安全保障問題については、戦争はなくすことができるのかどうかの突っ込んだ議論の内容を語った上でいかに世界中の国々が平和条約を策定するか、環境問題では森林伐採などの問題、ジェンダー問題では交通機関内でのセクハラなど身近な問題から男女平等をいかに実現するかなど幅広い議論の内容を発表した。

▲最終発表の様子

▲最終発表会の様子

■各国・地域によるカントリープレゼンテーション

夕食後の時間を使い、アジアと G7 の全 26 カ国・地域ごとに食事や挨拶、伝統、踊りなどの文化について 2 日間に分けて発表会を行った。日本紹介のみ 2 日間行い、20 期の塾生 4 人を中心に発表した。「留学生に日本をもっと好きになって欲しい」と伝わる素晴らしい発表になった。

▲日本紹介を行う塾生

1 日目は主に折り紙やけん玉、コマ、書道を紹介し、目の前の光景に留学生たちは興味津々の様子だった。2 日目は挨拶や教科書には載っていない頻出表現を紹介した。翌日から紹介された表現を連呼する留学生も多く見られた。また、皆で踊ったソーラン節では、国境を越えて、一つにまとまった瞬間であった。

各国・地域とも楽器の演奏や民族舞踊など、総力をあげて楽しいイベントとなった。

▲文化紹介を行った高校生

■佐橋亮・東京大学東洋文化研究所准教授、ソウル大学国際研究所客員研究員の講義

ハイスクール・サミットのテーマの中で最も高校生にとって討議するのに難しい課題である安全保障問題について、専門家の講義をしていただくこととした。リーダー塾で講義していただいた佐橋亮先生が“Peace and prosperity for the people of the world : how can we achieve this?”と題して英語で講義した。概要は以下の通り。

▲講義をする佐橋先生

「将来、気候危機、生物多様性、技術格差が重要な課題となる。また、AI が戦争に悪用される可能性がある。戦争危機の原因は軍事力にあり、冷戦後も国際法が十分に機能していない状況が続いている。さらに、アメリカと中国の関係が変化し、グローバリゼーションの進展にも影響を及ぼしている。こうした中で、自由貿易の制限が提案され、危機的な状況にあることを自覚する必要がある。将来の世界を考える上で、まず自身が望む世界の姿を明確にし、国際的な秩序や価値観、ルールについても考えることが重要だ。脅威として悪意や不信が挙げられ、これに対抗するには外交やルールの確立が必要である。一方で、軍事力や経済力も大切な要素であり、これらをバランスよく組み合わせていく必要がある。対話と言論の自由も大切であり、悲観的になりがちな中でも楽観的な視点を持つことが求められる。他国を理解し、信頼関係を築くためには譲歩も必要だが、交渉の重要性も強調される。そして、異なる文化や価値観を理解するためには国際的な交流が重要であり、ステレオタイプを超え、相互理解を深めることが必要である。戦争や対立は相互理解の不足から生じがちであり、情報の適切な伝達や国際規範の分かりやすさが求められる」

▲質問をする 20 期の塾生

▲講義後の集合写真

■夢ディスカッション

期間中にリーダー塾生のみで夢ディスカッションを行った。5 つのグループに分け、これまでの人生を振り返った。次に 2 グループに分け、「今悩んでいること」を匿名で赤裸々に書き、その悩みに対し皆で話し合った。また、リーダー塾期間中に行った「目標宣言」で自身が宣言した目標を動画で再確認した。自身の現在地を把握し、改めて次のステップへと進んでくれることを願うばかりだ。

▲人生グラフを披露している様子

■ボン・ボヤージュ・ナイト

最後の夜に塾生主体のお別れ会「ボン・ボヤージュ・ナイト」を開催した。国境を越えた友人たちと踊りや歌、特技などの出し物やゲームを行った。

皆で歌った「What Makes You Beautiful」は世界の人々が手を取り合い、まさに世界平和の象徴のようだった。出会って数日の留学生たちとの別れを心から惜しんでいるようだった。

▲みんなで肩を組み歌う様子

■留学生との涙の別れ

翌朝、留学生はバスで東京駅と羽田空港に向かったが、リーダー塾生たちと涙の別れとなった。

年度末には、留学生の帰国に合わせて、再び、集大成の国際交流キャンプが開かれ、リーダー塾生が参加することとなっている。

▲留学生とお別れの様子

▲留学生の乗るバスに手を振る塾生の様子

▲お手製のメッセージボード

11．参画自治体の声

リーダー塾は、11 の自治体から参画を受けており、塾生の募集、選考など、多くの協力を頂いている。参加した塾生の様子や塾に期待していることなどについて、参画自治体に対し、アンケート調査を実施した。

【北海道　保健福祉部子ども政策局子ども家庭支援課次世代成育支援係】

全国の仲間たちと、電子機器に頼らずに等身大で交流し、様々な分野について学ぶリーダー塾での経験は、塾生たちにとってかけがえのない財産となっています。

卒塾後に生徒・保護者の皆様・先生方からいただいた感想では、何事にも受け身だった生徒が、夢や目標を見つけて積極的に行動するようになったり、夢や目標をあらかじめ持っていた生徒も、広い視野や興味を持つようになり、夢や目標がより明確になったとの声が多くありました。

また、出発前は期待と不安が入り混じり、緊張で固くなっていた生徒たちですが、塾期間中にできた他県の友人達と、支えあいながら充実した生活を送ることができ、帰ってくると晴れやかな表情で塾での経験を語ってくれたとの声もいただきました。

生徒たちが、今回の塾で得られた経験や力、そしてかけがえのない友人達とのつながりを大切にして、将来、北海道や世界中で活躍してくれることを期待しています。

【青森県　企画政策部地域活力振興課人づくりグループ】

充実した塾カリキュラムの中で、参加した塾生全員が、自分の将来、日本や世界のことについて真剣に考え、自分のなすべきことを実行に移す意欲を高めたようです。

合宿期間中は全国の塾生と実際に交流したことに大変刺激を受けたようでした。塾終了後に提出された感想文では、切磋琢磨した仲間の大切さ、これからの自分の将来について、その具体的な考えと行動に向けた決意など、前向きな言説が多くみられました。

保護者の感想でも、仲間から刺激を受け、視野が広がり、新しいことにチャレンジしようとしている様子を見て、塾へ参加できたことへの感謝の言葉が多くみられました。

▲事前研修会の様子（提供：青森県）

▲壮行式の様子（提供：青森県）

【岩手県　教育委員会事務局教育企画室】

今年度は２名の高校生を派遣しました。事前研修会では、英語スピーチによる自己紹介、卒塾生からの力強いメッセージ、グループディスカッションを通じて仲間意識の高揚や参加意欲の向上を図ることができました。

塾期間中の同行はいたしませんでしたが、最終日の仙台空港出迎えの際には、研修をやり切ったという達成感や将来への希望をより膨らませることができたという満足感に満ち溢れた表情を見せてくれ、本塾が持つ力を改めて感じたところです。

運営事務局におかれましては、コロナ対応等に最善を尽くしていただきながら、魅力あるカリキュラムを多数提供いただきましたことに感謝しております。

本県においては、第１回から本事業に参画し、これまで 178 名の高校生を派遣しております。今後も、参画県として本事業がより良いものとなりますよう声を届けて参りたいと考えております。

▲事前研修会の様子（提供：岩手県）

▲塾を終えて（提供：岩手県）

【静岡県　スポーツ・文化観光部総合教育局総合教育課】

リーダー塾への参加は、塾生にとって自分自身の将来に役立つ貴重な経験となりました。

本県が実施した塾生を対象とした事後アンケートでは、「互いに異なる価値観を持つ人々が協力し合うことの必要性を感じた」「最高の友人を見つけることができた」「他者のために自分ができることを見つけ行動することの大切さを知った」「大学に行くための勉強だけではなく、より豊かな人生をおくるために勉強したいと思うようになった」などの多くの前向きな声が寄せられました。

一流の講師の講義から得られた知見や答えのない問いに共に取り組んだ全国の仲間との交流を通して、自分自身の価値観の変容、思考力の向上など、自らの成長を確実なものとして実感していました。

貴塾の取組が未来を切り拓く子どもたちの財産となるようさらなる発展を祈念いたします。

▲事前研修会（集団討論発表）、知事表敬訪問の様子（提供：静岡県）

【岐阜県　環境生活部私学振興・青少年課青少年係】

本年度は岐阜県推薦枠塾生として県内の高校生７名が塾に参加させていただき、参加塾生及び保護者の方々の御理解と御協力、事務局職員の皆様の並々ならぬ御尽力により、合宿形式にて開催することができましたことに心から感謝申し上げます。

報告会では、一人一人の塾生が塾を通して、学んだことを今後の生活に活かしていきたいという前向きな姿勢及び意気込みが見られ、実際に行動に移していく様子を伺うことができました、また、保護者の方々の感想からは、塾への参加を通して成長した我が子の姿に喜びを感じておられる様子が伝わって来ました。

今後の学校生活や将来の進路において、塾への参加を通して得られた知識・経験、そして卒塾生同士の繋がりを生かしながら、それぞれの立場でリーダーシップを大いに発揮し、より一層活躍されることを期待しています。

【和歌山県　教育庁教育総務局総務課政策管理班】

当県では、自身の考えをつくりあげ表現できる子供、失敗を恐れないバイタリティーをもった子供、多様な人が共に暮らす社会で他者の思いに共感し、異なる価値観をもつ人とも協働しながら合意形成を図ることができる子供を育てていくことを目指しており、「日本の次世代リーダー養成塾」への高校生の派遣はその一環として実施されています。

リーダー養成塾での学びの中で、日本や世界で活躍する一流の講師の考えや知見に触れたり、高い志をもった仲間と議論を重ねたりすることにより、塾参加者が、当県が育てたい子供たちの姿に大きく近づいてくれたように感じています。今後、塾参加者が、塾での経験や人間関係を生かし、当県や日本の次世代リーダーとしてさらに成長していってくれることを期待しています。

【愛媛県　教育委員会事務局指導部高校教育課】

愛媛県では、日本、そして世界に通用する人材の育成を目的として、「えひめ高校生次世代人材育成事業」を実施しており、その中で、「日本の次世代リーダー養成塾」への高校生の派遣、リーダー養成塾の参加の成果の普及を図る事後研修会及び報告会等を行っています。

リーダー塾参加後、参加生徒からは、「次世代リーダー塾に参加し、自分と向き合うことができました。この先どのように社会と向き合っていくべきかを考えることができました。」「今後、自分の個性を発揮して、自分にあったリーダー像を見つけ、学校生活でいかしていきたい。」
との声が聞かれるなど、リーダー養成塾での成長を具体的に感じている様子がうかがえました。

今後、塾生との絆を大切に、将来の目標に向かって歩みを進められ、世界のリーダーとしてさらに成長されることを期待しています。

▲事前研修会の様子（提供：愛媛県）

▲事後研修会（オンライン）の様子（提供：愛媛県）

【福岡県　人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局青少年育成課】

このリーダー養成塾は、同じ志を持った全国各地から集まった仲間と学校の授業では経験できない貴重な講義を体験することができ、子どもたちの可能性を引き出すための良い機会となっています。

これにより、塾生たちは、日本や世界で活躍する一流の講師陣の講義に熱心に耳を傾けることができ、また仲間たちとの白熱した議論や語らいを通して、充実した時間を過ごしたことがうかがえました。

２週間で培ったノウハウや出会いは塾生の今後の人生に大きな影響を与えるものです。

今後も、次代を担う高校生のため、より良い事業の継続を望みます。

▲事前研修会の様子（提供：福岡県）

【佐賀県　地域交流部さが創生推進課】

途中、体調を崩す参加者もいましたが、事務局の献身的なサポートもあり、参加者全員が無事にすべてのカリキュラムを修了することができたことに感謝申し上げます。

報告会の際に、参加者の一人から「リーダーとして養成されるとともに人として養成していただいた」との報告があり、リーダーとしての資質を習得することはもちろん、人として大切なことを学んだように考えます。

また、「自分の未熟さを痛感したのでもっと勉強したい」、「留学をしてもっと知見を深めたい」との感想もあり、世界で活躍する講師や全国から集まった仲間たちから刺激を受け、塾生の向上心を大いに高めたようです。

将来、参加者が様々な経験を積み、佐賀や日本をよりよくする活動を通して、社会に貢献していくことを期待しています。

▲事前研修会、報告会の様子（提供：佐賀県）

【福岡県宗像市　教育部教育政策課地域教育連携室グローバル人材育成係】

新型コロナウイルス感染症の取扱いが新たなフェーズとなり、柔軟な判断が求められる難しい状況の中、２０回目となる日本の次世代リーダー養成塾を、宗像市で開塾いただきありがとうございました。世界遺産である宗像大社見学やビーチクリーンなどもカリキュラムに組んでいただき、全国から集まる塾生に宗像の歴史や課題を知り、学んでもらえたことは、本市としても大変うれしく思います。

参加した高校生たちは、著名な方々の講義や周りの塾生たちからの多くの刺激を受け、自分にとってのリーダー像や、自分の将来について考えるきっかけになったのではないでしょうか。

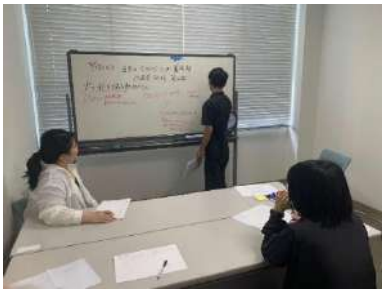
この経験や人脈を生かして、それぞれの夢に向かって成長していくことを期待します。

【沖縄県うるま市　経済産業部産業政策課企業立地係】

例年同様、本市からはうるま市推薦枠として高校生 2 名が塾に参加させていただきました。塾に参加後、本市で開催した報告会で「教育について教師という立場ではなく、もっと広い視点の国会議員として携わりたい」「地域に貢献し、国内外で活躍できる起業家になりたい」といった将来の夢をきくことができ、塾での体験がこれからの進路に影響を与え、それぞれが大きな刺激を受けたように感じることができました。

リーダー塾では、学校の授業では経験できない一流の講師陣から貴重な講話を聞くことができ、また、同じ志を持った仲間と出会い将来のきっかけを作るいい機会となっています。

今後も仲間と共に切磋琢磨し、世界に羽ばたき地域に貢献できるような人材に成長していくことを期待しています。



▲事前研修会の様子（提供：沖縄県うるま市）　▲報告会の様子（提供：沖縄県うるま市）

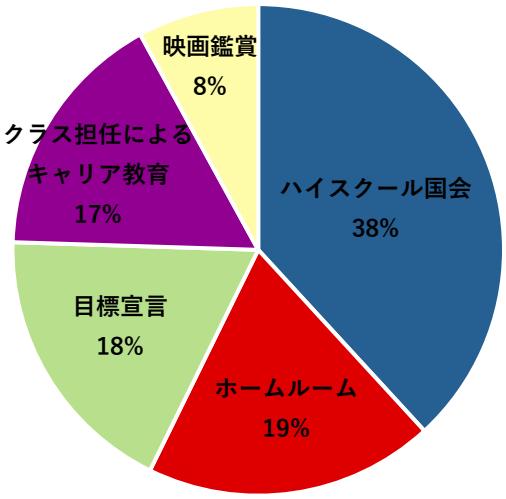
資料①　塾生アンケート調査結果

塾終了後に、講義に関するレポート・アンケートを実施した。報告書では主な設問を掲載する。
レポートは塾生１５０名のうち１４２名（９４.７％)、アンケートは１４５名（９６.７％）が回答。

興味深かったプログラム（複数回答可）

※アンケート集計上位５つを記載

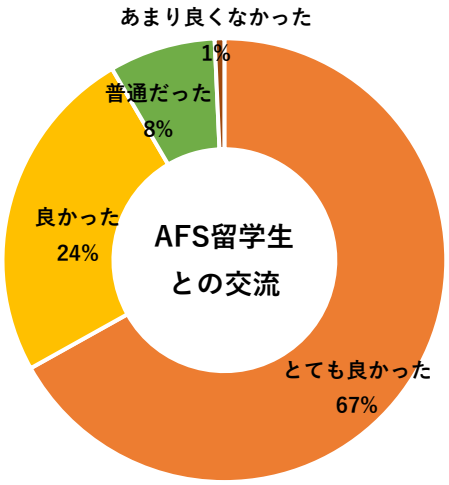
1. ハイスクール国会　３８％
2. ホームルーム　１９％
3. 目標宣言　１８％
4. クラス担任によるキャリア教育　１７％
5. 映画鑑賞「あの人に逢えるまで」　８％



カリキュラムについての評価・感想

（１）AFS 留学生との交流

とても良かった	**６７％**
良かった	**２４％**
普通	８％
あまり良くなかった	１％
良くなかった	０％



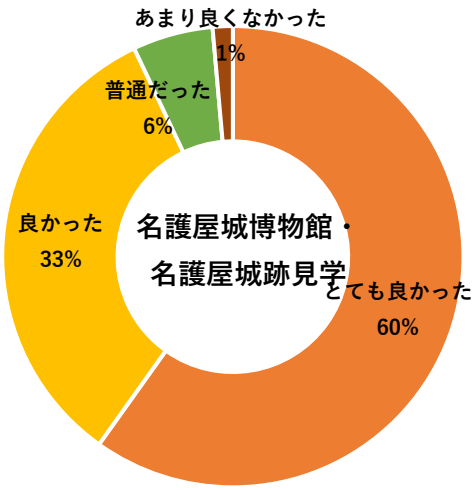
■主な感想

・世界各国の留学生と交流することができ、文化や考え方の違いを学ぶことができました。

・自分が英語でコミュニケーションをとれないことに気づいたので、英語の勉強をもっと頑張ろうと思いました。

（２）名護屋城博物館・名護屋城跡見学

とても良かった	**６０％**
良かった	**３３％**
普通	６％
あまり良くなかった	１％
良くなかった	０％



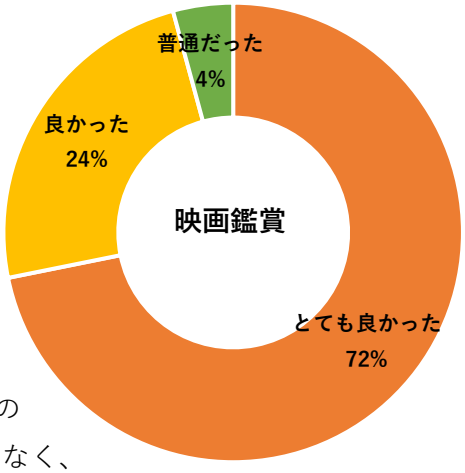
■主な感想

・今まで知らなかった出来事が、日本に大きな影響を与え、大都市を作ったということに感激した。

・VR を用いながらの散策はとても楽しく臨場感があった。

（3）映画鑑賞「あの人に逢えるまで」

とても良かった	**７２％**
良かった	**２４％**
普通	４％
あまり良くなかった	０％
良くなかった	０％



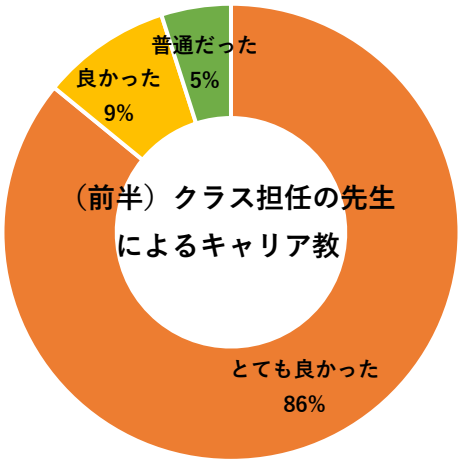
■主な感想

・映画の奥の深さを思い知りました。戦争についての映画で、みている人の胸に訴えかけてくるようなものでした。

・隣の国なのに、全く国内事情を知らなかった自分を恥じた。ただのニュースや新聞などのつらつらと並べられた文字で知ったのではなく、情に訴えられるように映画という形で知れたのが良かった。

（４）（前半）クラス担任の先生によるキャリア教育

とても良かった	**８６％**
良かった	**９％**
普通	５％
あまり良くなかった	０％
良くなかった	０％



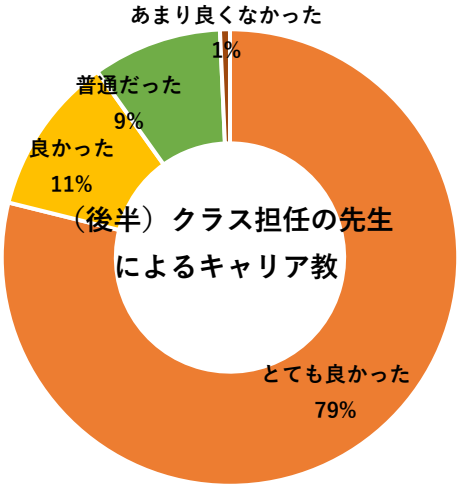
■主な感想

・担任の先生の人生の流れについて教わり、学生の頃に目指していたこととは全く違うことをしていて、そこからでも挑戦できるのだと知った。

・塾生それぞれから質問し、自分に対して、聴いてくれる人を見て話すということを教えて下さった。グループワークでクラスメイトとの中も深まりとても自信に繋がった。

（５）（後半）クラス担任の先生によるキャリア教育

とても良かった	**７９％**
良かった	**１１％**
普通	９％
あまり良くなかった	0.７％
良くなかった	０％



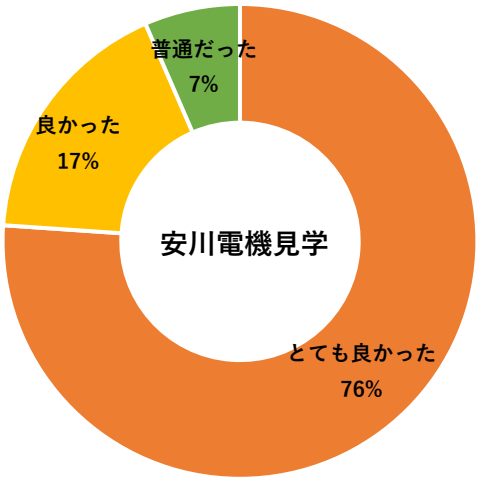
■主な感想

・困難な状況になるのは運命のせいだとしても、そのあとは私たちの行動次第で変えられる、という、行動を起こす勇気を与えてもらいました。

・今までどういったことをしてきて、後悔したこと、やっておいた方がいいことを素直に人生の先輩として教えてくれたのでこれから生きていく上で参考になった部分があった。

（６）安川電機見学

とても良かった	**７６％**
良かった	**１７％**
普通	７％
あまり良くなかった	０％
良くなかった	０％



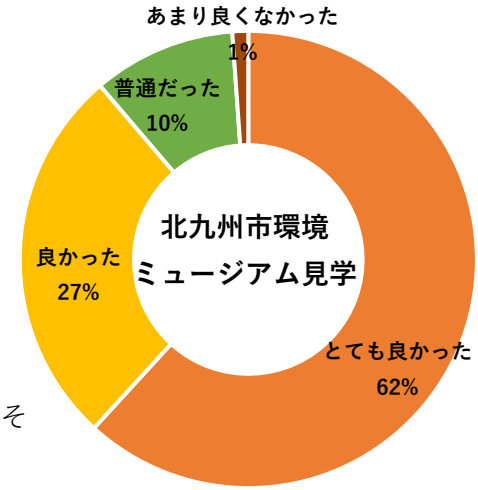
■主な感想

・資料や新聞でしかあまり産業用ロボットに触れる機会がなかったので、この体験を通じて、百聞は一見に如かずということばのとおり、実際に見ることが大切だと感じた。

・プログラミングによるきれいな映像、ロボットの素早い動きなど今後の科学技術の発展にわくわくした。

（７）北九州市環境ミュージアム見学

とても良かった	**６２％**
良かった	**２７％**
普通	１０％
あまり良くなかった	0.７％
良くなかった	０％



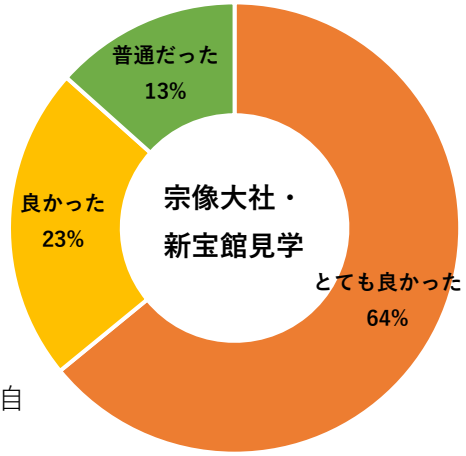
■主な感想

・実際の汚水や石炭などが展示してあり、リアルに当時の様子を感じることができた。技術が発展することは良いことだけれどその裏には様々な苦難があるということを学んだ。

・市民、企業、行政の一体となった取り組みにより環境が急速に改善されたというお話を聞き、１人では不可能なこともたくさんの人が集い意見を出し合えば可能になると実感した。

（８）宗像大社・新宝館見学

とても良かった	**６４％**
良かった	**２３％**
普通	１３％
あまり良くなかった	０％
良くなかった	０％



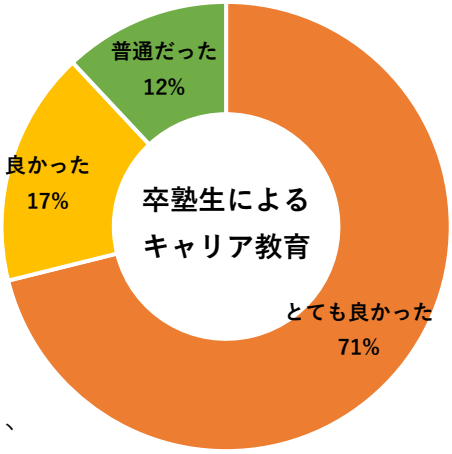
■主な感想

・昔の人がどれだけ航海技術を持っていたか、宗像にどれだけ価値のあるものが埋まっているのかなど学べ、興味深かった。

・歴史と神秘が交錯する素晴らしい場所で、厳かな雰囲気と美しい自然環境が私の心を引き込んだ。

（9）卒塾生によるキャリア教育

とても良かった	**７１％**
良かった	**１７％**
普通	１２％
あまり良くなかった	０％
良くなかった	０％



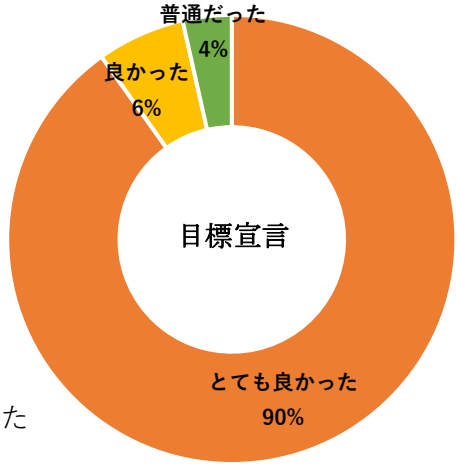
■主な感想

・自分の興味のある仕事や大学から選択することができたので自分の将来のためになる話をたくさん聞くことができた。

・大学の方々や実際社会で活躍されている方の話を聞くことができ、非常にいい機会となった。私が興味を持っている教育の分野について学んでいる大学の話は、今後の自分の進路に役立つものであり、大変興味深かった。

（10）目標宣言

とても良かった	**９０％**
良かった	**６％**
普通	４％
あまり良くなかった	０％
良くなかった	０％



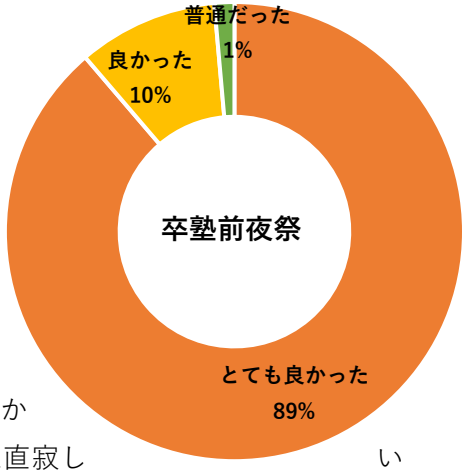
■主な感想

・志の高い人たちの前で、しっかり宣言できて、自分の成長を感じられたのと、自信がついたので、とてもいい経験になった。

・私は「仲間との出会いを大切にし、将来の夢に向かって頑張りたい。」と宣言した。この貴重な出会いを大切に今後も将来の夢に向かって最後まで諦めずに努力していきたいと思う。

（11）卒塾前夜祭

とても良かった	**８９％**
良かった	**１０％**
普通	１％
あまり良くなかった	０％
良くなかった	０％



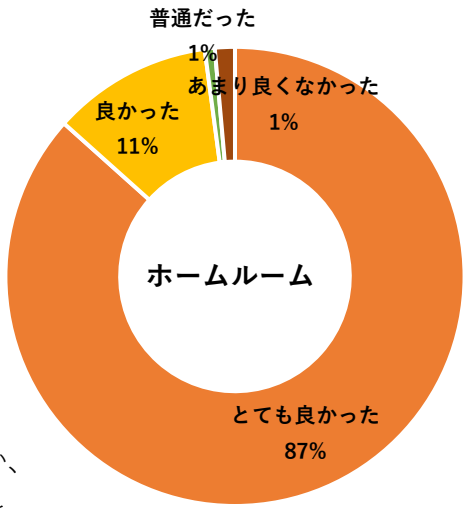
■主な感想

・それぞれの持つ個性が最大に発揮でき、周りもそれを楽しむことができる最高の空間でした。

・辛かったこと、苦しかったことを忘れ全力で楽しめました。しかし、みんなで楽しく過ごせる時間がこれで終わりだと思うと正直寂しい思いでいっぱいでした

（12）**ホームルーム**

とても良かった	**８７％**
良かった	**１１％**
普通	0.７％
あまり良くなかった	1.４％
良くなかった	０％



■主な感想

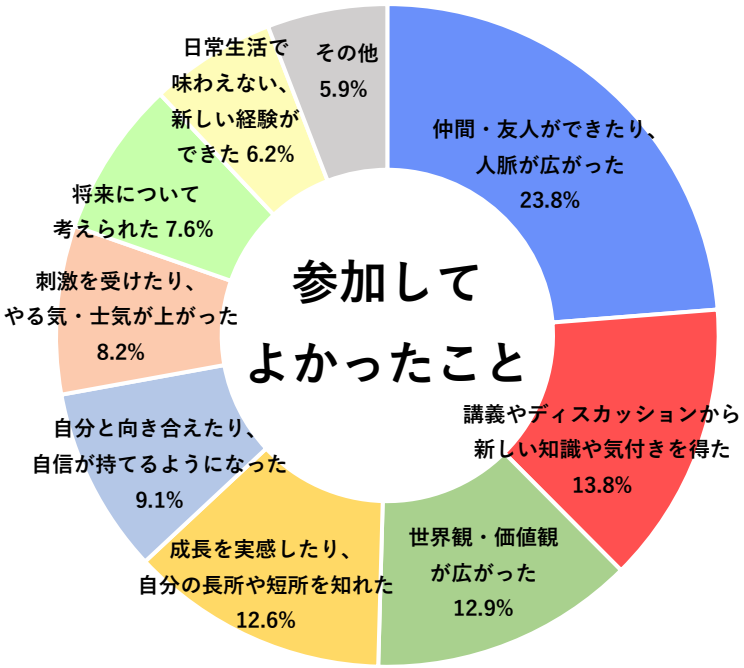
・クラスの中を深める時間であってお話することができてよかったです。朝や夜しっかり顔を合わせることで同じ目標に向かって頑張ろうって思えました。

・ミーティングの仕方やこれから立ちはだかる壁にどう向き合うか、人生をどうすれば楽しむことができるのかなど、先生の体験談を交えながら話していたことが想像しやすく、自身へ反映することが多くありました。

? リーダー塾に参加してよかったこと

※キーワードをピックアップして集計

①	仲間・友人ができた	２３．８％
②	講義やディスカッションから新しい知識や気付きを得た	１３．８％
③	成長を実感したり、自分の長所や短所を知れた	１２．９％
④	世界観・価値観が広がった	１２．６％
⑤	自分と向き合えたり、自信が持てるようになった	９．１％
⑥	刺激を受けたり、やる気・士気が上がった	８．２％
⑦	将来について考えられた	７．６％
⑧	日常生活で味わえない、新しい経験ができた	６．２％
⑨	その他	５．９％



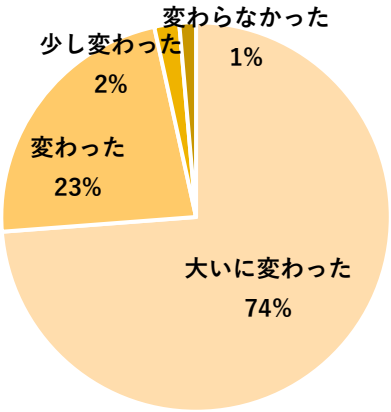
■主な内容

仲間・友人ができた	大きな目標を持った仲間たちと出会えたことで、お互い切磋琢磨し合えた。私は彼らに負けないようもっと成長する。リーダー塾で高いモチベーションが生まれた。
	最高の仲間、恩師に出会えたことです。人と関わることの大切さと尊さを強く実感した二週間でした。本気で向き合い、努力した仲間は、たとえ二週間という短い時間であれ、人生を共にしたいという仲間となりうることを知りました。
	日本人の友達が少ない私にとって沢山の信頼できる仲間ができて良かったです。日本の中学、高校に通ったことがないので、高校生らしい時間を過ごせ、貴重なお話や、体験が沢山できた２週間でした。
	普段生活していても聞けない話や自分から話さないことなどを対等に話せる仲間ができて、自分を刺激してくれる講師の方にあえて、導いてくれる先生、学生リーダーに会えて本当に良かったと思います。この関わりを無駄にせず将来に活かしていくために途切れないように連絡を取り続けたいと思います。
	高校生のうちに、日本中の同年代と議論したり交流したりする機会を持てたことは本当に良かったと思います。人脈が日本中に広がったので、これから自分が何かプロジェクトを立ち上げたい際に協力してもらえるかもしれないという安心感や孤独からの解放は自分にとって大きかったです。
	友達作りはかなり苦戦しましたが、皆はよい意味で癖があり、充実した二週間だったと思います。また、学生リーダーさんや担任の先生とも距離が近く、すぐに打ち解け会えたので、自分のリーダー塾での悩みなどを話しやすかったです。友達とも SNS や連絡先を交換し、たまに連絡を取り会う程度ですが、とても嬉しかったです。
世界観・価値観が広がった	日本全国津々浦々から集まったからこそ、その土地に根付く課題や良いところを知ることができました。また、政治家になりたい人や、科学者になりたい人など、一人一人の志が高く、何気ない会話も面白く、自分の未熟さに気が付くとともに、自分とはなにか見直すきっかけにもなりました。
	新たな価値観を持つことができ、自分の将来について考えるきっかけになりました。毎日の講義は自分の興味の有る無しに関係なく、自分の興味のない分野だからこそ初めて得る情報が多かったので、いい機会を頂けたと感謝でいっぱいです。
	相手の考えを受け止め、自分なりに解釈してから発言できるようになった。また、日本や世界で活躍するリーダーの講義を聞くことで、世界で戦うために必要な能力を理解できた。自分なりの哲学を持つ重要性や自分の信念の軸を曲げないという人間性の面でも多くのことを学べた。
	リーダー塾に参加して良かったことは自分が見てきた世界がどれだけ小ささかったかを痛感できたことです。幅広いジャンルで活躍されている先生方の貴重なご講義を聞いて、自分がどれだけ幸せで周りに甘えて生きているのかを知らされました。だからこそ自分がやりたいことをさせてもらえている環境を当たり前だと思わず、がむしゃらに努力しなければならないと思いました。

講義やディスカッションから新しい知識や気付きを得た	学校では話し合わないようなことを議題にクラスメイトと本気で話し合えたこともよい経験だった。携帯も使えなかったため、話し合うよりほかなく、仲間と本気でぶつかり合えたことは初めての経験だった。リーダー塾が終わった今でも様々なことを議題に仲間と話し合ってみたいと思う。
	講義やハイスクール国会での議論を通してリーダーとは何かについて学ぶことができた。それだけでなく、私の将来の夢への思いが大きくなり、したいことがより明確になった。短い期間ではあったが、特にクラスメートとは仲良くなり、リーダー塾が終わっても連絡を取り合う関係性ができてとても嬉しかった。
	自分の意見を持つことの重要さ、そして本気で議論することの大切さを学ぶことができたことです。意見のぶつかり合いが何度も生じた分、最終的にはとても良い政策を作り上げることが出来たからです。
成長を実感したり、自分の長所や短所を知れた	自ら行動することへの抵抗が薄れたこと。私は対人関係において常に受け身の姿勢を取りがちだったが、リーダー塾ではそうもいかず、勇気を出して話しかけてみる事が増えた。
	リーダー塾前は、クラブや勉強、習い事、やらなけらばいけないことに直面すると、嫌だなと思い、どこか消極的になる部分がありました。しかし、リーダー塾後は、何か行動したくてしょうがなくなり、部活や、勉強、習い事など、自ら積極的に行えるようになりました。また、自分で時間管理ができるようになり、以前よりも無駄な時間を過ごすことがぐんと減った気がします。
	壁にぶつかるとすぐに「私なんか」と諦めてしまう私でしたが、一流の先生方の講義を聞き仲間たちと共に沢山のことを学んでいく中で、私は最後の最後まで努力し続けられるようになった気がして、少し自分のことを好きになれました。
自分と向き合えたり、自信が持てるようになった	「リーダーとはなにかに対する自分の考え」「自分の行動力」「他人との調和」などとにかく人生観が変わる 2 週間で、全てがいい変化だった。2 週間スマホ断ちできることと親元を離れることができることも良かった。いろんな苦労を乗り越えて人間として何度もグレードアップできる 2 週間だった。
	大袈裟かも知れないけど、自分の人生が変わった。自分の将来の可能性を狭める必要はないし、自分が思うように夢を持って良いのだということに気づいた。だから、将来の可能性が広がりすぎてしまった。もしリー塾に来ていなかったら、自分の可能性は知らずのうちに狭まっていたと思う。新しい自分を見つけることができた。
	志高く、やりたいことを全力で頑張ることの大切さを学べ、これからの高校生活を、挑戦で溢れる有意義なものにしたいと心から感じる。そのためにも勉強であったり校外活動であったり、人のため、世のためになるようなことを考えながら行動を起こしたい。

塾参加後、ものの考え方や興味関心が変わりましたか？

大いに変わった	**７４％**
変わった	**２３％**
少し変わった	２％
変わらなかった	１％



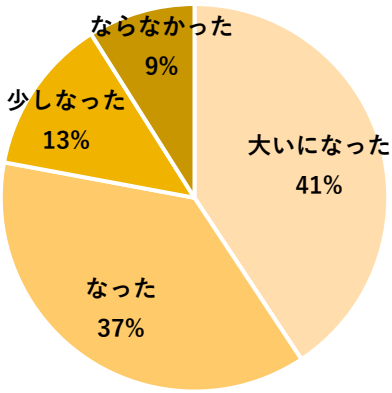
■主な内容

視野が広がった社会・世界に興味を持った	様々な先生方の講義によってニュースを見た時などで様々な面で考えるようになった。また、リーダー塾で出会った友達によって哲学に興味が湧き様々なことに疑問を持って過ごせるようになった。
	壁にぶつかるとすぐに｢私なんか｣と諦めてしまう私でしたが、一流の先生方の講義を聞き仲間たちと共に沢山のことを学んでいく中で、私は最後の最後まで努力し続けられるようになりました。
	これまでは、経済の分野に興味があり、ミクロ経済学をやってみたいと思っていたが、国際関係論や国際問題に外交だけでなく NGO など現地に密着する形で取り組む事に関心が高まった。
	今まではクラスでの話し合いに積極的に発言することが苦手で、リーダー塾にハイスクール国会があると知った時はしっかり参加できるか心配していました。しかし、実際話し合いが始まるとクラスの中に参加していない人が一人もいなく、自然と自分もクラスのために何かしようと思えるようになりました。
	考え方の幅が様々な生き方をしてきた同世代の仲間や大学生、社会に出て働いている方と出会ってお話をしたことで広がった。
	今までは社会や学校が用意したありきたりのレールに乗って生きていけば楽しいだろうと漠然と考えていた。リーダー塾を通して、人生観に対する視野が広がった。全く違う場所から来た人や広い考えを持つ人と多く触れ合え、対話できたことで、違う角度から自分を見つめ直す機会となり生きる原動力や夢を真剣に考え見つけることが出来た。リーダー塾は、僕の人生を変えてくれました。
自信がついた・周りの目を気にしなくなった	今までは迷った末にやらないことを決意して、後悔することもあった。塾が終わってから、迷ったらとりあえずやってみるということを自分の心の中に置くことで、様々なことに挑戦できるようになった。
	これまで強く自分の意見を言うことが苦手だったけれど、リーダー養成塾で沢山の人と出会ったことで自分の意思の様々な表現の仕方を目の当たりにして私も人の目を気にせずに色々挑戦してみようと思いました。 リーダーとしての立場を再認識し、部活では積極的に声を出したり、声をかけてアドバイスしたりしています。

	自分の気持ちに素直になり、挑戦することを意識するようになりました。前は周りを気にしてばかりいたのですが、もっと自分が思うように行動しようと思えるようになりました。
	将来留学したいと考えるようになった。今まで日本を出る必要性があると思ったことがなかったが、リーダー塾で同世代の子達の話や先生方の講義を聞き、自分の見聞を広めるためには外に出る必要があると強く思った。
将来の夢、リーダー像	刺激を受けた物事はたくさんあったが、起業に対する考えが特に大きく変わったように感じる。講義をしてくださった起業家の方々が、想像よりも簡単に起業に踏み切っているように感じたからだ。もちろん成功に至るまでの道のりは楽ではないだろうが、具体的な目標と強い信念があれば、私も挑戦できる可能性はあるのかもしれないと思えた。
	リーダー像に対する考え方が変わりました。また、多様なリーダーのあり方があり、それぞれにそれぞれの良さがあると感じました。私が目指すリーダー像はみんなの前に出て引っ張っていくようなリーダーでした。しかし、参加してみんなをバックから支えるリーダーと出会い、そういったあり方があってもいいのではないかと思えた。

参加後、やりたいことが明確になりましたか？

大いになった	**４１％**
なった	**３７％**
少しなった	１３％
ならなかった	９％



■主な内容

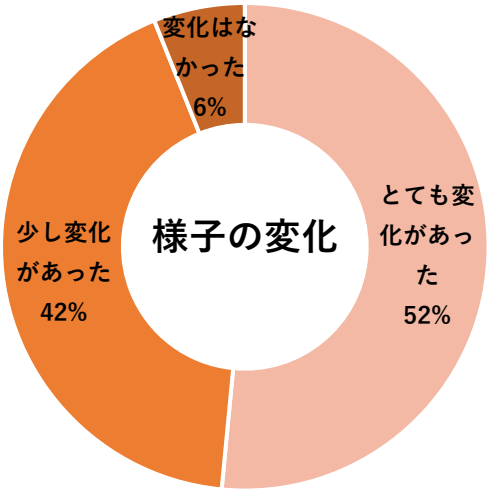
参加前から考えていた外交官、という職を目指す同世代と多くの情報交換をすることができ、とても貴重な経験になった。
研究者になって、環境と人との関係を良くしたい。
教師になりたいという夢はありましたが、教育現場の現状を変えていきたいと考えるようになりました。
海外、特に東南アジアやインドなど、現在発展してきている国に留学に行き、その国の雰囲気や人とかかわりと思うようになった。
医師になりたいという気持ちは変わらずに、そこで、日本のみならず、世界中の人々を救える医師になりたいと思った。
発展途上国と日本を繋げて、発展途上国に学校を作るような会社を起業したいです。
第 1 志望の大学に合格し、自分が興味のある観光について学び、それを活かして人を笑顔にできる仕事に就きたい。
私が過去に苦しんだり、今悩んでいることの経験を活かして同じように悩んでいる方の支えになれる心理関係の仕事につきたい。

色々な方の夢や目標を聞く中で美術に関わる仕事がしたいという夢について深く考えることができ、自分の夢について自信が持てた。
もともと持っていた広報という夢が、チームで団結して物事をスムーズによりよく進められる広報になりたいという夢に変わった。
文系か理系かもハッキリとしていなかったけれど、機械やロボットに関わる仕事に就きたいと思った。
海外で働く医師の方々の講義を聞いて、海外で働く医師になりたいと強く思った。自分の身の危険を冒してでも人のために働ける行動力のある人になりたいと思った。
自分が今まで考えていた、国連職員という道のほかにも、自分の県の職員になってみたいと、他の職種に対しての興味や関心が自分の中にあることに気づけました。
演劇関係の仕事に就き、良い師匠の元で作品づくりにおける価値観を多く学びたい。

資料②　保護者・学校アンケート調査結果

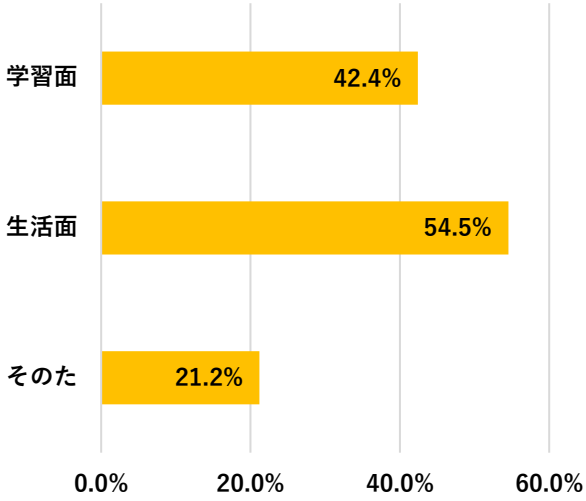
卒塾してから約２ヶ月後、１５０名の２０期生の保護者、学校の担任教員を対象に、卒塾後の塾生の変化についてのアンケートを実施した。保護者は９９名から（６６％)、学校の担任教員は９６名から（６４％）回答があった。主な項目を抜粋して掲載する。

塾参加前と参加後でお子様の様子に変化がありましたか？



「変化があった」と答えた方は、どのような変化がありましたか？（複数選択可）

※各項目ごとに選択された数を「変化があった」と回答した人数で割った



■主な理由

学習面	将来の方向性が決まり、勉学に真剣に取り組むようになった。特に英語においては、その重要性を理解し、学習への姿勢が変わった。
	夢の実現に向けて、大学進学のためにより一層学業に力を入れるようになった。英検や仏検の勉強にも意欲的に取り組んでいる。
	目標の大学を定め、勉強計画を立てました。学校の課外授業を積極的に取り、また予備校の授業もどんな理由があっても決して休むことなく、勉強に取り組んでいます。
	志望校がはっきりと決まり、進んで調べたり、参考書を慎重に選んだりするようになった。
	面倒くさいと取組むことに後ろ向きだった論文等に、前向きに取り組み始めたこと。
	みんなのレベルに近づきたいと日々学習をしている姿を見せてくれています。
生活面	両親が忙しいときに、さりげなくサポートするなど、細かな心配り、目配りができるようになったと感じています。
	参加前よりも、限られた時間をより効率よく使えるように考えて行動している。
	生徒会に立候補し、信任されたことで生徒会役員としての活動を新たに行っている。集会の司会を行ったり、学校行事の企画・運営を行ったりするなど生徒会活動の中心として活動を行っている。
	クラスの仲間や担任の影響で向上心が芽生えたと思います。「～ちゃん、～くんはすごいんだよ」とキラキラした目で今も話してくれますが、「わたしも！」となりたい自分が見えてきていると思います。
	以前より対話するようになり、素直に意見を聞くようになった。
	苦手としていた、整理整頓、荷造り、時間を守る集団行動、書類を締切までに提出するなど、この塾に参加することになって以来頑張っている様子が見られる。
	スマホに頼り過ぎた毎日が、スマホから離れて読書を始めたりする様になった。

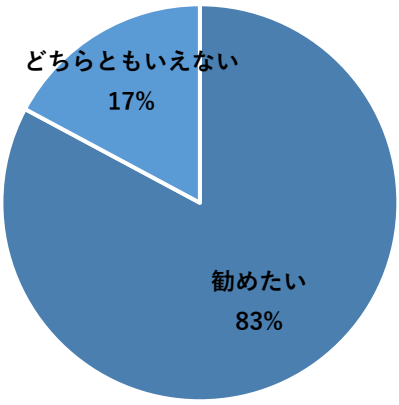
その他	大学で開催されるアントレプレナーシップに参加したり、物理学コンテストに参加したり、貪欲に知識や経験を得ようと取り組んでいます。
	他の課外活動に参加し、グループ活動ではリーダー的な役割を果たしていた。
	参加した仲間とテーマを決めて、定期的に zoom でミーティングを行なっている。

■お子様の感想で印象に残ったこと

日常生活では出会えないような、素晴らしい友人や先生に巡り会えたことがとても嬉しかったという感想が印象的である。
「リーダーとは、弱い立場の人の状況を想像できる人だ。」と言っていました。そういうリーダーになりたいと話すようになりました。
20 年後に目指す社会について、「失敗が許される社会を創りたい」と話していたこと。今まで大きな失敗をしたことのない息子の意外な一面を見た気がした。おそらく、失敗を厭わない挑戦をしたくなったのだろうと感じた。
「周りもみんな優秀だと感じたが、自分も意外とイケていることに気づいた」という感想から、この研修が本人にとって、これからの自信につながるのだろうと感じ、参加させて良かったと思った。
リーダー塾で講師として来た方の話に感銘を受けて、自分でアポを取り時間を作っていただき、福岡まで会いに行く行動力には驚かされました。
「携帯でいままでどれだけ多くの時間を無駄にしてきたか…反省した…」と言っていたのが印象的でした。
「青森県の課題を解決する仕事も良いなー」と、大きな夢を話してくれます。
閉鎖的な空間にいることを実感したようで、以前よりも前向きに頑張ろうとする発言が出てきた。

他の保護者または高校生に参加を勧めたいと思われますか？

勧めたい	**８３％**
どちらともいえない	１７％
勧めたくない	０％



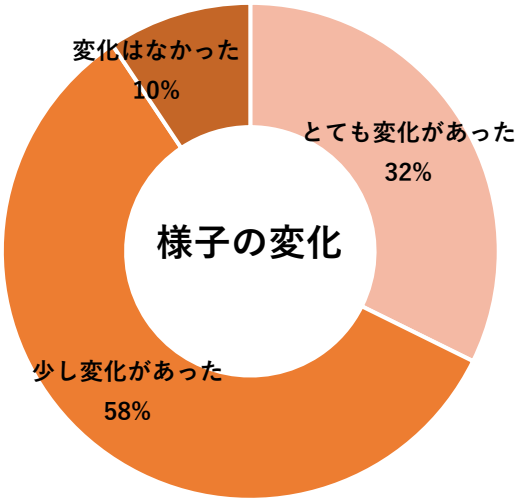
■主な理由

素晴らしい経験をすることができ、特に地方では体験できないような学びを得られるから。
２週間を過ごし、自分に自信がついたように思います。親にとっても子離れを意識出来ました。
かけがえのない体験をすることができた。2 週間の同年代との密な集団生活、豪華な講師陣による講演、少し年長の学生リーダーとの語らい、このような体験はなかなかできません。確実に、世界がひろがりました。
同質化しやすい日本の教育機関では、まず体験できないような刺激のシャワーを浴び続けることで、頭が柔らかい時間に必要な気づきや仲間を与えることができると思う。
活動内容はとてもいいと思いますし、紹介はしたいと思いますが、最終的には、本人が、どういう信念を持って行くかだと思います。
毎日のように「リー塾楽しかった。もう 1 回行きたい」と言っており、全国各地に仲間の輪が広がり今までに無い体験をしてきたのだろうと思えるから。
申し込みの書類を準備している段階だけでも、自分を見つめるきっかけができます。
この経験は、未来への原点となり、ここで出会えた高校生と、またどこかで、力合わせる日が、来るのではないかと思うくらい、将来のことが楽しみになったからです。

全国に色々な志を持った友人ができ、多種多様な考え方に触れることができるから。
親元を離れて、スマホから離れて、自分の知識一本と、生のコミュニケーションだけで仲間や先生方と語り合い、ぶつかり合い、学び合い、人間関係を築く機会は本当に貴重な機会だと思いました。
僻地の小規模校では 150 人の塾生と切磋琢磨できる機会はなかった。大変刺激になったと思うから。
高校生のうちから社会人の方達と接する機会は大事だと思うから。
参加前と後で娘の表情が全く変わっていたこと。これは本当に何より嬉しい変化でした。乗りきったことでの自信も感じられました。こんな貴重な経験は日常生活では絶対にできない経験なので、ぜひ経験してもらいたいと思います。
保護者が与える体験だけでは限界があり、子の成長に大きくいい影響を与えてもらえたから。

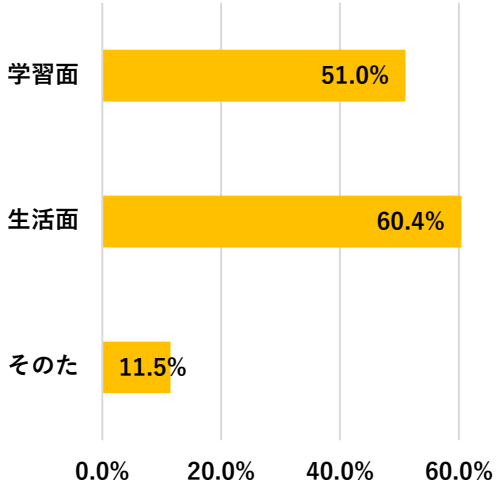
学校の担任教員へのアンケート

塾参加前と参加後で生徒の様子に変化がありましたか？



「変化があった」と答えた方は、どのような変化がありましたか（複数回答可）

※各項目ごとに選択された数を「変化があった」と回答した人数で割った



■主な内容

学習面	自主的に取り組む姿勢が見られるようになったと思います。英語の力を伸ばしたいという気持ちが強まり、成績も向上してきました。 以前から積極的に学習に取り組む生徒であったが、さらに一生懸命に学習に取り組むようになったと感じる。
	目標に向かってしっかりやるべきことに取り組むだけでなく、様々なことに興味を持つようになった。
	1 年次に 3 ヶ月間の留学を行い、学習面での不安を抱えていたが、臆する事無く努力し、前期の成績評価で全て 5 の評価を得た。
	より積極的に授業参加やグループ活動に取り組むようになった。
	他の生徒の考えに触れて、さまざまな価値観を得て、学習を深めようとしている。
	学習に対するモチベーションが高まり、集中力がより増した。
	積極的に進路を模索しようとする姿がありました。色々な講師の先生のお話、同世代の高校生との対話を通して意識し始めた様です。
	より授業に専念し、講和などの学校設定科目以外の知識に興味を示した。

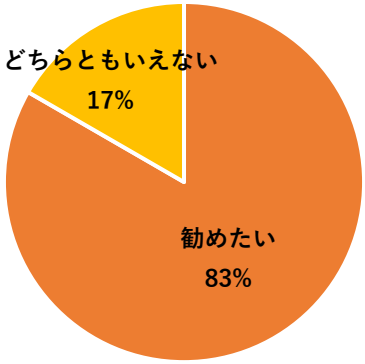
生活面	リーダーシップをより強く意識した生活を心がけるようになり、生徒会役員に立候補するなど多方面に渡り活躍しています。
	リーダーとしての考え方が身に付いてきたことにより、積極的に取り組む姿勢が生まれ、生徒会長に立候補し、現在精力的に活動している。また、人に対して思いやりがあり、小さな事でも気配りが出来るようになった。" 自己管理能力が向上し、より自律した。 学校での探究活動におけるグループワークで、積極的に発言したり、グループのメンバーの意見をまとめたり、グループのメンバーに指示したり、リーダーシップを発揮するようになった。 学校での探究活動におけるグループワークで、積極的に発言したり、グループのメンバーの意見をまとめたり、グループのメンバーに指示したり、リーダーシップを発揮するようになった。
	文化祭委員としてクラスを代表してまとめようと奮闘してくれている。
	将来への意欲がさらに向上し、視野が広がったように感じます。
その他	積極性が増し、自分で考えて行動するようになり、中学生（後輩）に自分の経験を伝える講演会を行った。
	市役所等が企画運営する地域活性化活動などに進んで参加するようになった。年齢や立場の違う初対面の人の中での活動を楽しめるようになっている。
	正しくないことに対して、勇気を持って自分の意見を言い出す行動が多く見られます。自分の信念を強く持つようになったと感じています。

■生徒の感想で印象に残ったこと

興奮冷めやらぬ様子でした。塾でいい体験をしたのだと分かりました。塾が終わった後、同志で団体を立ち上げた話しを聞きました。そのリーダーをしていると聞いたときは驚きました。
「まわりの優秀な学校から来ている生徒さん達にも引けを取らないくらいやれた」と珍しく自信がついていた姿が印象的でした。
グループ活動の中で、党首といったリーダー的役割を果たせたことに達成感を覚えているようでした。
リーダーとして様々な分野で活躍されている方々の話がとても刺激的で興味深く、学校では体験できないことが学べたと述べていた。
「行ってきて本当に良かったです。良い経験が積めました」と笑顔で話しかけてきてくれたこと。満足度が高かったことが表情ですぐわかりました。
参加した他の学校の生徒たちがすごすぎて、自分はついて行くだけで必死だった。
安川電機を見学した時に、ロボットを動かすための作業の緻密さに感心したということです。
内容以上に、生き生きした表情で語ってくれたことが印象的だった。

他の先生または高校生に参加を勧めたいと思われますか？

勧めたい	**８３％**
どちらともいえない	１７％
勧めたくない	０％



■主な理由

今後の社会で必要となる「他分野との交流をどのようにすれば良いか」というスキルを早い時点から学ぶことができるため。
モチベーション向上や、進路目標の決定に有意義だから。
生徒にとって校内では体験できない啓発の機会につながるため。
日本中から集まった高校生や講師先生、ボランティアの方から刺激をもらい、より広い視野を持つ人間になれる機会であると考えるから。
日本や世界で活躍している方々から直接話を聞かせてもらったり、同じような参加している生徒さんとの議論を通して多様な考え方に出会うことで、より自分を客観的に見らことが出来、視野が広がると思う。また、将来に対する期待感や可能性を感じるだけでなく、それに対して逆算的に何をするべきかを深く考えるようになるのではと思われる。
参加前から、何事も挑戦する気持ちの強い生徒でしたが、生活面での過ごし方や、同世代の人からの刺激が多かったようで、生徒が参加して良かったと思うからです。
自分を変えるきっかけになったり、将来について考えるきっかけになったりとたいへん刺激の大きい経験ができ、その後の生徒の人生にも関わるような充実した内容の研修だと考えるから。
多くの著名人の話を聞くことができ、多様な生徒と交流する機会があるから
本校は近隣校がなく、閉ざされがちな環境で学ぶことが多い。他校生と多く関わることで、意識を高めることができ、リーダーとしての素質を伸ばすことができると感じたから。
まず会うことのできない、様々な分野に精通されている方々の話を空気ごと聞けるチャンス。初めて会う生活圏の違う高校生とのコミュニケーション、当たり前だと思ったことがひっくり返ったり、周囲にわかってもらえなかったことが共感してもらえたり。視野が広がる場だと思っています。
過去に参加した生徒もそうであったが、この研修に参加した生徒は行動を起こす力を持って帰ってくる。彼らが校内で周りの生徒を巻き込み、新たな挑戦が始まることを期待している。
生徒が新たな視点を持って色んなことに挑戦しようとする姿勢を身につけてきたことが見えたため。
高 1 や高 2 の間であれば、早い段階で他校の生徒と交流を持つことは有意義な経験になると思う。
普段の学校生活ではなかなかできない経験をすることができるため。

資料③　塾生概要

塾生総数　150名　17都道府県+1か国（マレーシア）

○参画自治体推薦枠　123名

	都道府県	人数
1	北海道	12　名
2	青森県	15　名
3	岩手県	2　名
4	静岡県	5　名
5	岐阜県	7　名
6	和歌山県	17　名
7	愛媛県	11　名
8	福岡県	35　名
9	宗像市	4　名
10	佐賀県	13　名
11	うるま市	2　名
計		**123　名**

○一般公募枠　27名

	都道府県	人数
1	北海道	1　名
2	東京都	8　名
3	神奈川県	3　名
4	愛知県	2　名
5	大阪府	2　名
6	兵庫県	2　名
7	福岡県	3　名
8	宮崎県	2　名
9	鹿児島県	2　名
10	沖縄県	1　名
11	海外	1　名
計		**27　名**

資料④　塾生高校一覧

１７都道府県＋１ヶ国（マレーシア）　１０４校

学校所在地	学校名
北海道	北海道登別明日中等教育学校
	北海道岩見沢農業高等学校
	北海道大空高等学校
	北海道夕張高等学校
	私立遺愛女子高等学校
	私立札幌新陽高等学校
	私立北星学園女子中学高等学校
青森県	青森県立青森高等学校
	青森県立青森南高等学校
	青森県立大湊高等学校
	青森県立七戸高等学校
	青森県立八戸北高等学校
	私立青森明の星高等学校
	私立青森山田高等学校
	私立東奥義塾高等学校
	私立八戸工業大学第二高等学校
	私立八戸聖ウルスラ学院高等学校
岩手県	岩手県立葛巻高等学校
	岩手県立宮古高等学校
東京都	私立おおぞら高等学院
	私立光塩女子学院高等科
	私立成城学園高等学校
	私立文化学園大学杉並高等学校
	私立立正大学付属立正高等学校
	私立桜美林高等学校
	国立お茶の水女子大学附属高等学校
神奈川県	私立洗足学園高等学校
	私立横浜雙葉高等学校
	私立桐蔭学園高等学校
静岡県	静岡県立富士東高等学校
	静岡県立浜松城北工業高等学校
	私立静岡学園高等学校
	私立静岡サレジオ高等学校
	私立不二聖心女子学院高等学校
岐阜県	岐阜県立恵那高等学校
	岐阜県立大垣北高等学校
	岐阜県立可児高等学校
	岐阜県立加納高等学校
	岐阜県立岐阜商業高等学校
愛知県	私立海陽中等教育学校
和歌山県	和歌山県立向陽高等学校
	私立開智高等学校
	私立近畿大学附属和歌山高等学校
	私立智辯学園和歌山高等学校
	私立和歌山信愛高等学校
大阪府	私立四天王寺高等学校
	私立初芝立命館高等学校
兵庫県	私立三田学園高等学校
愛媛県	愛媛県立今治西高等学校
	愛媛県立長浜高等学校
	愛媛県立三崎高等学校
	愛媛県立松山西中等教育学校

学校所在地	学校名
愛媛県	愛媛県立松山東高等学校
	愛媛県立松山南高等学校
	愛媛県立西条高等学校
	愛媛県立南宇和高等学校
福岡県	福岡県立ありあけ新世高等学校
	福岡県立輝翔館中等教育学校
	福岡県立久留米高等学校
	福岡県立玄洋高等学校
	福岡県立戸畑高等学校
	福岡県立香住丘高等学校
	福岡県立山門高等学校
	福岡県立宗像高等学校
	福岡県立修猷館高等学校
	福岡県立小倉高等学校
	福岡県立小倉工業高等学校
	福岡県立小倉商業高等学校
	福岡県立筑紫丘高等学校
	福岡県立筑前高等学校
	福岡県立八女高等学校
	福岡県立八幡高等学校
	福岡県立福岡高等学校
	福岡県立福岡中央高等学校
	福岡県立明善高等学校
	私立リンデンホールスクール高等部
	私立上智福岡高等学校
	私立西南女学院高等学校
	私立東海大学付属福岡高等学校
	私立福岡工業大学付属城東高等学校
	私立福岡女学院高等学校
	私立福岡雙葉高等学校
	私立明光学園高等学校
	私立大牟田高等学校
	私立筑紫女学園高等学校
	私立祐誠高等学校
佐賀県	私立敬徳高等学校
	私立東明館高等学校
	佐賀県立佐賀西高等学校
	佐賀県立佐賀北高等学校
	佐賀県立神埼高等学校
	佐賀県立致遠館高等学校
	佐賀県立唐津西高等学校
	佐賀県立唐津東高等学校
	佐賀県立白石高等学校
	佐賀県立武雄高等学校
宮崎県	宮崎県立宮崎西高等学校
	私立宮崎学園高等学校
鹿児島県	鹿児島県立指宿高等学校
	私立池田学園池田高等学校
沖縄県	沖縄県立球陽高等学校
	沖縄県立美里高等学校
	沖縄県立開邦高等学校
海外	Marlborough College Malaysia

資料⑤　クラス担任・学生リーダー及びスタッフ名簿

■クラス担任

クラス	期間	氏　　名	所　属　名
1組	前半	犬丸　実哉子	学校法人麻生塾麻生専門学校グループ
	後半	一木　朋子	株式会社 NKB
2組	前半	加納　大	独立行政法人中小企業基盤整備機構
	後半	濱崎　享	株式会社 QTnet
3組	前半	本間　敬浩	株式会社ミズ
	後半	五味　志帆	九州電力株式会社
4組	前半	右田　良隆	エコー電子工業株式会社
	後半	山浦　志織	株式会社正興電機製作所
5組	前半	宮内　泰寛	株式会社ふくや
	後半	浅尾　尚文	西部ガス株式会社
6組	前半	吉田　栄作	防衛省陸上自衛隊
	後半	藤本　昇平	学校法人中村産業学園（九州産業大学）

■学生リーダー

クラス	氏　　名	所　属　校
1～3組	舩山　貫	King's College London（イギリス）
4～6組	本多　寿樹	旭川市立大学
1組	岸本　果音	東海大学
	湯川　智生	京都大学
2組	松尾　桜子	国際基督教大学
	シェザード樽塚　紗奈	中央大学
3組	林　秀浩	University of Nebraska at Kearney
	内田　凜々花	明治大学
4組	福田　有紗	国際基督教大学
	ガントゥムル　アシド	千葉工業大学
5組	福澤　伶奈	上智大学
	柿原　千尋	北九州市立大学
6組	濵崎　南海	立命館アジア太平洋大学
	中矢　弥良	松山大学

参画自治体	石井　孝佳	北海道 保健福祉部子ども政策局子ども家庭支援課次世代成育支援係主事
	村田　美佳	青森県 企画政策部地域活力振興課人づくりグループ主幹
	佐藤　裕太郎	岩手県 教育委員会事務局教育企画室主任指導主事兼主任主査
	青井　拓司	静岡県 スポーツ・文化観光部総合教育局総合教育課主査
	古川　由佳子	岐阜県 環境生活部私学振興・青少年課青少年係主任
	櫻井　卓馬	和歌山県 教育庁教育総務局総務課政策管理班政策推進員
	福山　幸司	愛媛県 教育委員会事務局指導部高校教育課指導主事
	左藤　秀樹	福岡県 人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局青少年育成課長
	野中　恵子	福岡県 人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局青少年育成課企画監
	和田　美香	福岡県 人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局青少年育成課育成第二係長
	緒方　泉水	福岡県 人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局青少年育成課主事
	堀岡　真也	佐賀県 地域交流部さが創生推進課長
	江口　里司	佐賀県 地域交流部さが創生推進課副課長
	村岡　真知	佐賀県 地域交流部さが創生推進課主査
	中村　博二	宗像市 教育部長
	賀来　元彦	宗像市 教育部教育政策課地域教育連携室長
	占部　真珠アイリーン	宗像市 教育部教育政策課地域教育連携室グローバル人材育成係長
	西畑　光	宗像市 教育部教育政策課地域教育連携室グローバル人材育成係主任主事
	伊禮門　由紀子	うるま市 経済産業部産業政策課企業立地係長
	伊禮　寛	うるま市 経済産業部産業政策課企業立地係主事
	伊藝　祥子	うるま市 経済産業部産業政策課企業立地係会計年度任用職員
グローバルアリーナ	近藤　勇	株式会社グローバルアリーナ 代表取締役
	宗政　茜	株式会社グローバルアリーナ
	百﨑　順二	株式会社グローバルアリーナ 営業部長
	ゲトフ　ステファン	株式会社グローバルアリーナ
事務局	加藤　暁子	日本の次世代リーダー養成塾 専務理事・事務局長
	中川　暢文	日本の次世代リーダー養成塾
	アリ　イザット	日本の次世代リーダー養成塾
	濱田　颯太	日本の次世代リーダー養成塾
	大家　美希	日本の次世代リーダー養成塾　アドバイザー
	市川　智也	日本の次世代リーダー養成塾　アドバイザー
	上野　志保	日本の次世代リーダー養成塾　アドバイザー
医療関係	藤谷　拓也	看護師
	堀　チカ子	看護師（前半）
	右山　綾子	看護師（後半）

ご協賛・ご助成・ご協力いただいた皆様

今回の日本の次世代リーダー養成塾は、次に掲げる皆様のご協賛とご協力により開催することができました。ここに、深く感謝申し上げます。(敬称略、五十音順)

■ご協賛いただいた皆様

株式会社麻生
学校法人麻生塾 麻生専門学校グループ
株式会社アトル
株式会社インスパイア
株式会社 NKB
公益財団法人 オリックス宮内財団
九州電力株式会社
九州旅客鉄道株式会社
株式会社 QTnet
株式会社九電工
西部ガスグループ
株式会社サニックス
住友化学株式会社
株式会社正興電機製作所
株式会社全教研
株式会社テノ．ホールディングス
株式会社戸上電機製作所
株式会社トクスイコーポレーション
株式会社西日本シティ銀行
西日本鉄道株式会社
株式会社日本政策投資銀行
美巣（エムスタイルジャパン株式会社）
株式会社福岡銀行
株式会社ふくや
フンドーキン醤油株式会社
株式会社ミズ
三井松島ホールディングス株式会社
三菱商事株式会社
株式会社安川電機
株式会社ロボカル　代表取締役　芦川泰彰

■ご助成いただいた皆様

公益財団法人福岡県市町村振興協会

■ご協力いただいた皆様

ＩＮ・ＣＯＭ株式会社
株式会社グローバルアリーナ
北九州市環境ミュージアム
公益財団法人 AFS 日本協会
佐賀県波戸岬少年自然の家
佐賀県立名護屋城博物館
JR 九州バス株式会社
茶苑「海月」
福岡県立少年自然の家「玄海の家」
水野旅館
宗像大社
メートプラザ佐賀
安川電機ロボット村
ロイヤルホテル宗像

Japan Future Leaders School
日本の次世代リーダー養成塾

〒107-0062 東京都港区南青山 5-12-28 メゾン南青山 403 号
tel 03-5466-0804　fax 03-5466-0842　mail info@leaderjuku.jp
https://leaderjuku.jp/